

糸魚川市男女共同参画に
関する市民アンケート結果概要

令和8年2月

糸魚川市

目 次

I 調査概要	・・・1
II 調査結果	
回答者の属性	・・・ 2
1 名称の認知度について	・・・ 7
2 男女共同参画社会の実現に必要なことについて	・・・ 9
3 男女平等・男女の役割意識について	・・・10
4 仕事・家庭の両立について	・・・23
5 あらゆる分野での女性の活躍について	・・・36
6 あらゆる暴力の根絶について	・・・38
7 市が重点を置くべき取組について	・・・49
8 男女のニーズに配慮した防災について	・・・50
◇ その他記載	・・・55
◇ 自由意見欄	・・・60
III 参考資料	
糸魚川市男女共同参画に関するアンケート	

I 調査概要

1 調査の目的

令和3年に策定した「いといがわ男女共同参画プラン」が令和8年度で最終年度となり、次期計画の策定が必要となることから、広く市民の男女共同参画に関する意識を調査する中で、現状や課題を把握し、新たなプラン及び行動計画に反映させるために市民アンケートを実施した。

2 調査方法

(1) 調査対象

令和7年10月1日現在、糸魚川市住民基本台帳に登録されている18歳以上の市民1,000人（男女各500人）

(2) 抽出方法

年代別に無作為抽出

(3) 調査方法

郵送又は回答フォームによる無記名アンケート方式

(4) 調査時期

令和7年11月10日（月）～令和7年11月30日（日）

3 回収状況

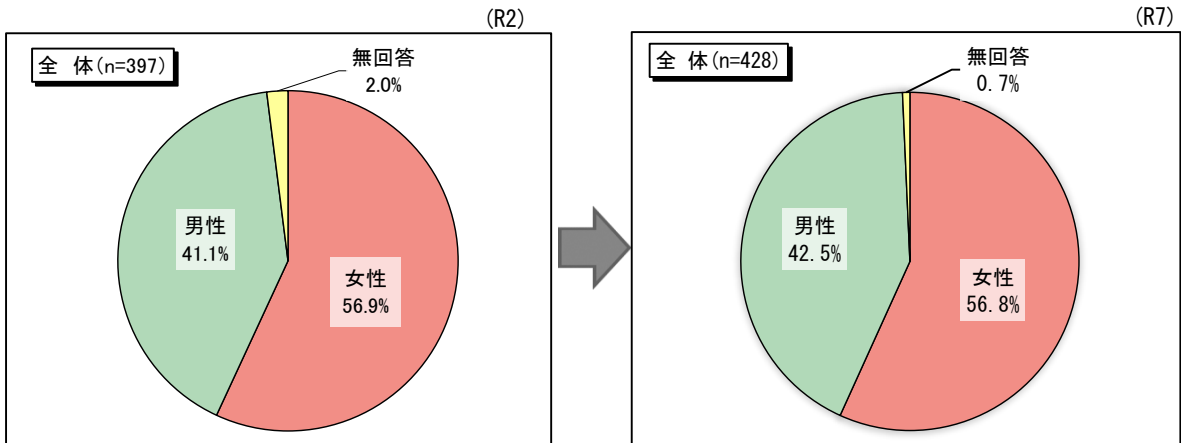
回収数 428件

回収率 42.8%

II 調査結果

<ご自身のことについて>

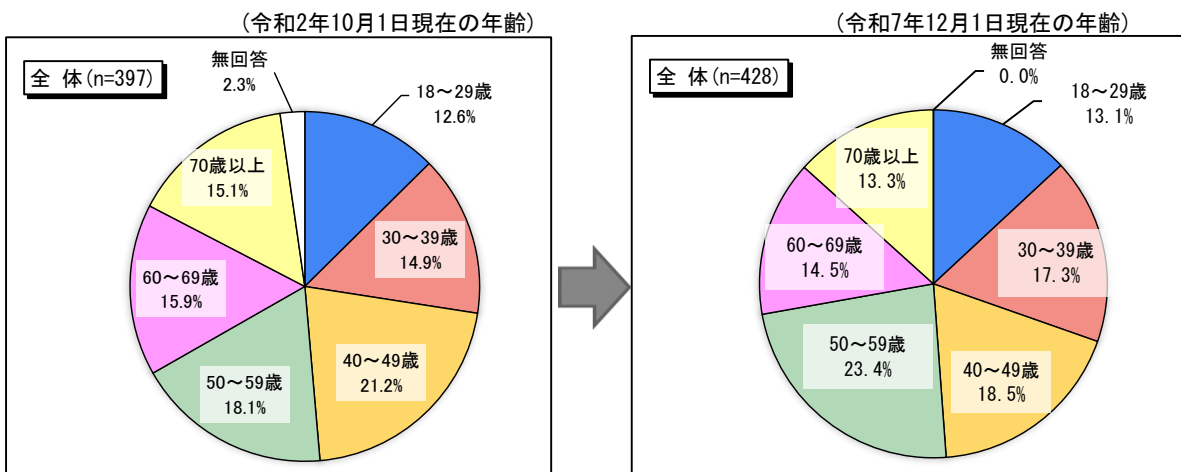
問1(1)性別 ※戸籍上の性別に関わらず、ご自身が自認される性別でご記入ください。



(R7)

性別	人数(人)	割合
女性	243	56.8%
男性	182	42.5%
無回答	3	0.7%
計	428	100.0%

問1(2)年齢

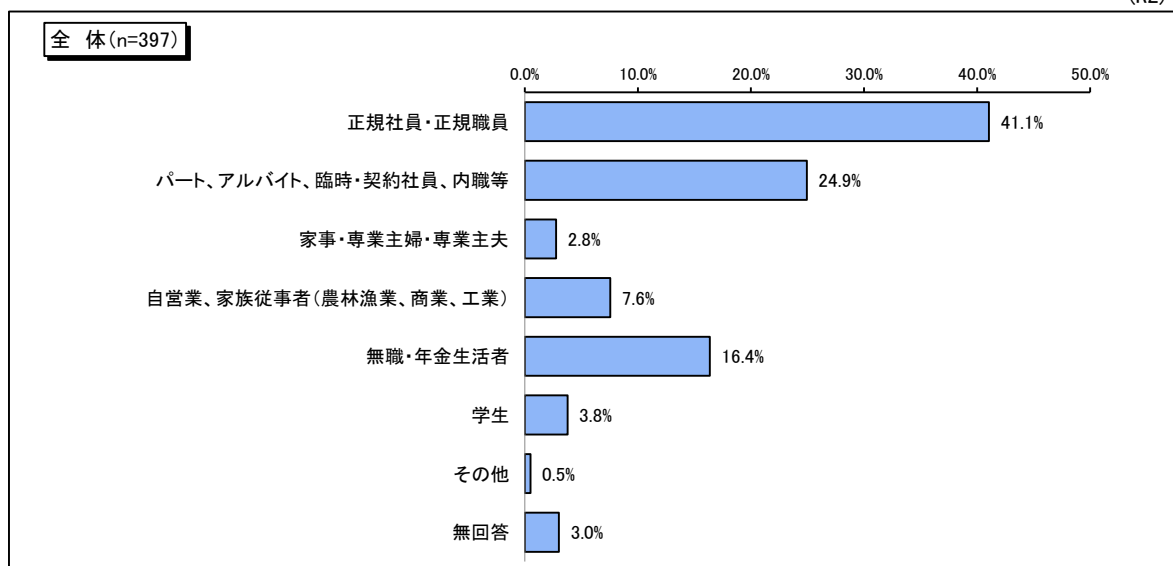


(R7)

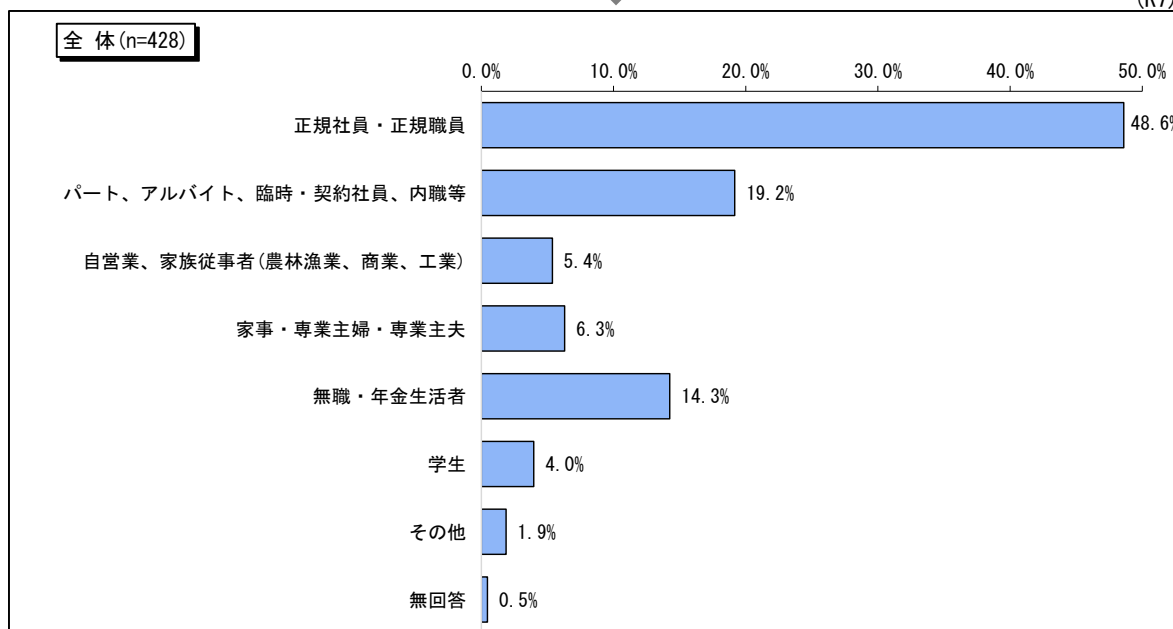
年代	人数(人)	割合
18~29歳	56	13.1%
30~39歳	74	17.3%
40~49歳	79	18.5%
50~59歳	100	23.4%
60~69歳	62	14.5%
70歳以上	57	13.3%
無回答	0	0.0%
計	428	100.0%

問1(3) 職業

(R2)



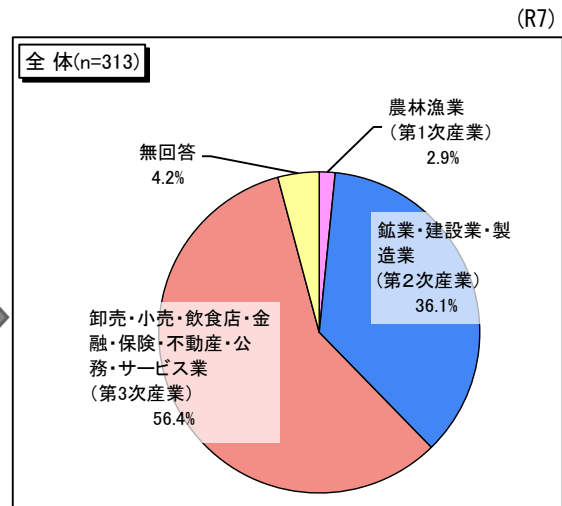
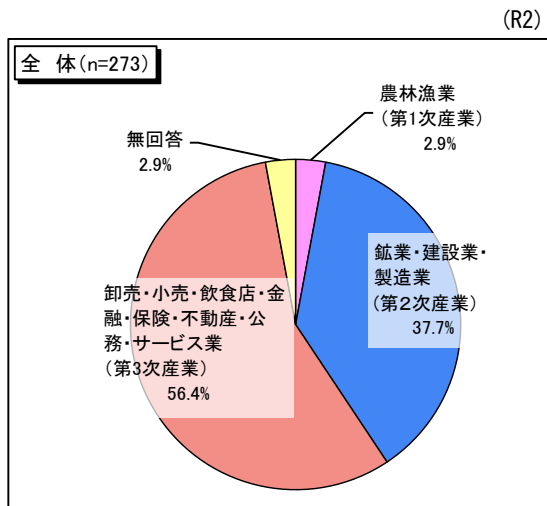
(R7)



(R7)

職業	人数(人)	割合
①正規社員・正規職員	208	48.6%
②パート、アルバイト、臨時・契約社員、内職等	82	19.2%
③自営業、家族従事者(農林漁業、商業、工業)	23	5.4%
④家事・専業主婦・専業主夫	27	6.3%
⑤無職・年金生活者	61	14.3%
⑥学生	17	4.0%
⑦その他	8	1.9%
無回答	2	0.5%
計	428	100.0%

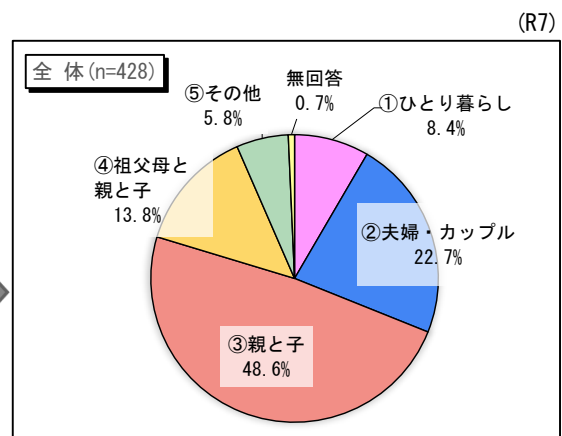
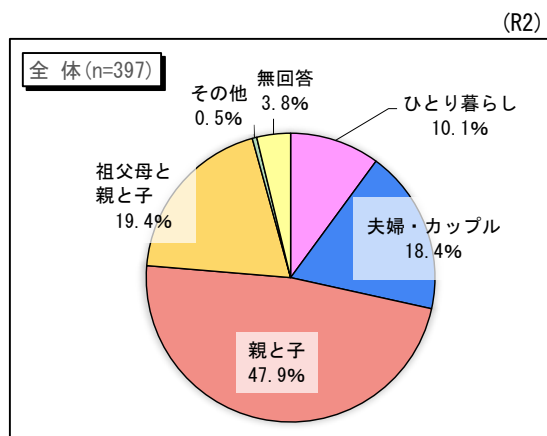
問1(3)-2 (3)で①、②、③と答えた方の職種



(R7)

職種(産業別)	人数(人)	割合
農林漁業(第1次産業)	5	1.6%
鉱業・建設業・製造業(第2次産業)	113	36.1%
卸売・小売・飲食店・金融・保険・不動産・公務・サービス業(第3次産業)	182	58.1%
無回答	13	4.2%
計	313	100.0%

問1(4) 家族構成



(R7)

家族構成口	人数(人)	割合
①ひとり暮らし	36	8.4%
②夫婦・カップル	97	22.7%
③親と子	208	48.6%
④祖父母と親と子(3世代以上)	59	13.8%
⑤その他	25	5.8%
無回答	3	0.7%
計	428	100.0%

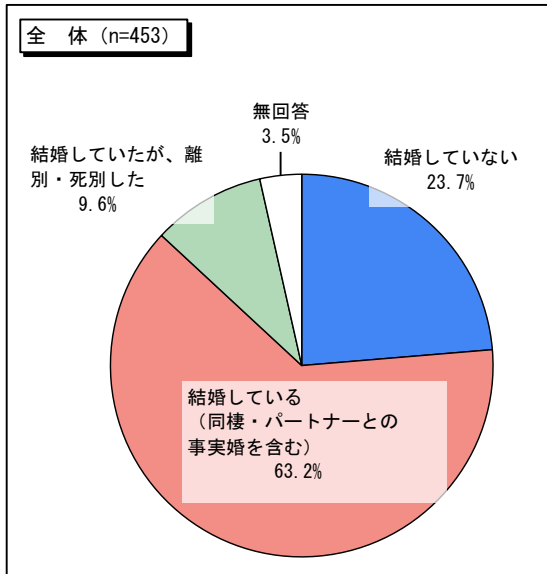
問1(4)-2 問1(4)で3、4と答えた方
世帯で最年少の方の年齢

(R7)

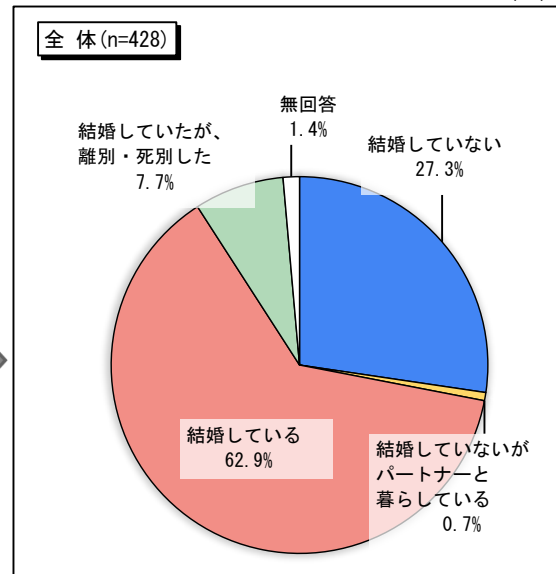
世帯最年少者の年齢口	人数(人)	割合
0~6歳(乳幼児)	41	15.4%
7~12歳(小学生)	34	12.7%
13~15歳(中学生)	21	7.9%
16~18歳(高校生・社会人など)	26	9.7%
19歳以上	130	48.7%
無回答	15	5.6%
計	267	100.0%

問1(5) 婚姻の状況

(R2)



(R7)

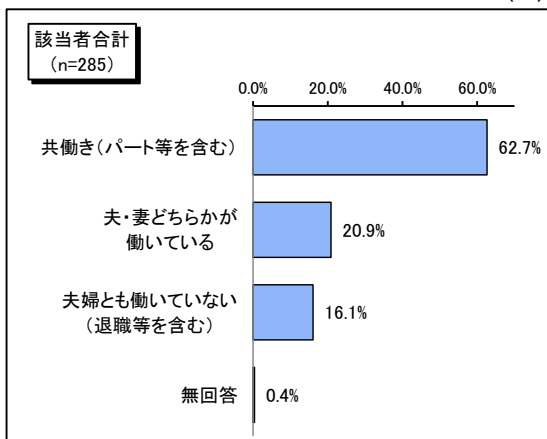


(R7)

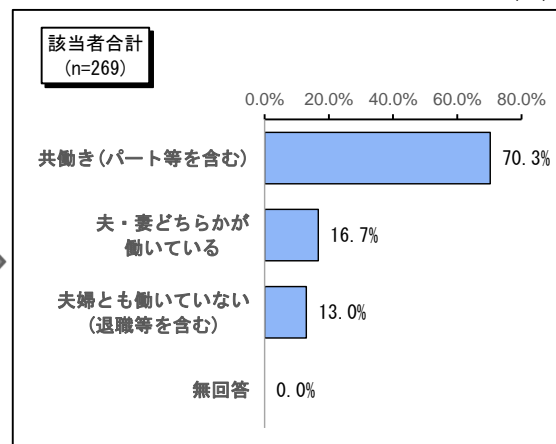
婚姻の状況	人数(人)	割合
①結婚していない	117	27.3%
②結婚していないが、パートナーと暮らしている	3	0.7%
③結婚している	269	62.9%
④結婚していたが、離別・死別した	33	7.7%
無回答	6	1.4%
計	428	100.0%

問1(5)-2 問1(5)で3と答えた方 共働きの有無

(R2)



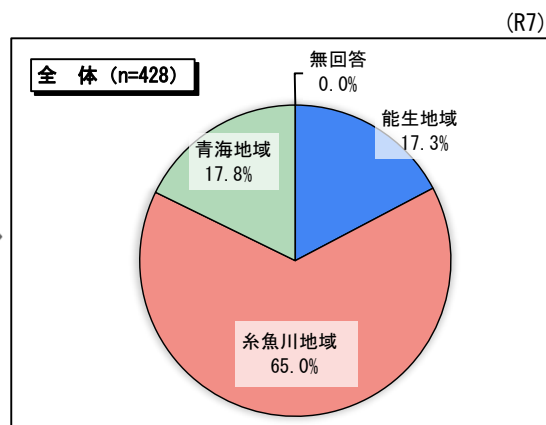
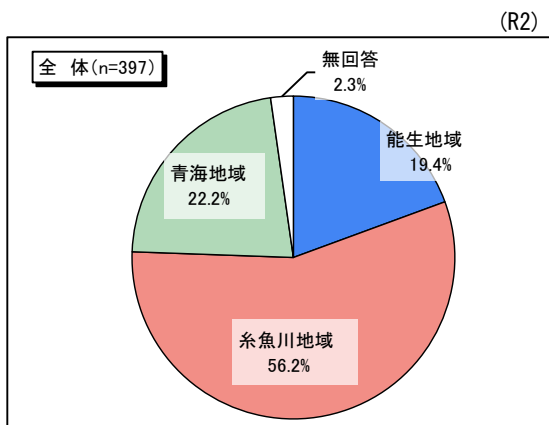
(R7)



(R7)

共働きの有無	人数(人)	割合
共働き(パート等を含む)	189	70.3%
夫・妻どちらかが働いている	45	16.7%
夫婦とも働いていない(退職等を含む)	35	13.0%
無回答	0	0.0%
計	269	100.0%

問1(6)居住地



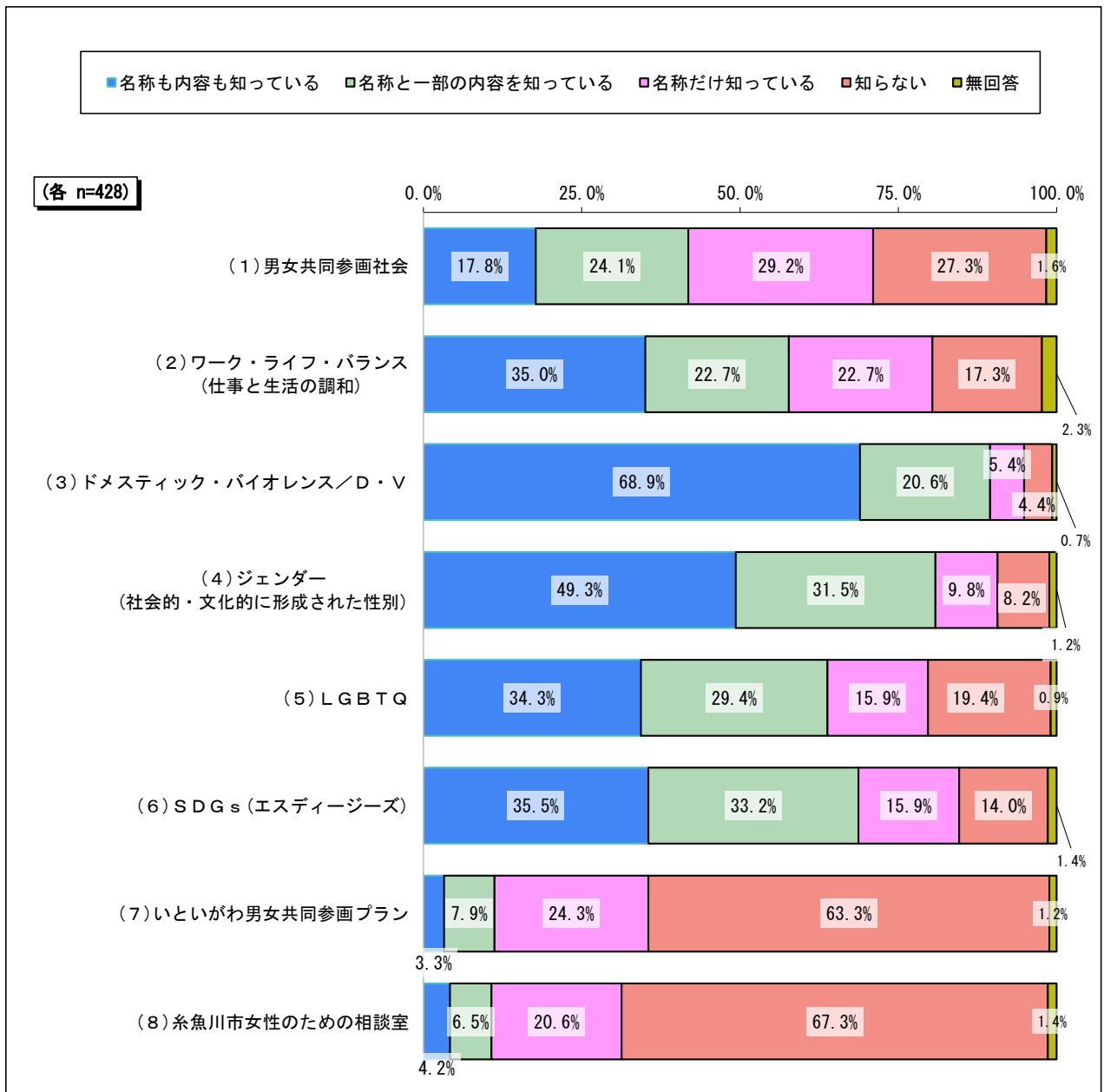
(R7)

地域	人数(人)	割合
能生地域	74	17.3%
糸魚川地域	278	65.0%
青海地域	76	17.8%
無回答	0	0.0%
計	428	100.0%

名称の認知度について

問2 あなたは、次の(1)～(8)までの名称をご存じですか。(それぞれ1つずつ)

- ・全体では「ドメスティック・バイオレンス/D・V」が68.9%と最も高く(R2は62.2%)、次いで「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」が49.3%(R2は30.5%)、「SDGs(エスディー・ジーズ)」が35.5%(R2は6.0%)で続く。
- ・「いといがわ男女共同参画プラン」以外はR2より認知度が上がっている。
- ・「知らない」の回答で高いのは、「糸魚川市女性のための相談室」67.3%、続いて「いといがわ男女共同参画プラン」63.3%となる。
- ・「いといがわ男女共同参画プラン」「糸魚川市女性のための相談室」の認知度が、「名称も内容も知っている」「名称と一部の内容を知っている」「名称だけ知っている」を合わせても35.5%、31.3%と低い。
- ・R2との比較では「知っている」の3項目合わせて、「いといがわ男女共同参画プラン」は0.7%上がり、「糸魚川市女性のための相談室」は6.5%下がった。

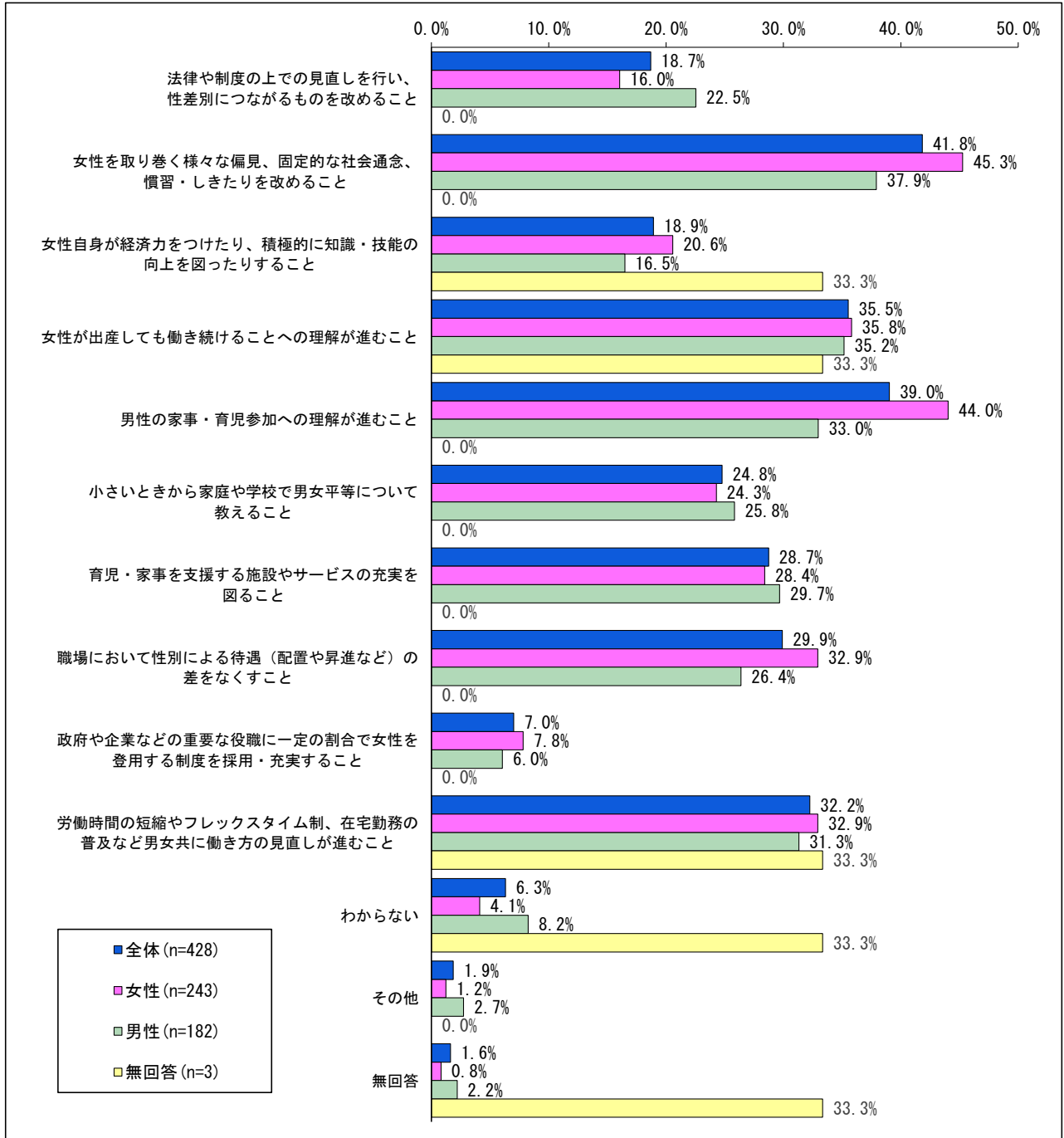


		計	名称も内容も知っている	名称と一部の内容を知っている	名称だけ知っている	知らない	無回答	名称も内容も知っている	名称と一部の内容を知っている	名称だけ知っている	知らない	無回答
(1) 男女共同参画社会	女性	243	43	59	68	70	3	17.7%	24.3%	28.0%	28.8%	1.2%
	男性	182	33	44	56	47	2	18.1%	24.2%	30.8%	25.8%	1.1%
	無回答	3	0	0	1	0	2	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%
	計	428	76	103	125	117	7	17.8%	24.1%	29.2%	27.3%	1.6%
(2) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	女性	243	84	55	56	44	4	34.6%	22.6%	23.0%	18.1%	1.6%
	男性	182	65	42	41	30	4	35.7%	23.1%	22.5%	16.5%	2.2%
	無回答	3	1	0	0	0	2	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%
	計	428	150	97	97	74	10	35.0%	22.7%	22.7%	17.3%	2.3%
(3) ドメスティック・バイオレンス/ D・V	女性	243	181	42	9	11	0	74.5%	17.3%	3.7%	4.5%	0.0%
	男性	182	114	45	14	8	1	62.6%	24.7%	7.7%	4.4%	0.5%
	無回答	3	0	1	0	0	2	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%
	計	428	295	88	23	19	3	68.9%	20.6%	5.4%	4.4%	0.7%
(4) ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)	女性	243	139	68	18	18	0	57.2%	28.0%	7.4%	7.4%	0.0%
	男性	182	72	66	24	17	3	39.6%	36.3%	13.2%	9.3%	1.6%
	無回答	3	0	1	0	0	2	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%
	計	428	211	135	42	35	5	49.3%	31.5%	9.8%	8.2%	1.2%
(5) L G B T Q	女性	243	94	71	34	43	1	38.7%	29.2%	14.0%	17.7%	0.4%
	男性	182	53	54	34	40	1	29.1%	29.7%	18.7%	22.0%	0.5%
	無回答	3	0	1	0	0	2	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%
	計	428	147	126	68	83	4	34.3%	29.4%	15.9%	19.4%	0.9%
(6) S D G s (エスディージーズ)	女性	243	95	73	38	35	2	39.1%	30.0%	15.6%	14.4%	0.8%
	男性	182	57	68	30	25	2	31.3%	37.4%	16.5%	13.7%	1.1%
	無回答	3	0	1	0	0	2	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%
	計	428	152	142	68	60	6	35.5%	33.2%	15.9%	14.0%	1.4%
(7) いといがわ男女共同参画プラン	女性	243	9	17	60	156	1	3.7%	7.0%	24.7%	64.2%	0.4%
	男性	182	5	17	44	113	3	2.7%	9.3%	24.2%	62.1%	1.6%
	無回答	3	0	0	0	2	1	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%
	計	428	14	34	104	271	5	3.3%	7.9%	24.3%	63.3%	1.2%
(8) 糸魚川市女性のための相談室	女性	243	15	21	61	145	1	6.2%	8.6%	25.1%	59.7%	0.4%
	男性	182	3	7	27	142	3	1.6%	3.8%	14.8%	78.0%	1.6%
	無回答	3	0	0	0	1	2	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
	計	428	18	28	88	288	6	4.2%	6.5%	20.6%	67.3%	1.4%

男女共同参画社会の実現について

問3 あなたは男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか(特に重要だと思ふものを3つ選択)

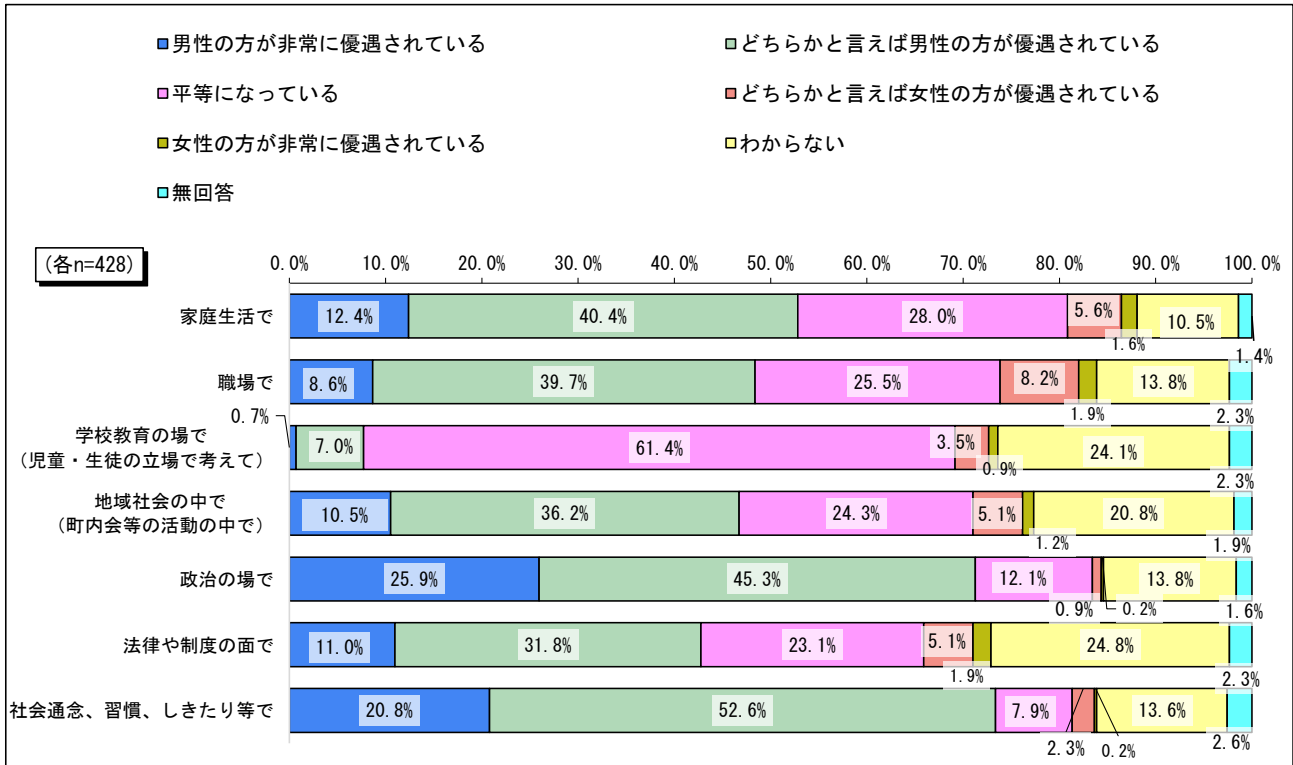
- ・「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が男女共に最も高い。(女性45.3%、男性37.9%)
- ・女性で2番目に高いのは、「男性の家事・育児参加への理解が進むこと」の44.0%、男性は「女性が出産しても働き続けることへの理解が進むこと」の35.2%となる。



問4 次の(1)～(8)の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(1つ選択)

「平等になっている」との回答が最も多いのは「学校教育の場で」の61.4%であった。

それ以外のすべての項目において、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」のポイントが高い。

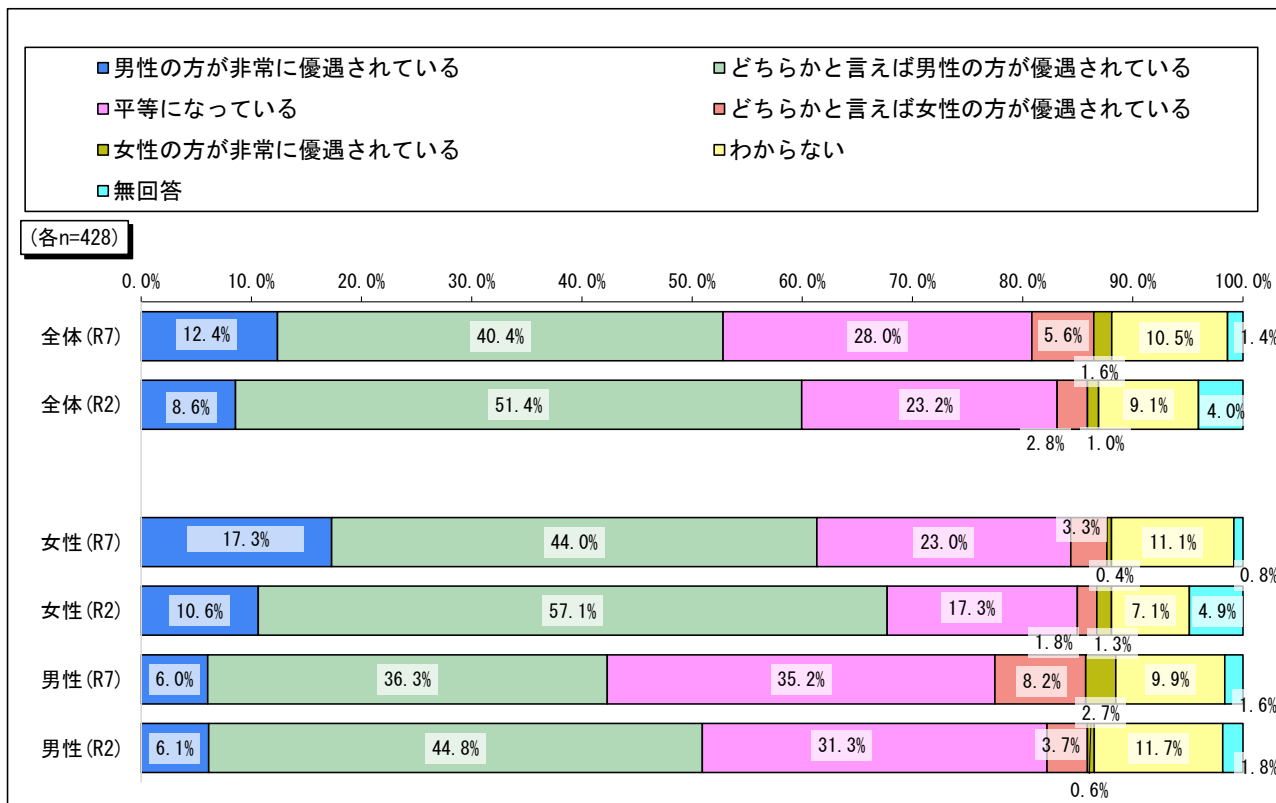


※()内の数値はR2アンケート

	男性の方が優遇 されている	女性の方が優遇 されている
(1) 家庭生活で	52.8% (59.9%)	7.2% (3.8%)
(2) 職場で	48.3% (41.9%)	10.1% (5.0%)
(3) 学校教育の場で (児童・生徒の立場で考えて)	7.7% (10.6%)	4.4% (3.3%)
(4) 地域社会の中で (町内会等の活動の中で)	46.7% (50.1%)	6.3% (5.5%)
(5) 政治の場で	71.3% (70.8%)	1.1% (1.5%)
(6) 法律や制度の面で	42.8% (48.9%)	7.0% (5.0%)
(7) 社会通念、習慣、しきたり等で	73.4% (74.3%)	2.5% (1.5%)

問4 (1)家庭生活で

男女ともに「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」のポイントが高い。
R2との比較では、「女性」が13.1%、「男性」では8.5%低くなった。

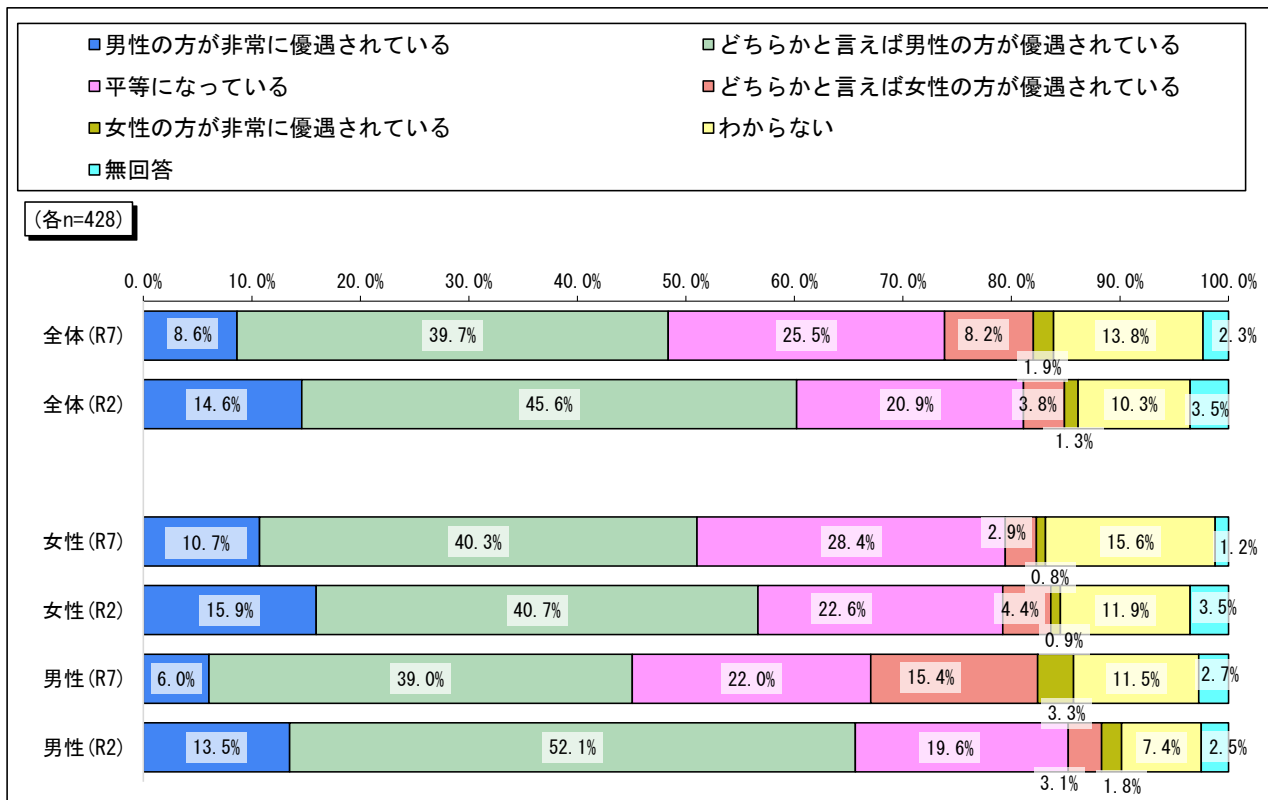


《年齢別》

	性別	年齢	男性の方が非常に優遇されている	どちらかと言えば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	分からない	無回答
女	女性	18-29歳 (n=34)	26.5%	32.4%	5.9%	0.0%	8.8%	0.0%	
		30-39歳 (n=38)	13.2%	31.6%	2.6%	0.0%	15.8%	0.0%	
		40-49歳 (n=48)	25.0%	16.7%	4.2%	0.0%	10.4%	0.0%	
		50-59歳 (n=56)	17.9%	23.2%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	
		60-69歳 (n=36)	8.3%	19.4%	2.8%	2.8%	16.7%	0.0%	
		70歳以上 (n=31)	9.7%	16.1%	6.5%	0.0%	12.9%	6.5%	
		n=243							
男	男性	18-29歳 (n=22)	0.0%	31.8%	13.6%	4.5%	13.6%	9.1%	
		30-39歳 (n=35)	0.0%	28.6%	11.4%	2.9%	14.3%	0.0%	
		40-49歳 (n=31)	16.1%	29.0%	3.2%	3.2%	9.7%	0.0%	
		50-59歳 (n=43)	9.3%	48.8%	11.6%	2.3%	7.0%	0.0%	
		60-69歳 (n=26)	3.8%	30.8%	0.0%	3.8%	11.5%	3.8%	
		70歳以上 (n=25)	4.0%	36.0%	8.0%	0.0%	4.0%	0.0%	
		n=182							
無回答	無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		30-39歳 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
n=3									

問4 (2)職場で

男女ともに「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」のポイントが高く、女性が40.3%、男性が39.0%となった。R2との比較では「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を合わせると、全体で11.9%高い。

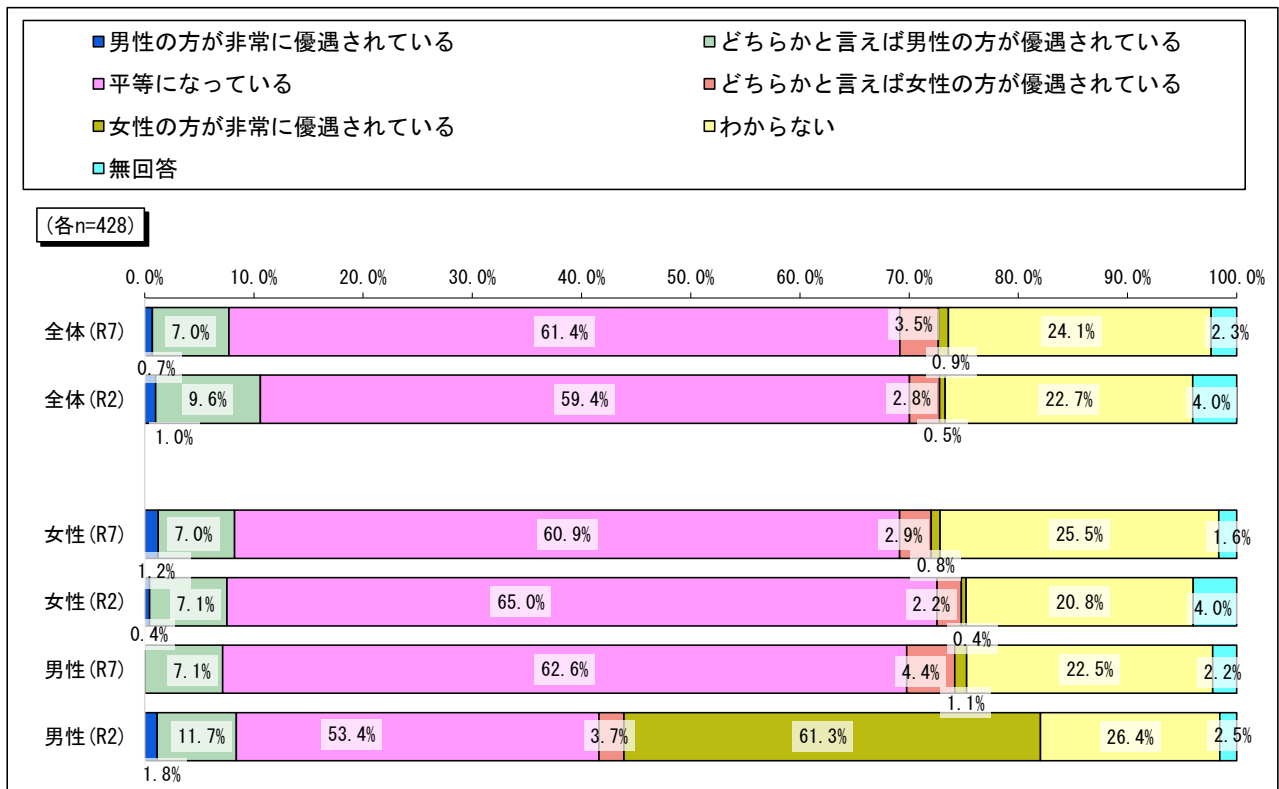


《年齢別》

性別	年齢	男性の方が非常に優遇されている	優遇されている	どちらかと言えば男性の方が優遇されている	平等になっている	優遇されている	どちらかと言えば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	分からない	無回答
		n=243								
女	18-29歳 (n=34)	5.9%	35.3%	23.5%	8.8%	2.9%	20.6%	2.9%		
	30-39歳 (n=38)	13.2%	34.2%	34.2%	2.6%	2.6%	13.2%	0.0%		
	40-49歳 (n=48)	12.5%	41.7%	35.4%	0.0%	0.0%	10.4%	0.0%		
	50-59歳 (n=56)	10.7%	50.0%	28.6%	3.6%	0.0%	7.1%	0.0%		
	60-69歳 (n=36)	8.3%	50.0%	30.6%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%		
	70歳以上 (n=31)	12.9%	22.6%	12.9%	3.2%	0.0%	41.9%	6.5%		
男	18-29歳 (n=22)	4.5%	27.3%	31.8%	9.1%	0.0%	18.2%	9.1%		
	30-39歳 (n=35)	2.9%	37.1%	25.7%	20.0%	0.0%	14.3%	0.0%		
	40-49歳 (n=31)	9.7%	35.5%	29.0%	12.9%	6.5%	3.2%	3.2%		
	50-59歳 (n=43)	7.0%	41.9%	20.9%	18.6%	7.0%	4.7%	0.0%		
	60-69歳 (n=26)	11.5%	38.5%	19.2%	15.4%	0.0%	7.7%	7.7%		
	70歳以上 (n=25)	0.0%	52.0%	4.0%	12.0%	4.0%	28.0%	0.0%		
無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	30-39歳 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
	60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		

問4 (3)学校教育の場で(児童・生徒の立場で考えて)

男女ともに「平等になっている」の回答率が60%を超えている。

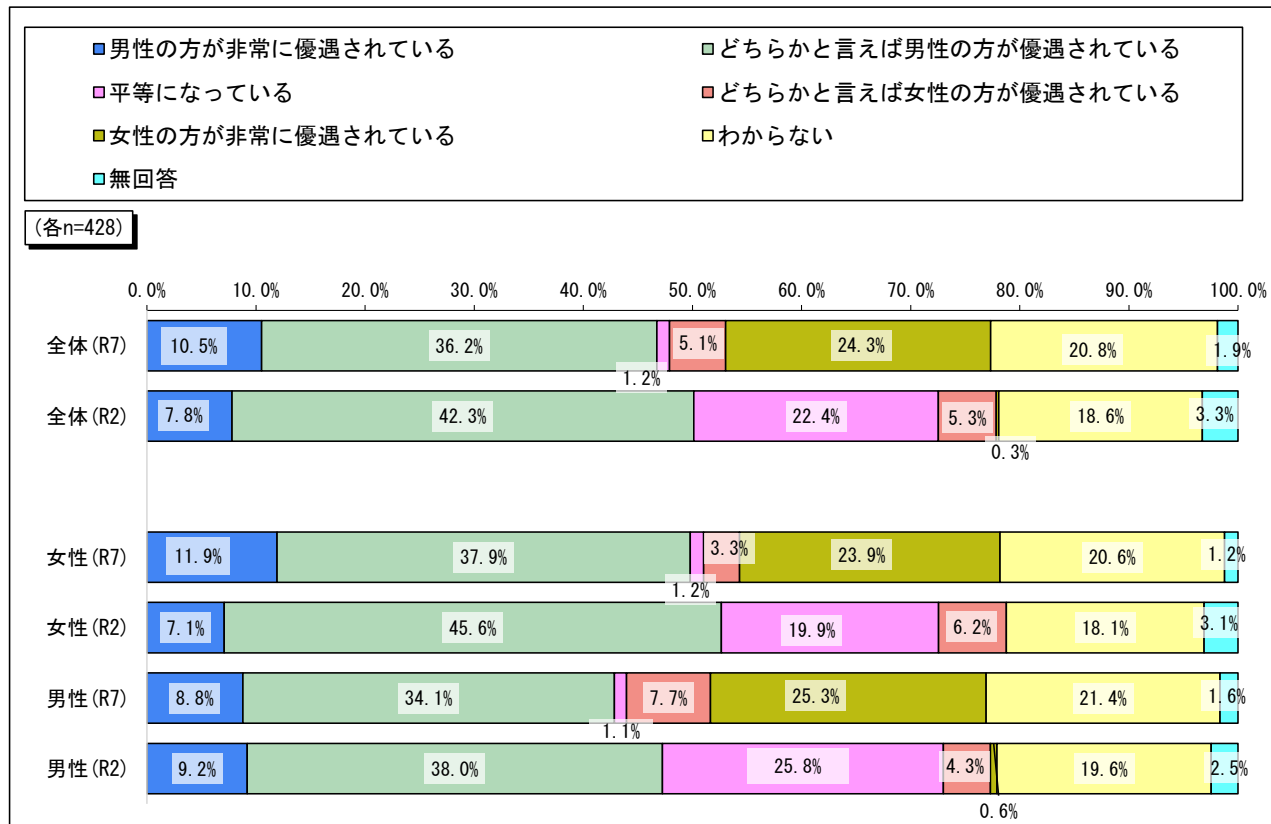


《年齢別》

性別	年齢	男性の方が非常に優遇されている	どちらかと言えば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
女	18-29歳 (n=34)	0.0%	8.8%	55.9%	8.8%	2.9%	23.5%	0.0%
	30-39歳 (n=38)	0.0%	0.0%	73.7%	0.0%	0.0%	26.3%	0.0%
	40-49歳 (n=48)	2.1%	12.5%	64.6%	2.1%	0.0%	18.8%	0.0%
	50-59歳 (n=56)	1.8%	5.4%	64.3%	1.8%	1.8%	23.2%	1.8%
	60-69歳 (n=36)	0.0%	11.1%	52.8%	2.8%	0.0%	33.3%	0.0%
	70歳以上 (n=31)	3.2%	3.2%	48.4%	3.2%	0.0%	32.3%	9.7%
男	18-29歳 (n=22)	0.0%	13.6%	54.5%	4.5%	4.5%	13.6%	9.1%
	30-39歳 (n=35)	0.0%	5.7%	57.1%	8.6%	0.0%	28.6%	0.0%
	40-49歳 (n=31)	0.0%	9.7%	67.7%	3.2%	0.0%	19.4%	0.0%
	50-59歳 (n=43)	0.0%	7.0%	62.8%	4.7%	0.0%	25.6%	0.0%
	60-69歳 (n=26)	0.0%	0.0%	69.2%	3.8%	0.0%	23.1%	3.8%
	70歳以上 (n=25)	0.0%	8.0%	64.0%	0.0%	4.0%	20.0%	4.0%
無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30-39歳 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

問4 (4) 地域社会の中で(町内会等の活動の中で)

「分からない」を除くと、男女ともに「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」のポイントが最も高い。
 「女性」の「18-29歳」において、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」が同率で26.5%となった。
 「男性」の「60-69歳」では「女性の方が非常に優遇されている」が38.5%で最も高い。

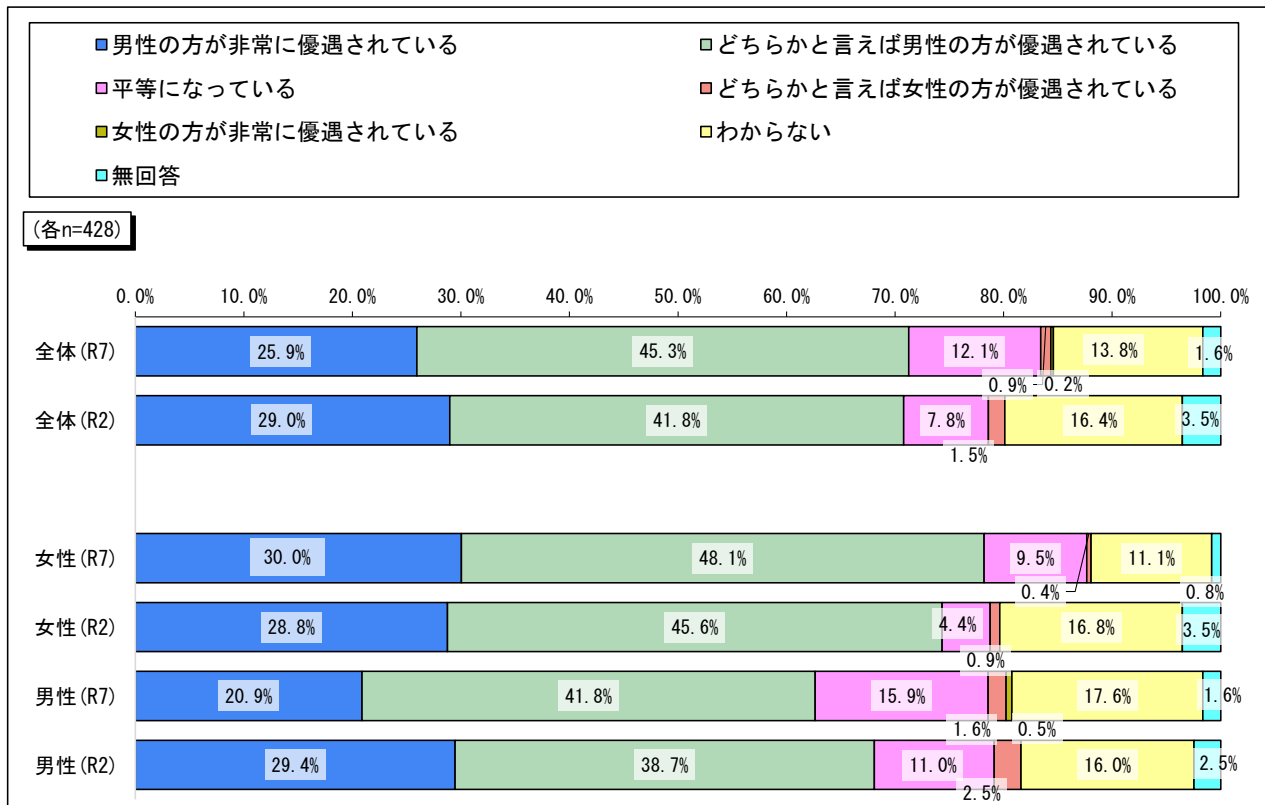


《年齢別》

性別	年齢	優遇されている						無回答
		男性の方が非常に	どちらかと言えば男性の方が	平等になっている	どちらかと言えば女性の方が	女性の方が非常に	分からない	
女	18-29歳 (n=34)	5.9%	26.5%	0.0%	2.9%	26.5%	38.2%	0.0%
	30-39歳 (n=38)	10.5%	42.1%	0.0%	5.3%	26.3%	15.8%	0.0%
	40-49歳 (n=48)	20.8%	41.7%	2.1%	4.2%	12.5%	18.8%	0.0%
	50-59歳 (n=56)	10.7%	39.3%	1.8%	3.6%	21.4%	19.6%	3.6%
	60-69歳 (n=36)	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	36.1%	13.9%	0.0%
	70歳以上 (n=31)	3.2%	41.9%	3.2%	3.2%	25.8%	19.4%	3.2%
	n=243							
男	18-29歳 (n=22)	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	27.3%	36.4%	9.1%
	30-39歳 (n=35)	8.6%	28.6%	0.0%	0.0%	22.9%	40.0%	0.0%
	40-49歳 (n=31)	19.4%	38.7%	3.2%	9.7%	12.9%	16.1%	0.0%
	50-59歳 (n=43)	4.7%	37.2%	0.0%	11.6%	27.9%	18.6%	0.0%
	60-69歳 (n=26)	3.8%	34.6%	0.0%	11.5%	38.5%	7.7%	3.8%
	70歳以上 (n=25)	8.0%	52.0%	4.0%	4.0%	24.0%	8.0%	0.0%
	n=182							
無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30-39歳 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
n=3								

問4 (5) 政治の場で

男女ともに「どちらかと言うと男性の方が優遇されている」のポイントが最も高く、それぞれ48.1%、41.8%となった。「男性の方が優遇されている」と「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を合わせると、「女性」は78.1%、「男性」は62.7%となり、R2より「女性」は3.7%高く、一方、「男性」は5.4%低くなっている。



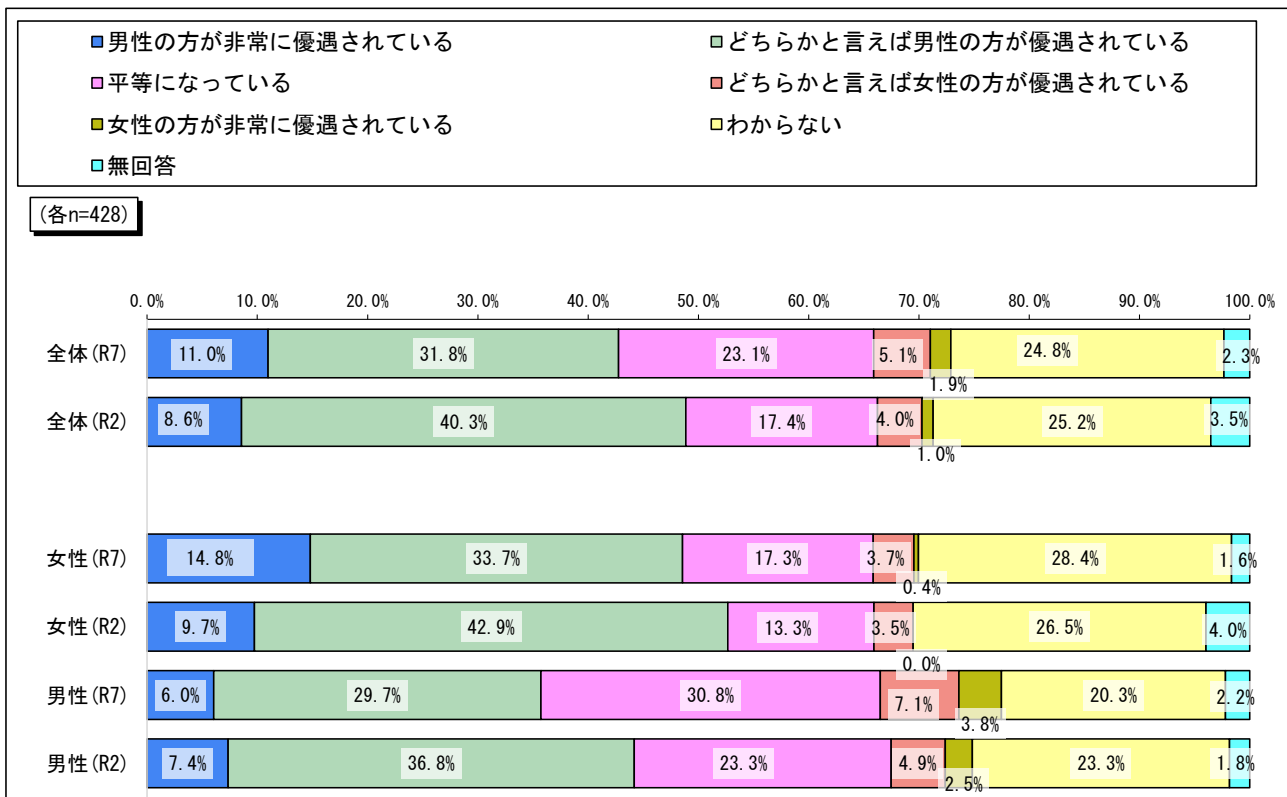
《年齢別》

性別	年齢	回答内容						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかと言えば男性の方が優遇されている	平等になっている	女性の方が優遇されている	どちらかと言えば女性の方が優遇されている	分からない	無回答
女性	18-29歳 (n=34)	26.5%	52.9%	8.8%	2.9%	0.0%	8.8%	0.0%
	30-39歳 (n=38)	34.2%	42.1%	7.9%	0.0%	0.0%	15.8%	0.0%
	40-49歳 (n=48)	39.6%	50.0%	8.3%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%
	50-59歳 (n=56)	25.0%	48.2%	10.7%	0.0%	0.0%	14.3%	1.8%
	60-69歳 (n=36)	22.2%	61.1%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%
	70歳以上 (n=31)	32.3%	32.3%	12.9%	0.0%	0.0%	19.4%	3.2%
	合計 (n=243)							
男性	18-29歳 (n=22)	18.2%	40.9%	9.1%	0.0%	0.0%	22.7%	9.1%
	30-39歳 (n=35)	17.1%	28.6%	22.9%	2.9%	0.0%	28.6%	0.0%
	40-49歳 (n=31)	35.5%	45.2%	6.5%	0.0%	3.2%	9.7%	0.0%
	50-59歳 (n=43)	18.6%	44.2%	16.3%	2.3%	0.0%	18.6%	0.0%
	60-69歳 (n=26)	11.5%	53.8%	23.1%	3.8%	0.0%	3.8%	3.8%
	70歳以上 (n=25)	24.0%	40.0%	16.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	合計 (n=182)							
無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30-39歳 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計 (n=3)								

問4 (6) 法律や制度の面で

「女性」は「どちらかと言うと男性の方が優遇されている」のポイントが33.7%で最も高く、「男性」は「平等になっている」の30.8%が最も高い。

年齢別では「分からない」を除き、「女性」はすべての年齢で「どちらかと言えば男性の方が優遇される」が最も高いが、「男性」は、「18-29歳」では「平等になっている」と「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」が同率で18.2%、「30-39歳」と「70歳以上」では「平等になっている」がそれぞれ34.3%、48.0%と最も高い。



《年齢別》

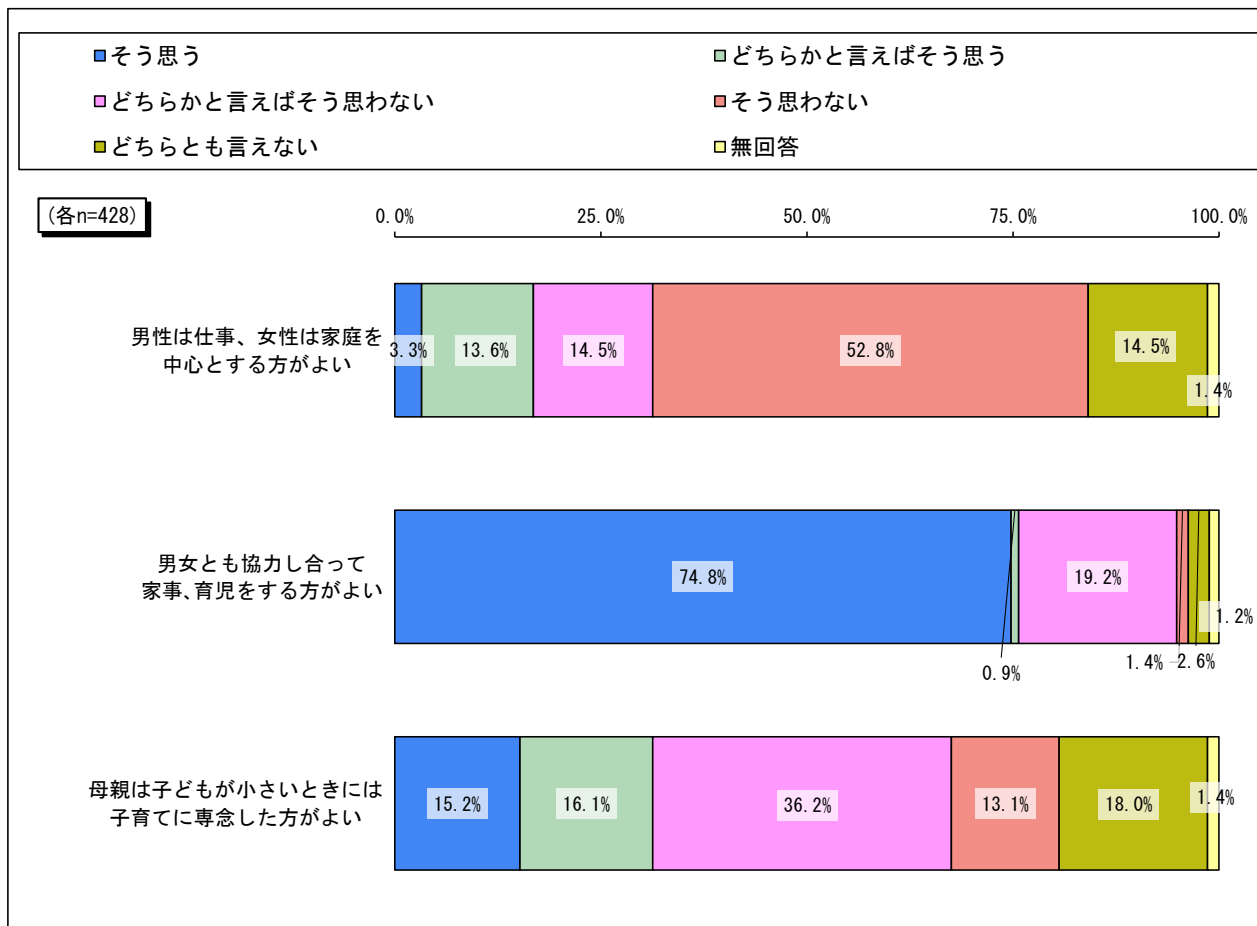
性別	年齢	n	男性の方が非常に優遇されている	優遇されている男性の方が	どちらかと言えば男性の方が	平等になっている	優遇されている女性の方が	どちらかと言えば女性の方が	女性の方が非常に優遇されている	分からない	無回答
			8.8%	35.3%	20.6%	0.0%	2.9%	32.4%	0.0%		
女	18-29歳	(n=34)	8.8%	35.3%	20.6%	0.0%	2.9%	32.4%	0.0%		
	30-39歳	(n=38)	15.8%	34.2%	15.8%	2.6%	0.0%	31.6%	0.0%		
	40-49歳	(n=48)	14.6%	33.3%	14.6%	8.3%	0.0%	29.2%	0.0%		
	50-59歳	(n=56)	17.9%	33.9%	17.9%	7.1%	0.0%	21.4%	1.8%		
	60-69歳	(n=36)	16.7%	30.6%	19.4%	0.0%	0.0%	30.6%	2.8%		
	70歳以上	(n=31)	12.9%	35.5%	16.1%	0.0%	0.0%	29.0%	6.5%		
男	18-29歳	(n=22)	13.6%	4.5%	18.2%	18.2%	0.0%	36.4%	9.1%		
	30-39歳	(n=35)	2.9%	17.1%	34.3%	14.3%	8.6%	22.9%	0.0%		
	40-49歳	(n=31)	12.9%	35.5%	19.4%	0.0%	12.9%	19.4%	0.0%		
	50-59歳	(n=43)	4.7%	39.5%	32.6%	9.3%	0.0%	14.0%	0.0%		
	60-69歳	(n=26)	3.8%	42.3%	30.8%	0.0%	0.0%	15.4%	7.7%		
	70歳以上	(n=25)	0.0%	32.0%	48.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%		
無回答	18-29歳	(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	30-39歳	(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	40-49歳	(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	50-59歳	(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
	60-69歳	(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	70歳以上	(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		

問5 次の(1)～(3)について、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつ〇)

「男性は仕事、女性は家庭を中心とする方がよい」について、「そう思う」(「そう思う」と「どちらかと言えばそう思うを合わせたもの、以降同じ)の回答は全体の16.8%で、R2の25.2%より8.4%低くなった。

「男女とも協力し合って家事、育児をする方がよい」について、「そう思う」との回答は全体の75.7%で、R2の94.5%より18.8%低かった。

「母親は子どもが小さいときには子育てに専念した方がよい」について、「そう思う」との回答は全体の31.3%で、R2の56.9%より25.6%低かった。



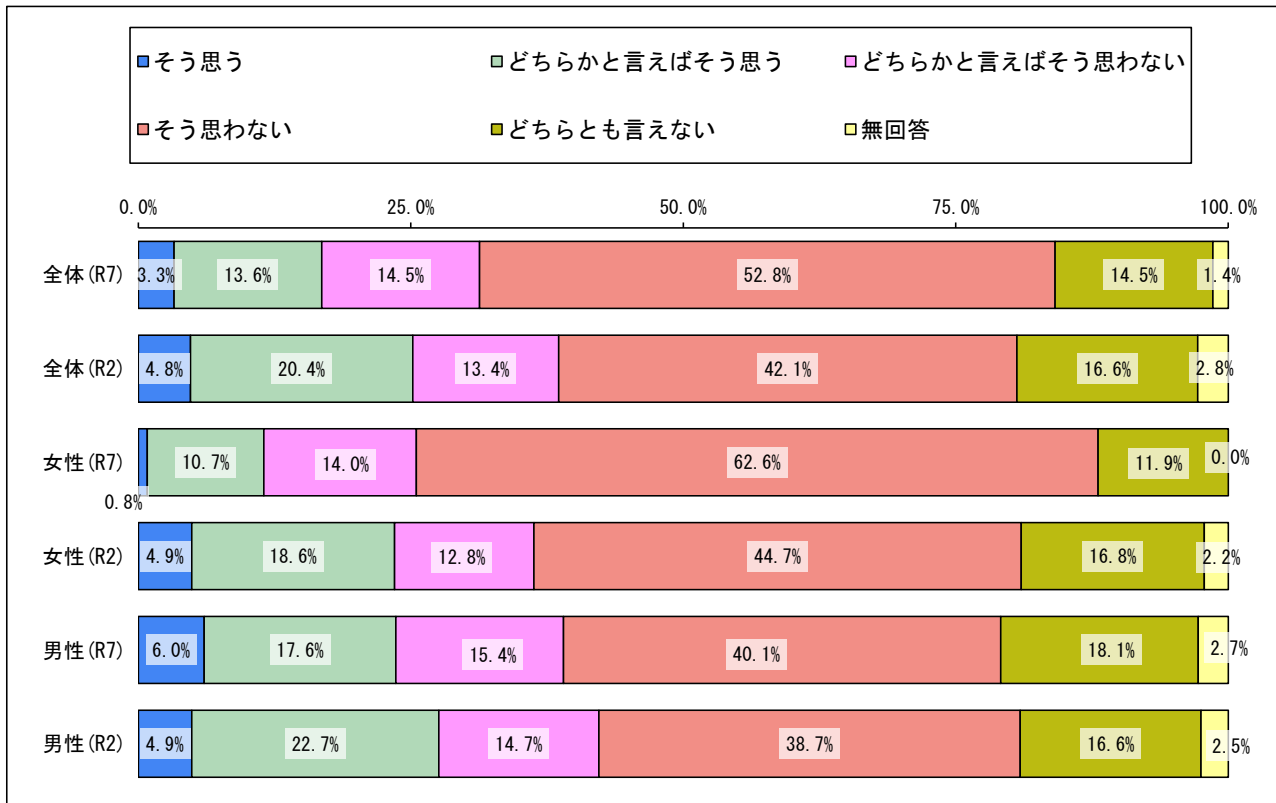
※()内の数値はR2アンケート

	そう思う	そう思わない
(1) 男性は仕事、女性は家庭を中心とする方がよい	16.8% (25.2%)	67.3% (55.4%)
(2) 男女とも協力し合って家事、育児をする方がよい	75.7% (94.5%)	20.6% (0.8%)
(3) 母親は子どもが小さいときには子育てに専念した方がよい	31.3% (56.9%)	49.3% (27.0%)

問5 (1) 男性は仕事、女性は家庭を中心とする方がよい

「そう思わない」のポイントが男女ともにすべての年代で最も高い。

「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせると67.3%で、R2の55.5%より11.8%高い。



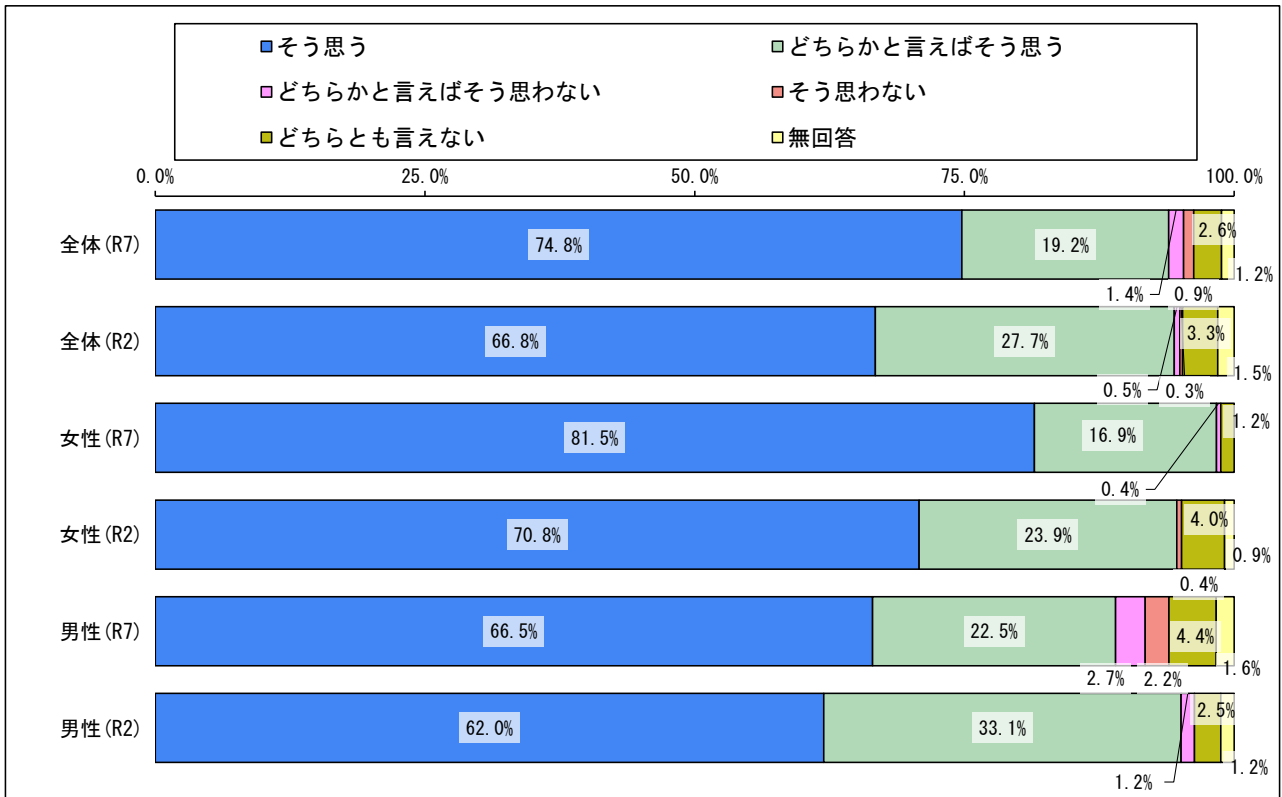
《年齢別》

性別	年齢	調査					無回答
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	どちらとも言いえない	
女	18-29歳 (n=34)	0.0%	5.9%	14.7%	70.6%	8.8%	0.0%
	30-39歳 (n=38)	0.0%	7.9%	15.8%	65.8%	10.5%	0.0%
	40-49歳 (n=48)	2.1%	10.4%	12.5%	64.6%	10.4%	0.0%
	50-59歳 (n=56)	0.0%	12.5%	12.5%	62.5%	12.5%	0.0%
	60-69歳 (n=36)	2.8%	13.9%	13.9%	58.3%	11.1%	0.0%
	70歳以上 (n=31)	0.0%	12.9%	16.1%	51.6%	19.4%	0.0%
	n=243						
男	18-29歳 (n=22)	0.0%	0.0%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%
	30-39歳 (n=35)	8.6%	14.3%	11.4%	40.0%	20.0%	5.7%
	40-49歳 (n=31)	3.2%	19.4%	9.7%	41.9%	25.8%	0.0%
	50-59歳 (n=43)	7.0%	23.3%	18.6%	32.6%	18.6%	0.0%
	60-69歳 (n=26)	3.8%	19.2%	19.2%	38.5%	15.4%	3.8%
	70歳以上 (n=25)	12.0%	24.0%	8.0%	48.0%	8.0%	0.0%
	n=182						
無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30-39歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	n=3						

問5 (2)男女とも協力し合って家事、育児をする方がよい

「そう思う」のポイントが全体の74.8%で、「どちらかと言えばそう思う」を合わせると94.0%と高い。

特に年齢別では、「女性」・「男性」とも29歳以下が最も高く、「そう思う」が「女性」で91.2%、「どちらかと言えばそう思う」を合わせると100%になり、「男性」は「そう思う」が86.4%、「どちらかと言えばそう思う」を合わせると90.9%となる。

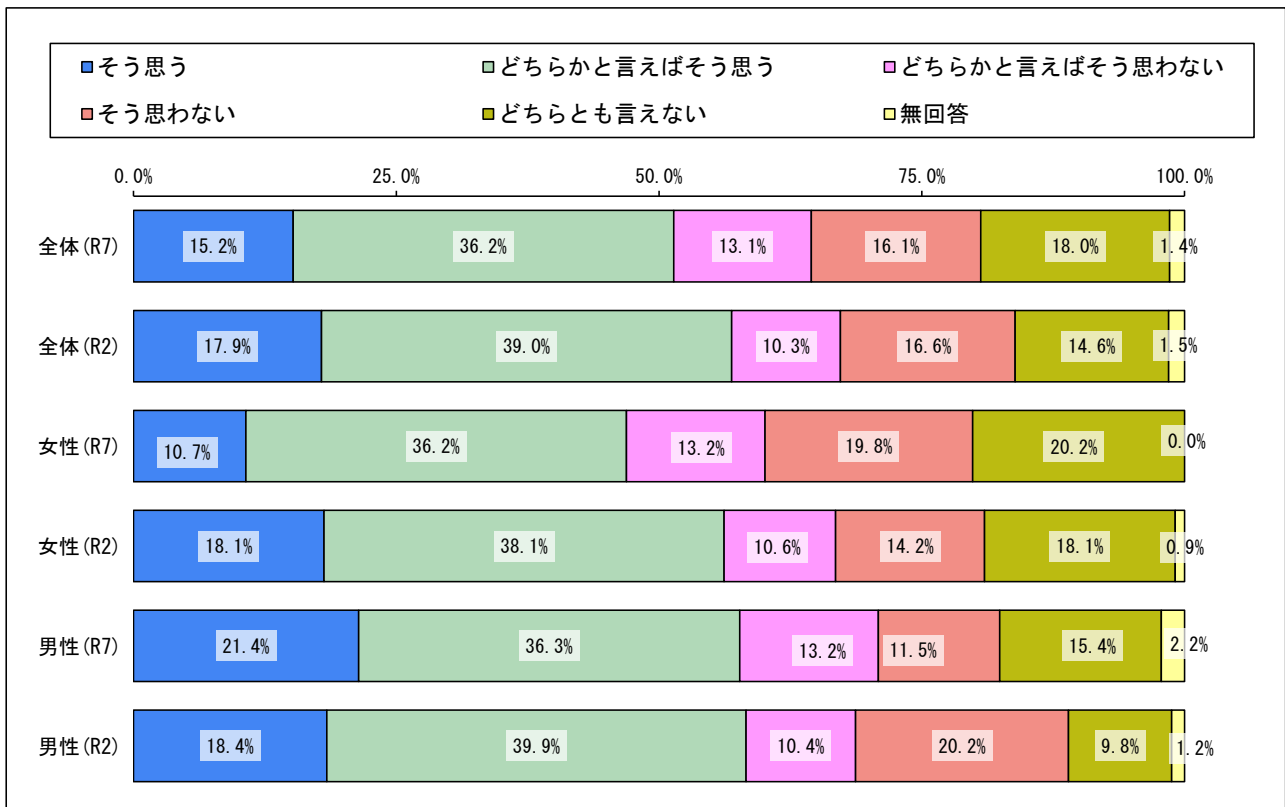


《年齢別》

	性別	年齢	回答					
			そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	無回答
女	性	18-29歳 (n=34)	91.2%	8.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		30-39歳 (n=38)	84.2%	13.2%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%
		40-49歳 (n=48)	89.6%	10.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		50-59歳 (n=56)	80.4%	17.9%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
		60-69歳 (n=36)	69.4%	30.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		70歳以上 (n=31)	71.0%	22.6%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%
		n=243						
男	性	18-29歳 (n=22)	86.4%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
		30-39歳 (n=35)	77.1%	17.1%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		40-49歳 (n=31)	64.5%	25.8%	0.0%	0.0%	9.7%	0.0%
		50-59歳 (n=43)	58.1%	27.9%	2.3%	7.0%	4.7%	0.0%
		60-69歳 (n=26)	65.4%	23.1%	3.8%	0.0%	3.8%	3.8%
		70歳以上 (n=25)	52.0%	32.0%	4.0%	4.0%	8.0%	0.0%
		n=182						
無回答	答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		30-39歳 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
n=3								

問5 (3) 母親は、子どもが小さいときには子育てに専念した方がよい

全体では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると51.4%で、R2の56.9%より5.5%下がった。
性別では「女性」46.9%、「男性」57.7%で、「男性」が10.8%高かった。



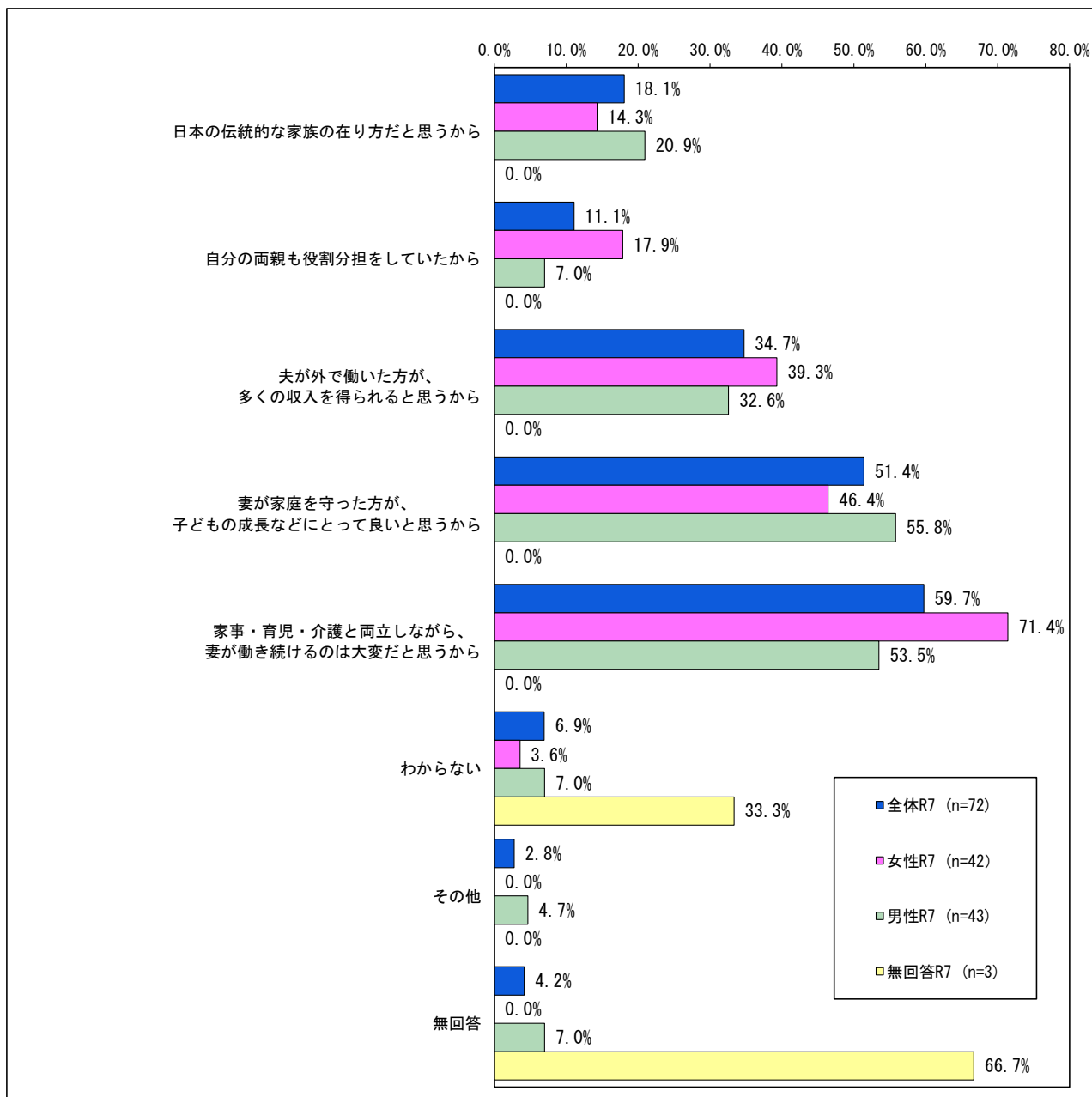
《年齢別》

性別	年齢	回答					
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	無回答
女	18-29歳 (n=34)	8.8%	38.2%	23.5%	5.9%	23.5%	0.0%
	30-39歳 (n=38)	10.5%	28.9%	5.3%	34.2%	21.1%	0.0%
	40-49歳 (n=48)	8.3%	43.8%	6.3%	22.9%	18.8%	0.0%
	50-59歳 (n=56)	12.5%	35.7%	12.5%	19.6%	19.6%	0.0%
	60-69歳 (n=36)	11.1%	36.1%	19.4%	11.1%	22.2%	0.0%
	70歳以上 (n=31)	12.9%	32.3%	16.1%	22.6%	16.1%	0.0%
	n=243						
男	18-29歳 (n=22)	13.6%	22.7%	18.2%	18.2%	18.2%	9.1%
	30-39歳 (n=35)	17.1%	31.4%	17.1%	8.6%	22.9%	2.9%
	40-49歳 (n=31)	22.6%	32.3%	12.9%	12.9%	19.4%	0.0%
	50-59歳 (n=43)	25.6%	39.5%	7.0%	16.3%	11.6%	0.0%
	60-69歳 (n=26)	19.2%	57.7%	11.5%	0.0%	7.7%	3.8%
	70歳以上 (n=25)	28.0%	32.0%	16.0%	12.0%	12.0%	0.0%
	n=182						
無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30-39歳 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	n=3						

※問5 (1)で「1 そう思う」または「2 どちらかと言えばそう思う」と答えた方におたずねします。

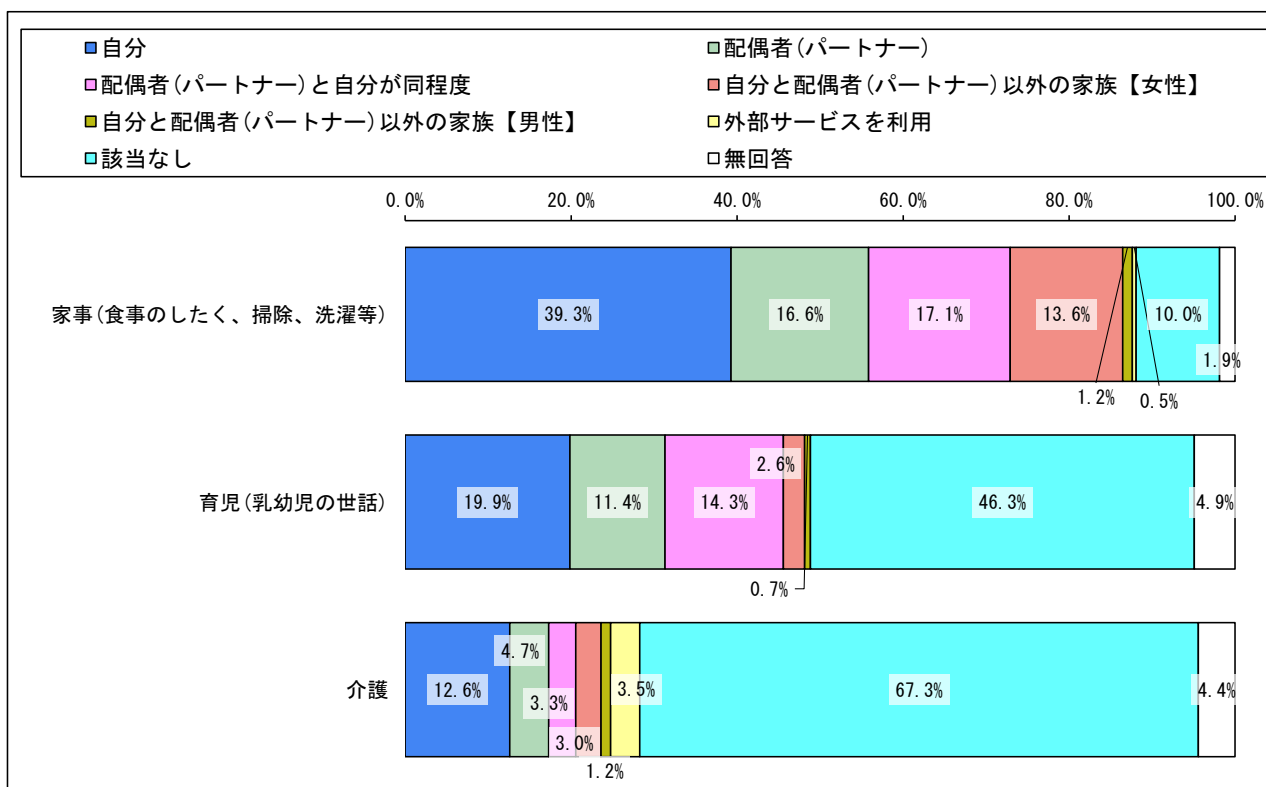
問6 「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けるのは大変だと思うから」が59.7%で最も高い。
特に女性は71.4%と突出して高い。



問7 あなたの家庭では、家事、育児、介護は、主にどなたが担当していますか。(1つ選択)

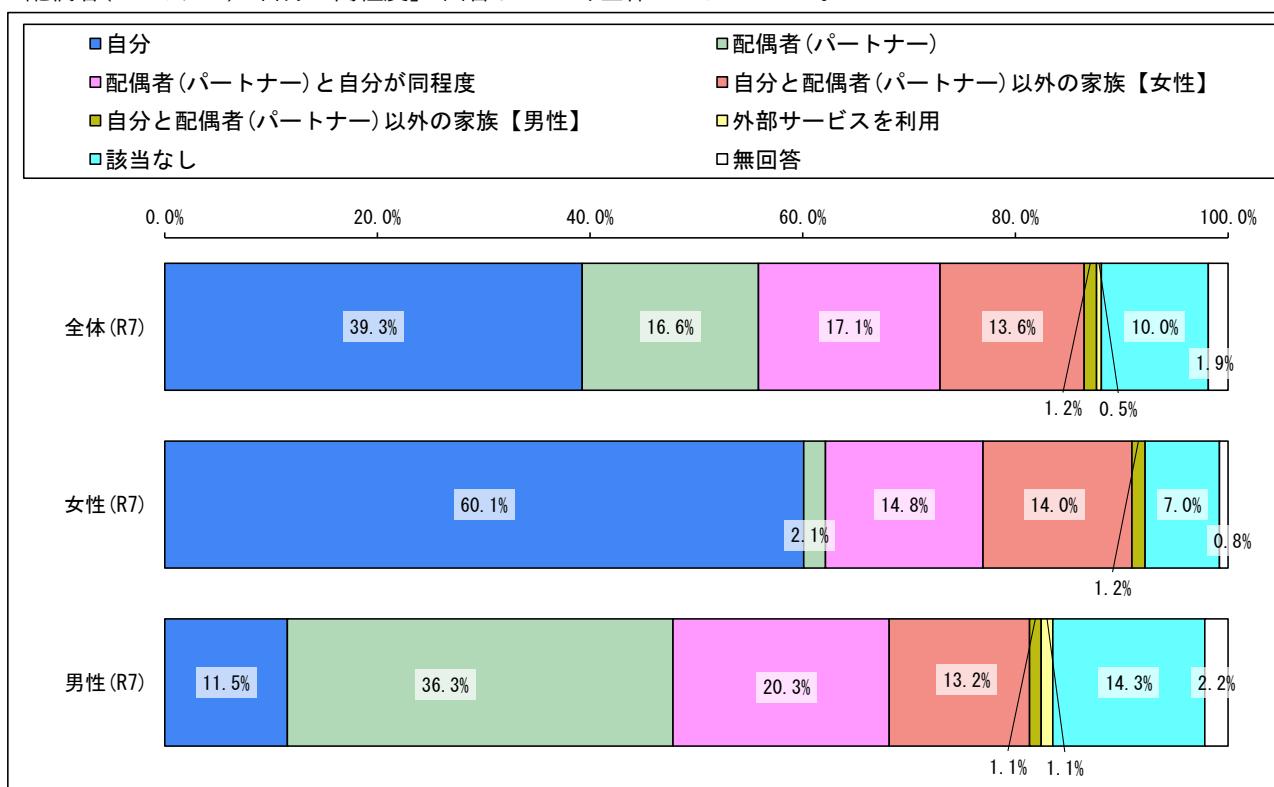
「家事(食事のしたく、掃除、洗濯等)」については、「自分」の回答が39.3%と最も高い。



問7 (1) 家事(食事のしたく、掃除、洗濯等)

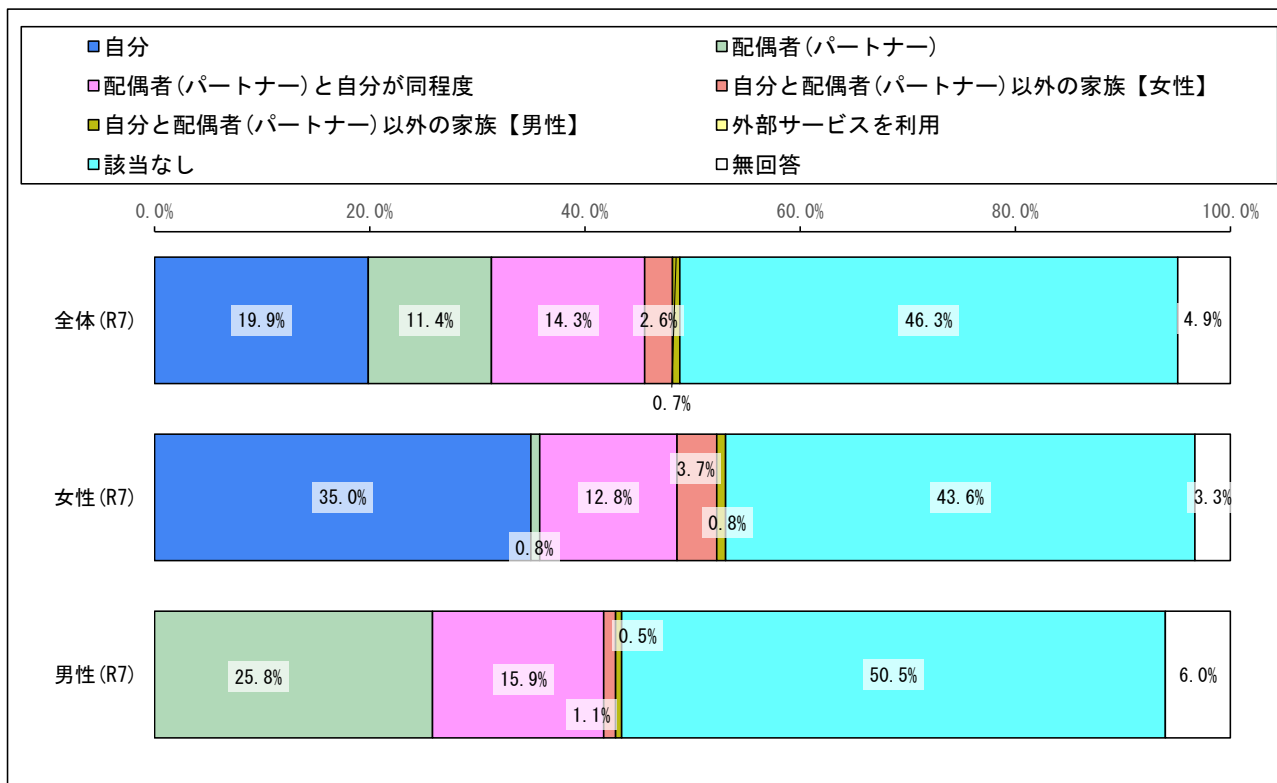
「女性」が「自分」と回答した割合が60.1%であるのに対し、「男性」は11.5%と低い。

「配偶者(パートナー)と自分が同程度」と回答したのは、全体で17.1%だった。



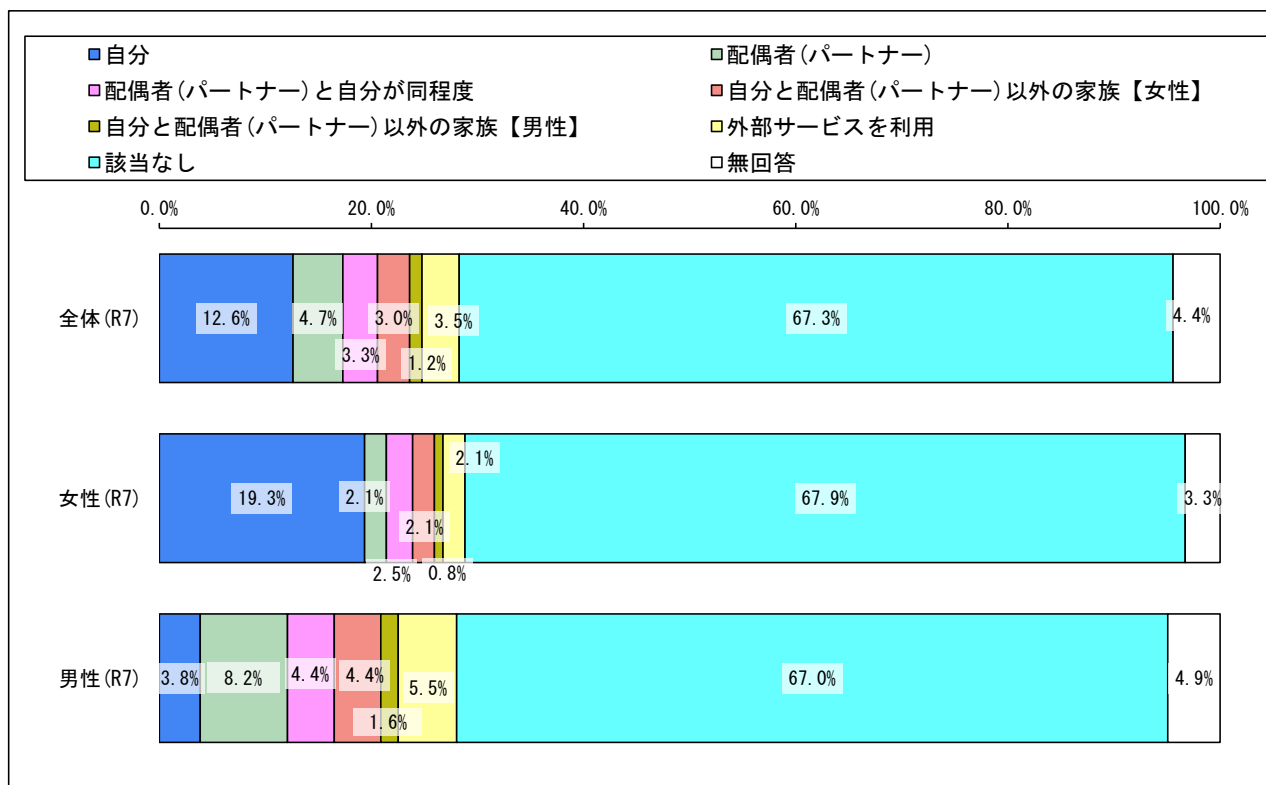
問7 (2) 育児(乳幼児の世話)

「女性」が「自分」と回答した割合が35.0%に対し、「男性」は0.0%である。「男性」の0.0%はR2と同様である。



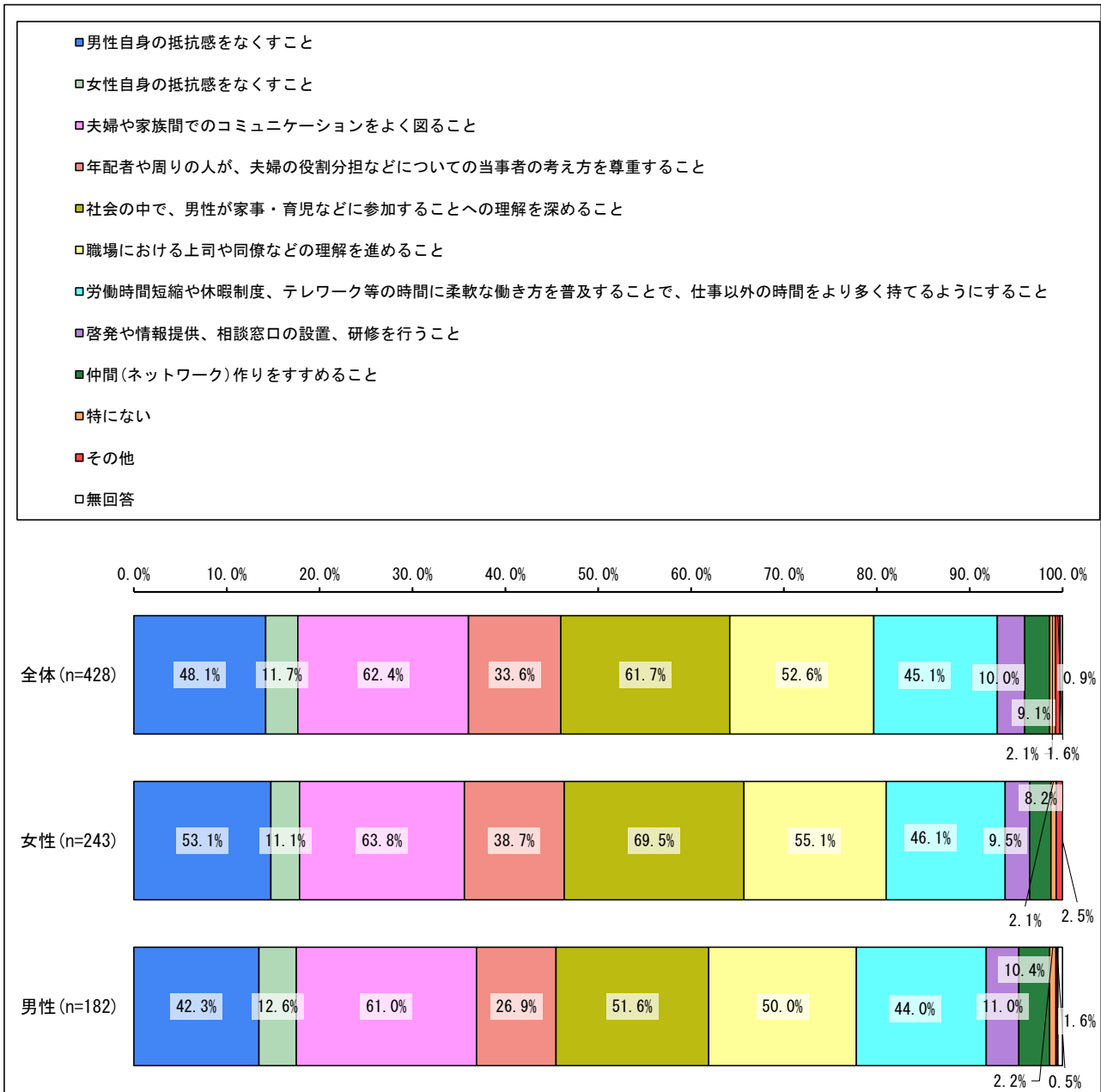
問7 (3) 介護

「女性」が「自分」と回答した割合が19.3%に対し、「男性」が3.8%で、15.5%低い。



問8 男性が家事、育児、介護などに積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(選択はいくつでも)

「女性」では「社会の中で、男性が家事・育児などに参加することへの理解を深めること」が69.5%で最も高い。
「男性」では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が61.0%と最も高い。



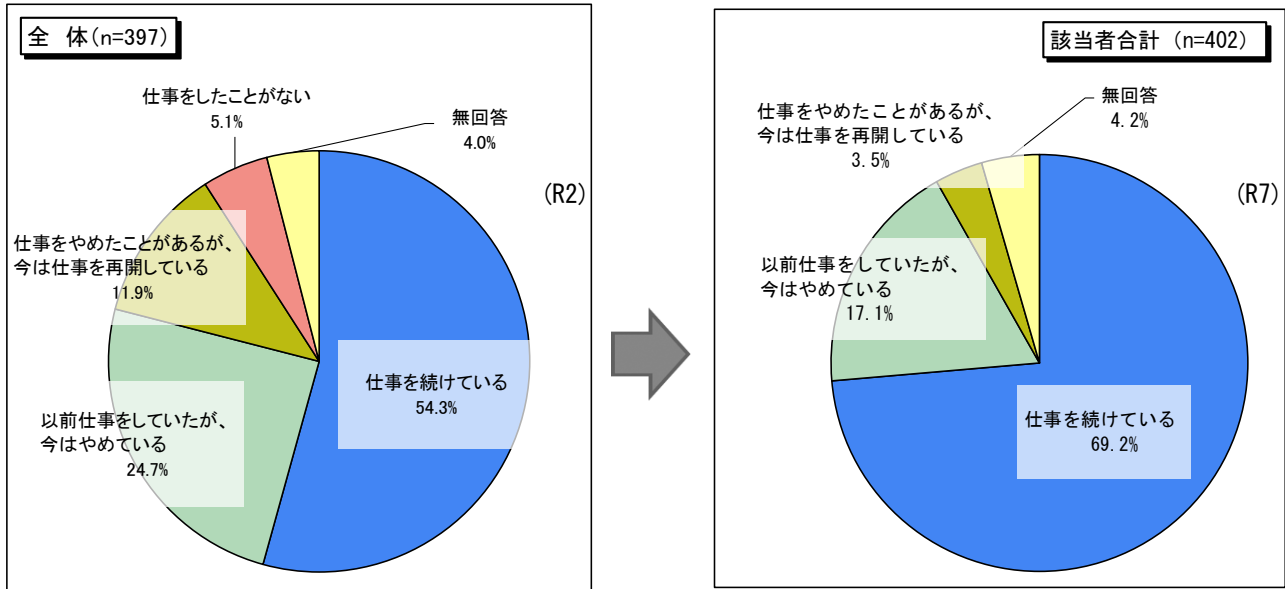
問9から問24までは「糸魚川市女性活躍推進計画」に関する設問です。

問9から問22までは、現在働いている方および以前働いていたことがある方におたずねします。それ以外の方は問23へお進みください。

問9 現在のお仕事の状況についてお聞かせください。(1つ選択)

「仕事を続けている」のポイントは69.2%で、R2より14.9%高くなった。

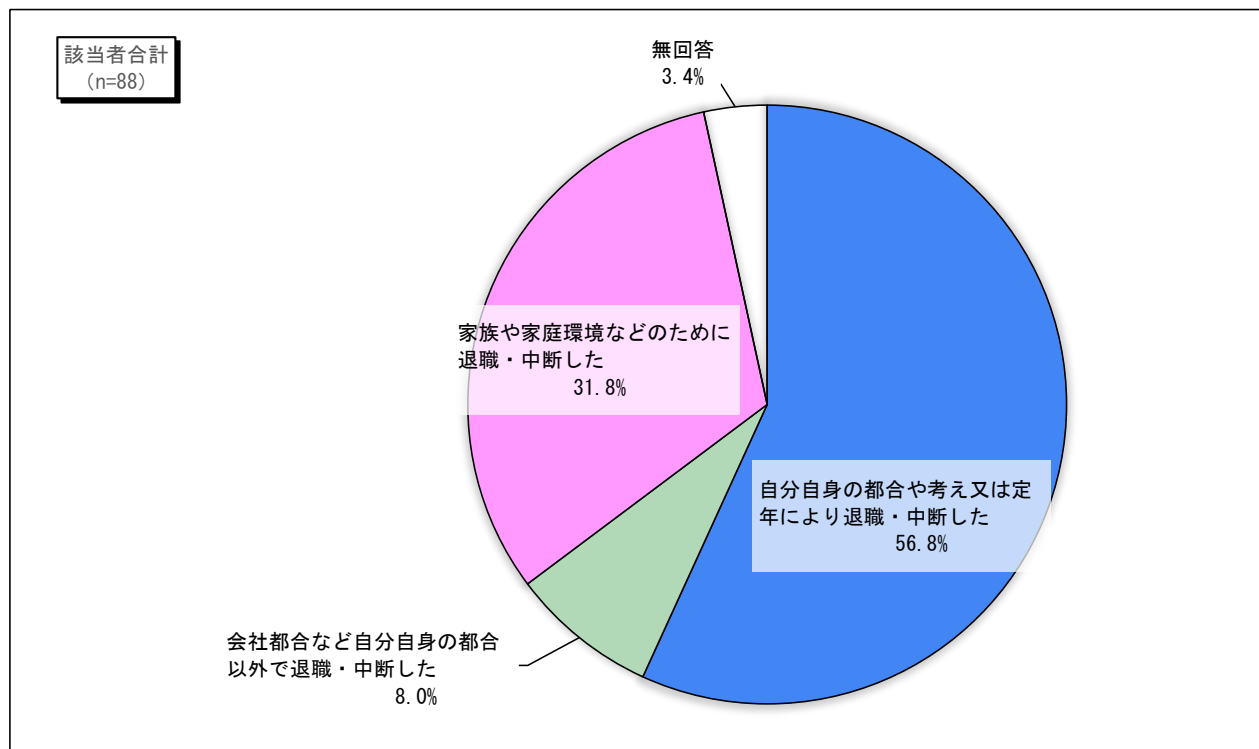
「以前仕事をしていましたが、今はやめている」は17.1%で、この順位はR2と同様である。



仕事の状況	人数(人)	割合 (%)
1 仕事を続けている	296	69.2%
2 以前仕事をしていましたが、今はやめている	73	17.1%
3 仕事をやめたことがあるが、今は再開している	15	3.5%
無回答	18	4.2%

問10 問9で(2)または(3)と答えた方におたずねします。仕事をやめた(中断した)理由をお選びください。(1つ選択)

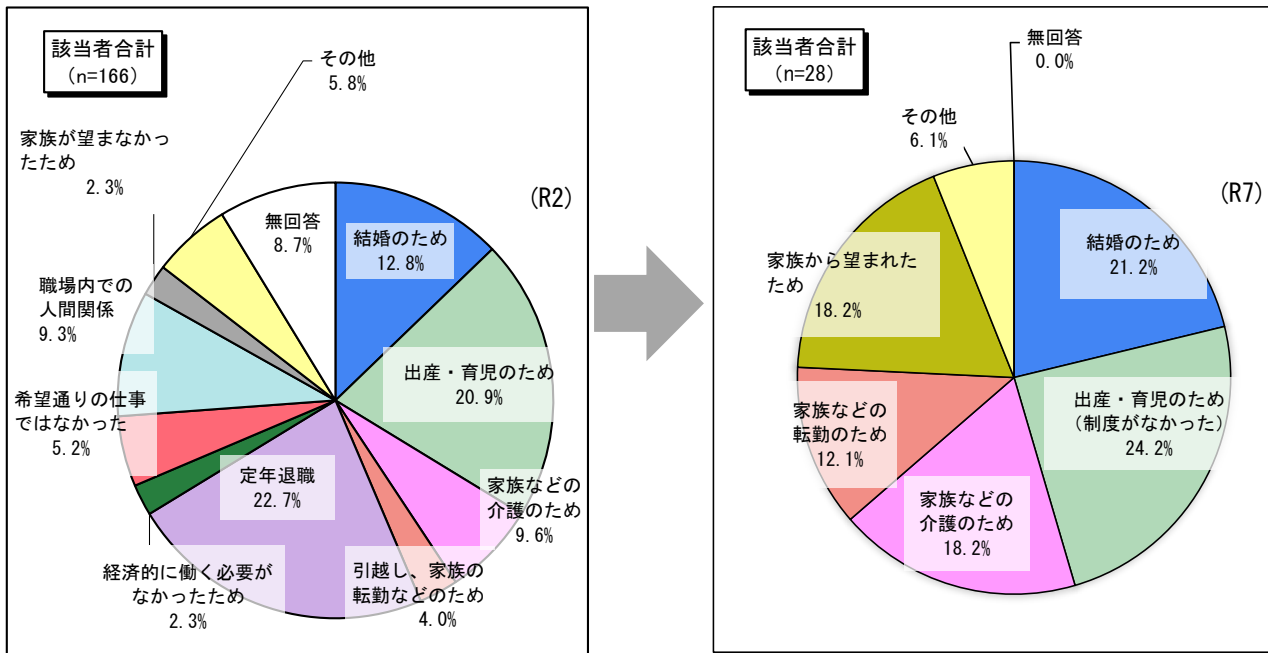
「自分自身の考え又は定年により退職・中断した」が56.8%と最も高い。
次に「家族や家庭環境などのために退職・中断した」が31.8%と続く。



仕事の中断(辞めた)理由	人数(人)	割合(%)
1 自分自身の都合や考え又は定年により退職・中断した	50	56.8%
2 会社都合など自分自身の都合以外で退職・中断した	7	8.0%
3 家族や家庭環境などのために退職・中断した	28	31.8%
無回答	3	3.4%

問11 問10で(3)と答えた方におたずねします。その具体的な理由をお聞かせください。(選択はいくつでも)

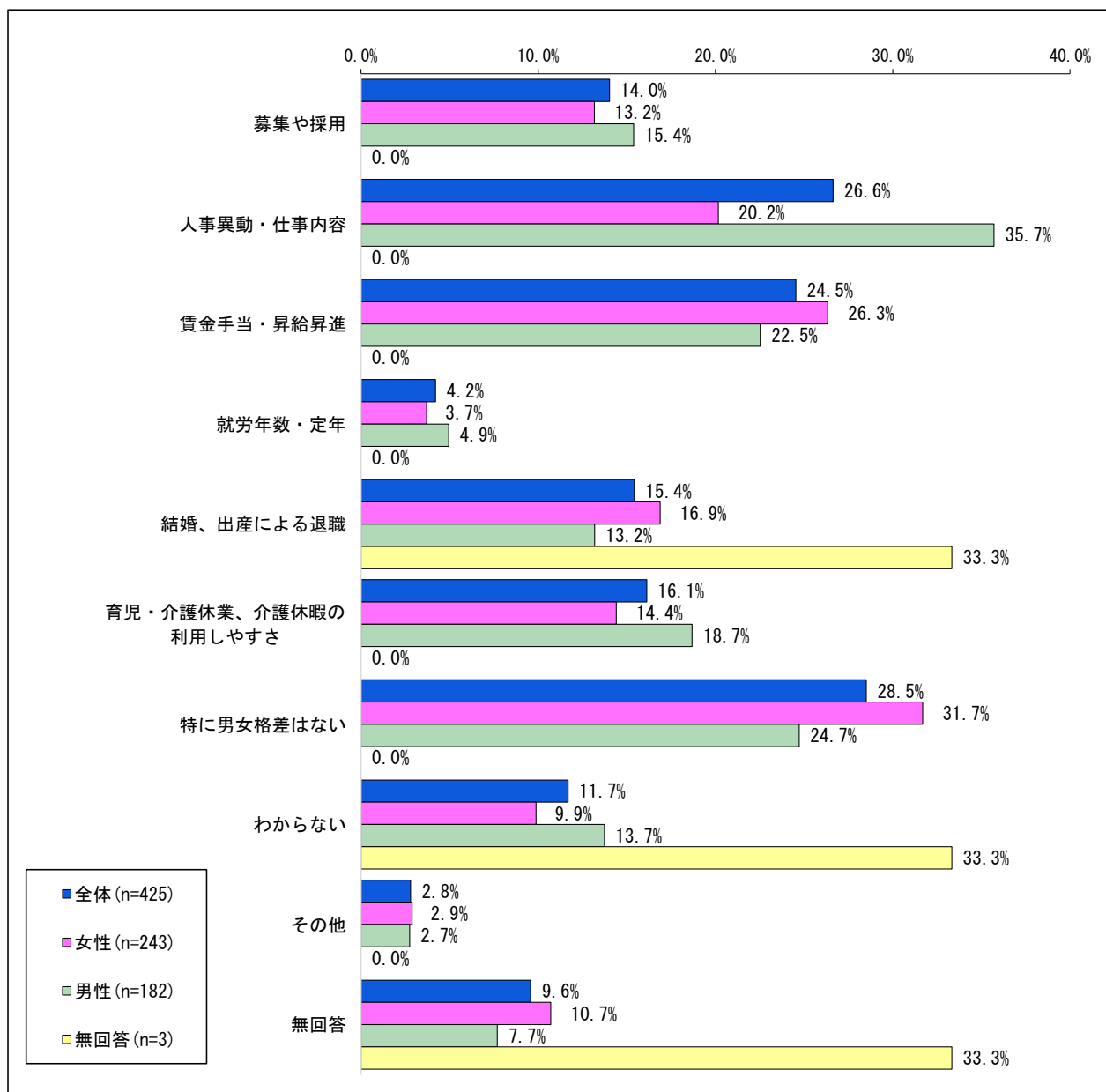
「出産・育児のため(制度がなかった)」の24.2%が最も高い。



仕事の中断(辞めた)理由	人数(人)	割合(%)
結婚のため	7	21.2%
出産・育児のため(制度がなかった)	8	24.2%
家族などの介護のため	6	18.2%
家族などの転勤のため	4	12.1%
家族から望まれたため	6	18.2%
その他	2	6.1%
定年退職	項目廃止	
経済的に働く必要がなかったため	項目廃止	
希望通りの仕事ではなかった	項目廃止	
職場内での人間関係	項目廃止	
家族が望まなかったため	項目廃止	
無回答	0	0.0%

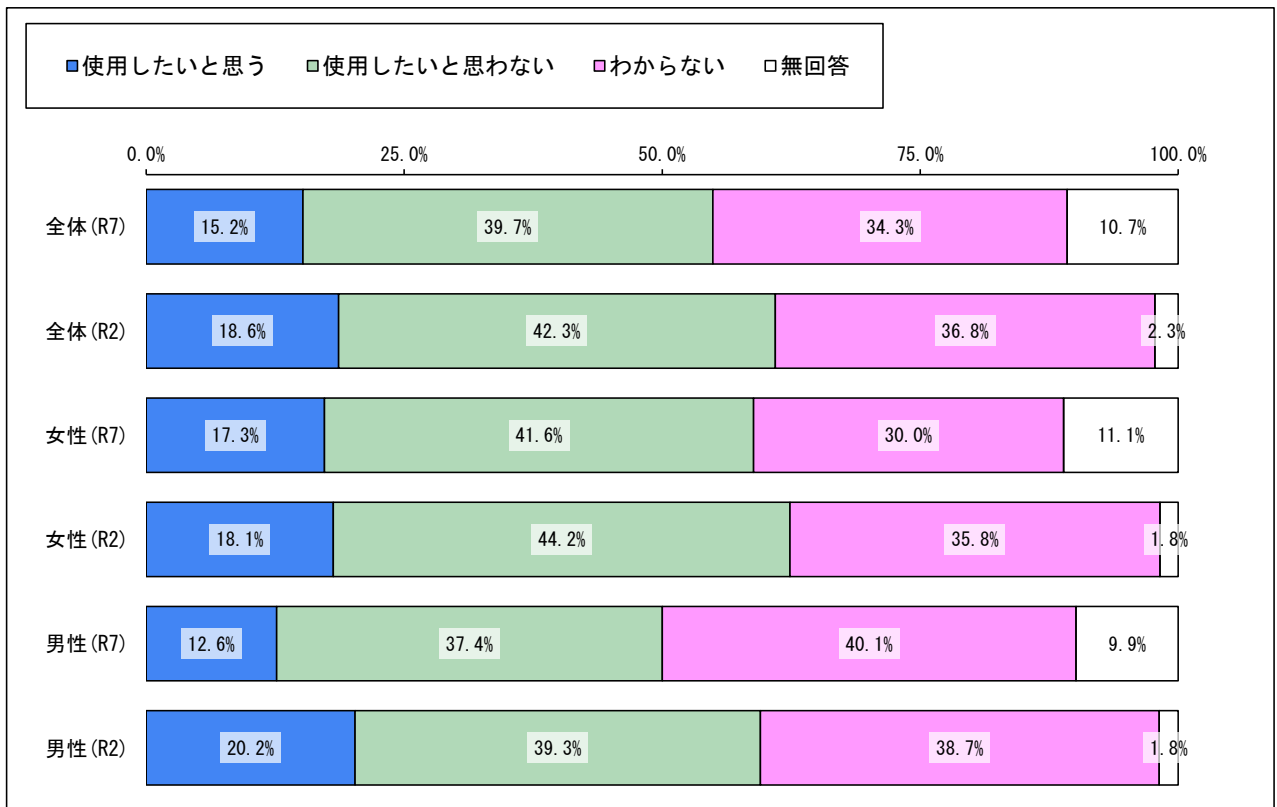
問12 職場において、男女格差を感じたことがありますか。(選択はいくつでも)

「女性」で最も高いのは「特に男女格差はない」の31.7%、「男性」では「人事異動・仕事内容」の35.7%となった。2番目に高いのは、「女性」では「賃金手当・昇給昇進」の26.3%、「男性」では「特に男女格差はない」の24.7%。



問13 結婚して戸籍上の名字(姓)が変わった場合、職場において旧姓の使用を希望しますか。(1つ選択)

全体では、今回もR2も「使用したいと思わない」が最も高い。今回39.7%、R2は42.3%。

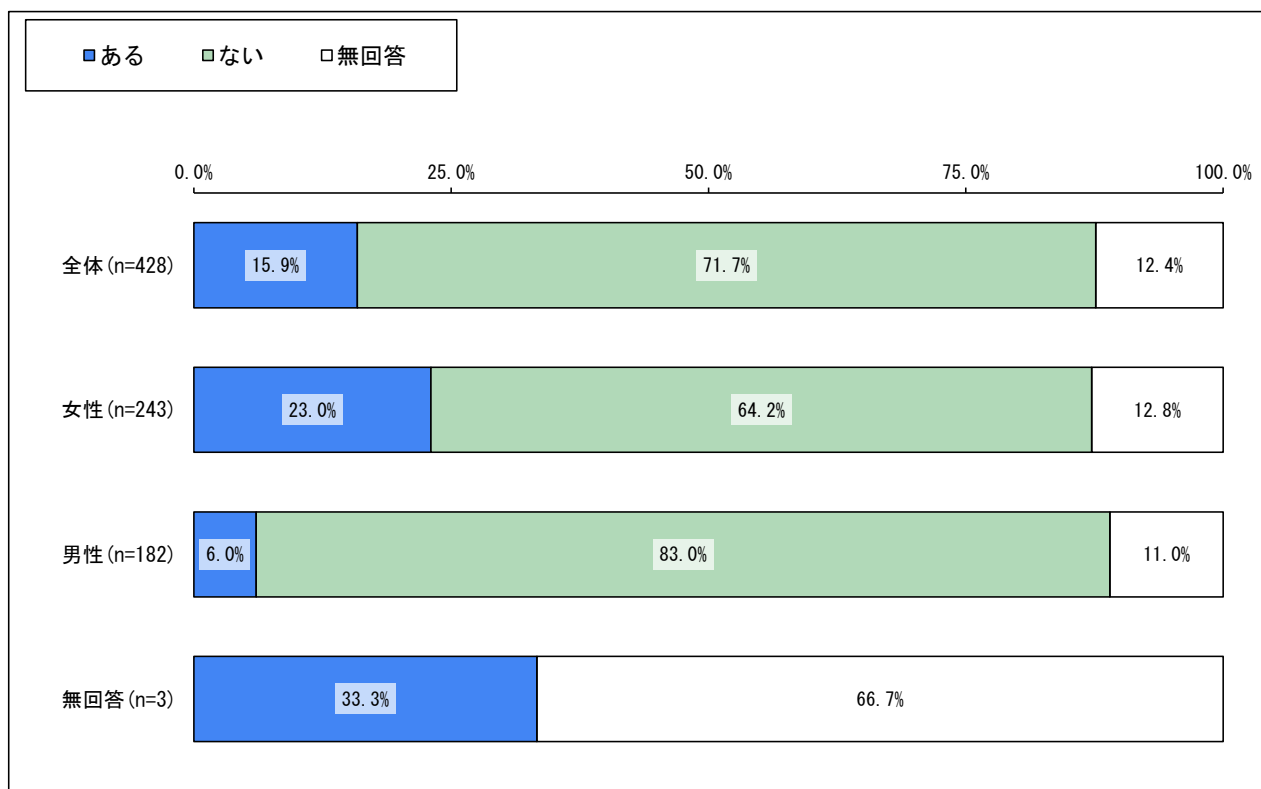


《年齢別》

		使用したいと思う	使用したいと思わない	分からない	無回答
女	18-29歳 (n=34)	8.8%	26.5%	29.4%	35.3%
	30-39歳 (n=38)	31.6%	44.7%	23.7%	0.0%
	40-49歳 (n=48)	20.8%	41.7%	31.3%	6.3%
	50-59歳 (n=56)	17.9%	48.2%	33.9%	0.0%
	60-69歳 (n=36)	8.3%	47.2%	33.3%	11.1%
	70歳以上 (n=31)	12.9%	35.5%	25.8%	25.8%
	n=243				
男	18-29歳 (n=22)	4.5%	27.3%	36.4%	31.8%
	30-39歳 (n=35)	22.9%	31.4%	42.9%	2.9%
	40-49歳 (n=31)	12.9%	45.2%	41.9%	0.0%
	50-59歳 (n=43)	14.0%	34.9%	46.5%	4.7%
	60-69歳 (n=26)	7.7%	42.3%	46.2%	3.8%
	70歳以上 (n=25)	8.0%	44.0%	20.0%	28.0%
	n=182				
無回答	18-29歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30-39歳 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	40-49歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50-59歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60-69歳 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
n=3					

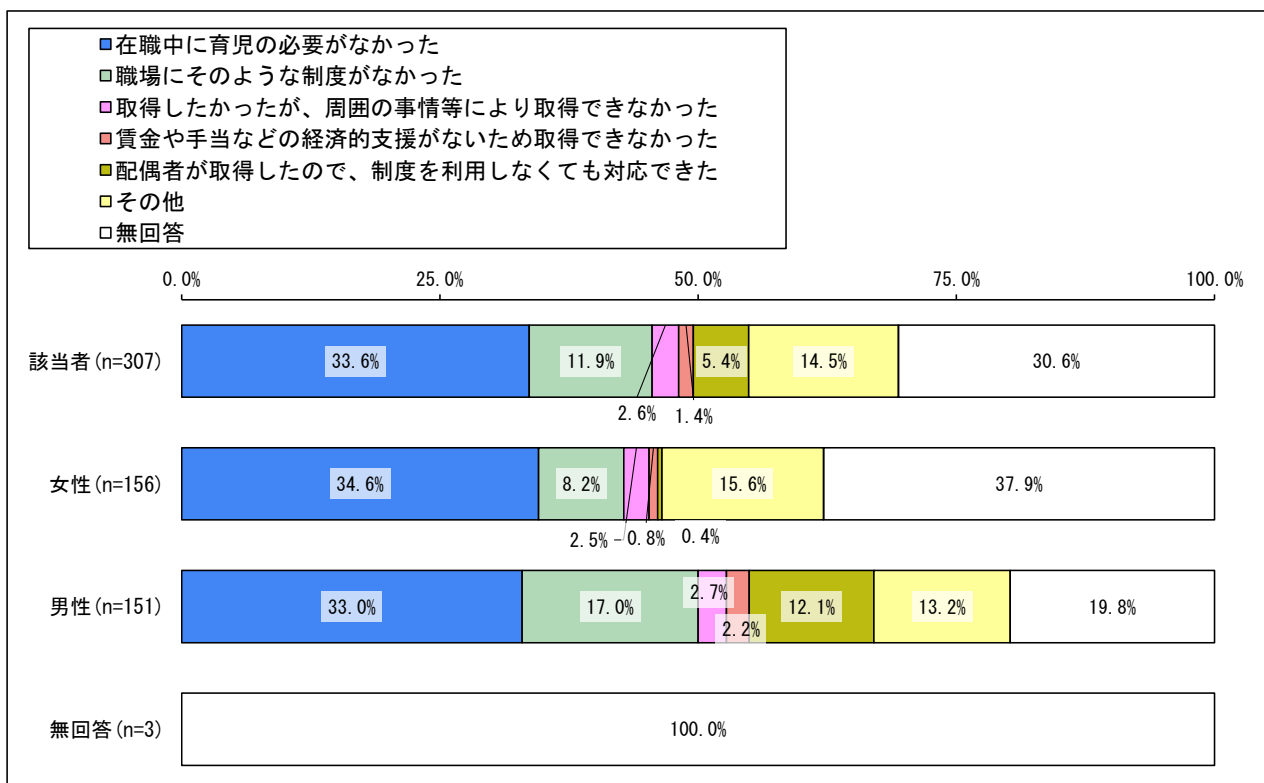
問14 育児休業を取得したことがありますか。(1つ選択)

「女性」の64.2%、「男性」の83.0%が育児休業を取得したことが「ない」と回答している。「ある」と回答したのは、「女性」では23.0%、「男性」では6.0%となった。



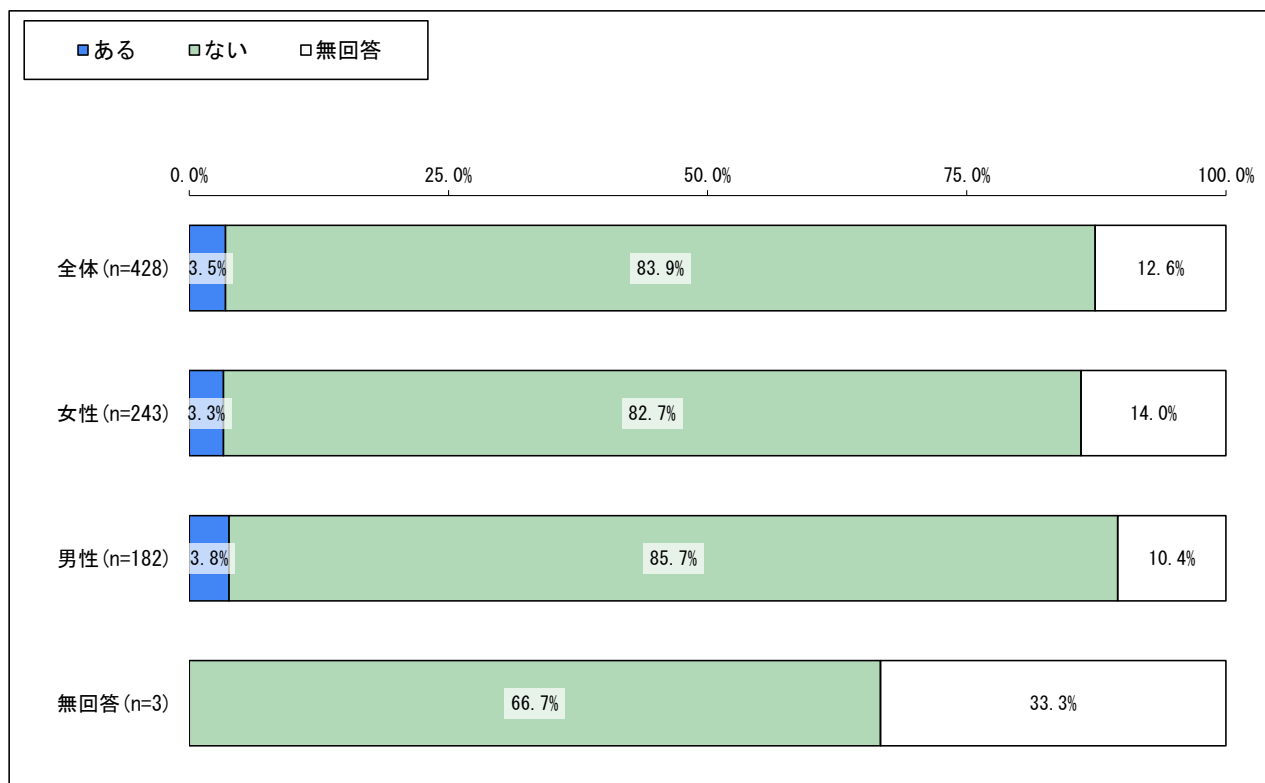
問15 問14で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

「その他」「無回答」を除くと、「女性」も「男性」も「在職中に育児の必要がなかった」が33%以上で最も高い。次に「職場にそのような制度がなかった」が続く。



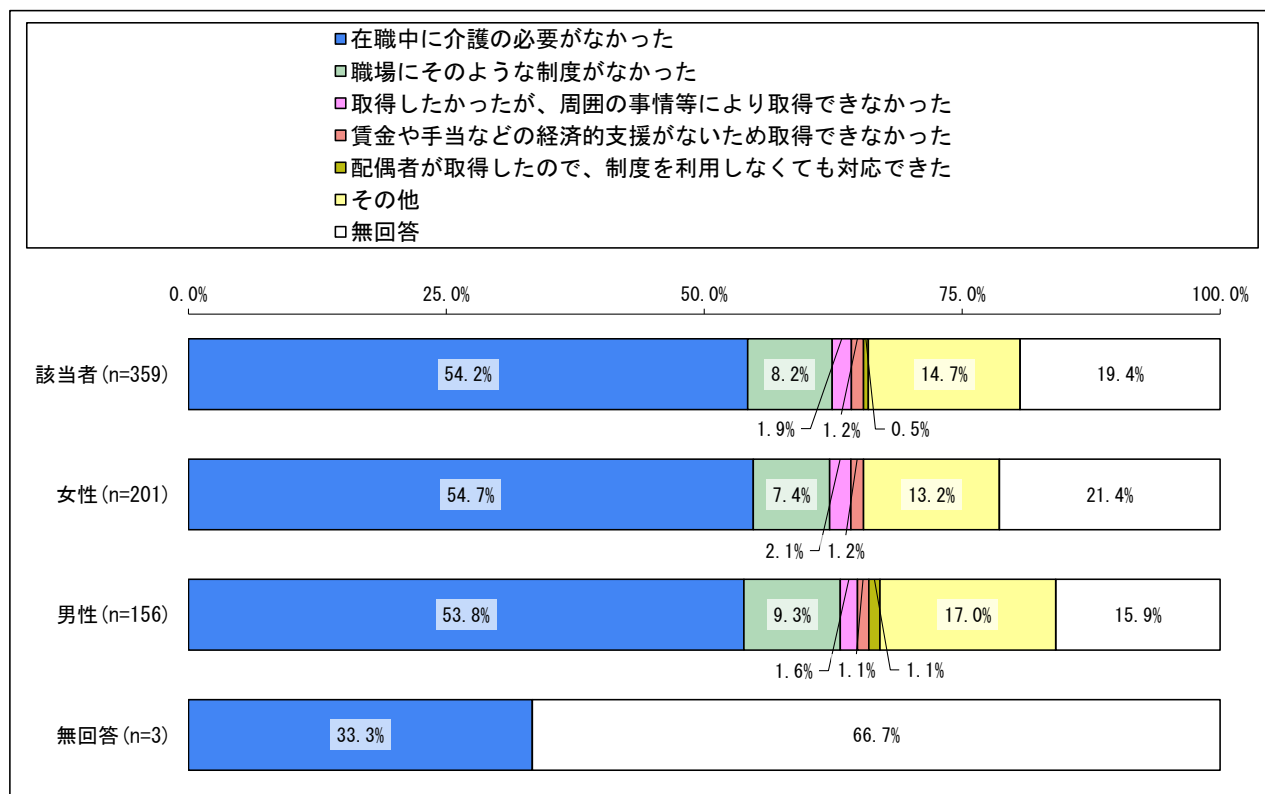
問16 介護休業を取得したことがありますか。(1つ選択)

「女性」「男性」とも介護休業を取得したことが「ない」が82%と高い。
「ある」と回答したのは「女性」「男性」とも4%未満となっている。



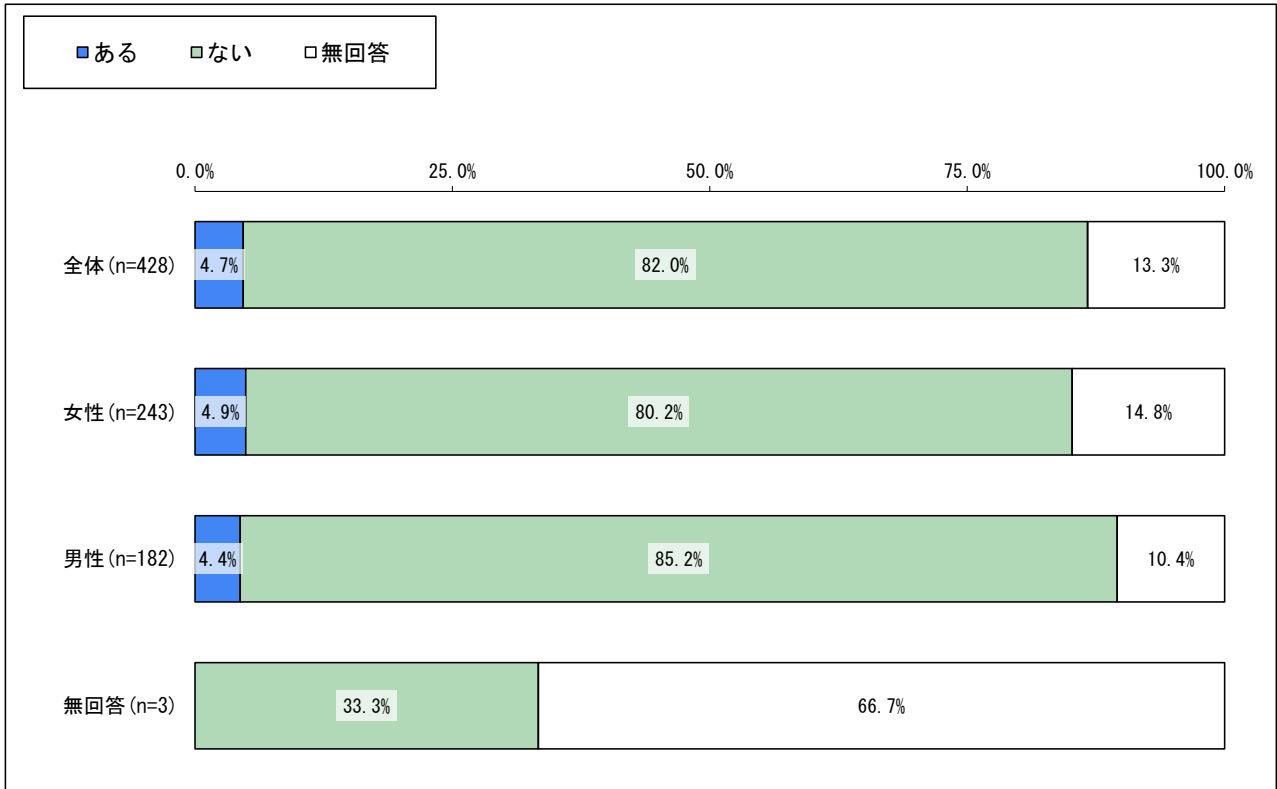
問17 問16で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

男女ともに「在職中に介護の必要がなかった」が53%以上と最も高い。
「その他」「無回答」を除き、「女性」「男性」とも「職場にそのような制度がなかった」が2番目に高い。



問18 介護休暇(※短期介護のための年5日程度の休暇)を取得したことがありますか。(1つ選択)

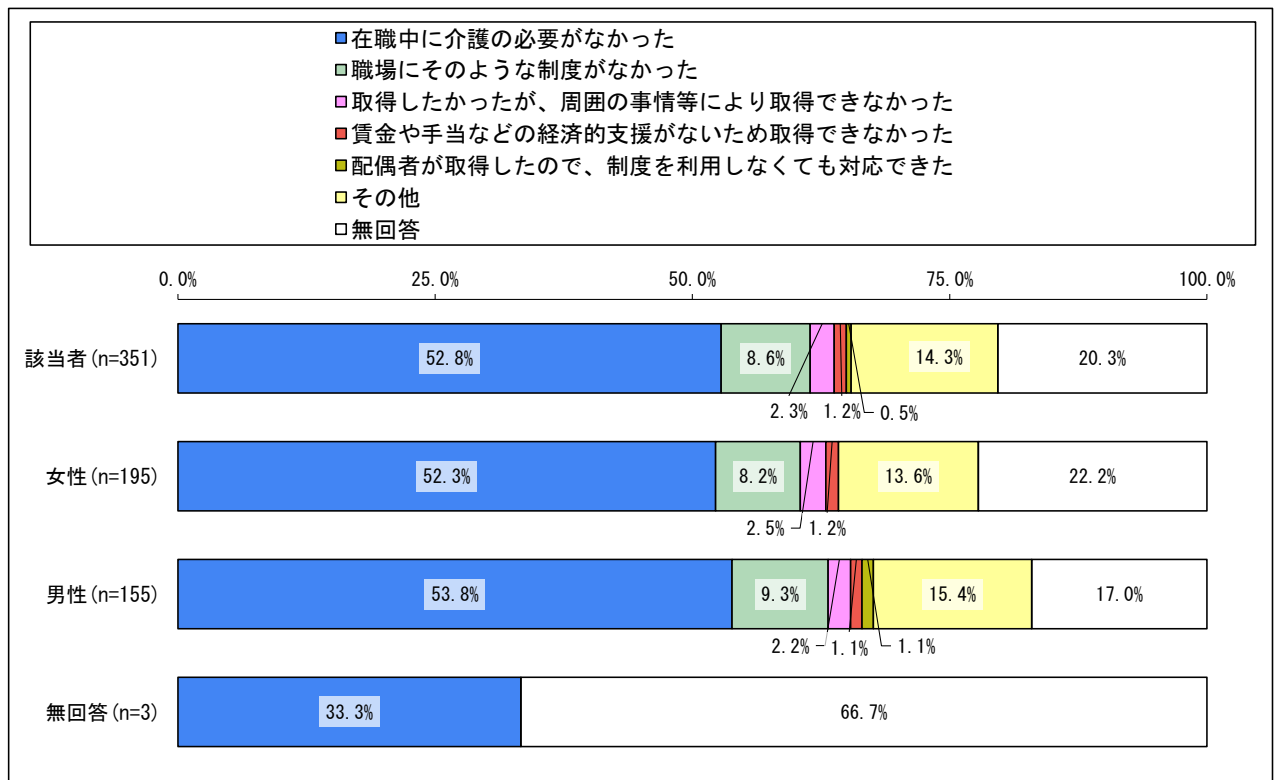
男女ともに「取得したことがない」が80%以上で、「ある」と回答したのは5%未満と低い。



問19 問18で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

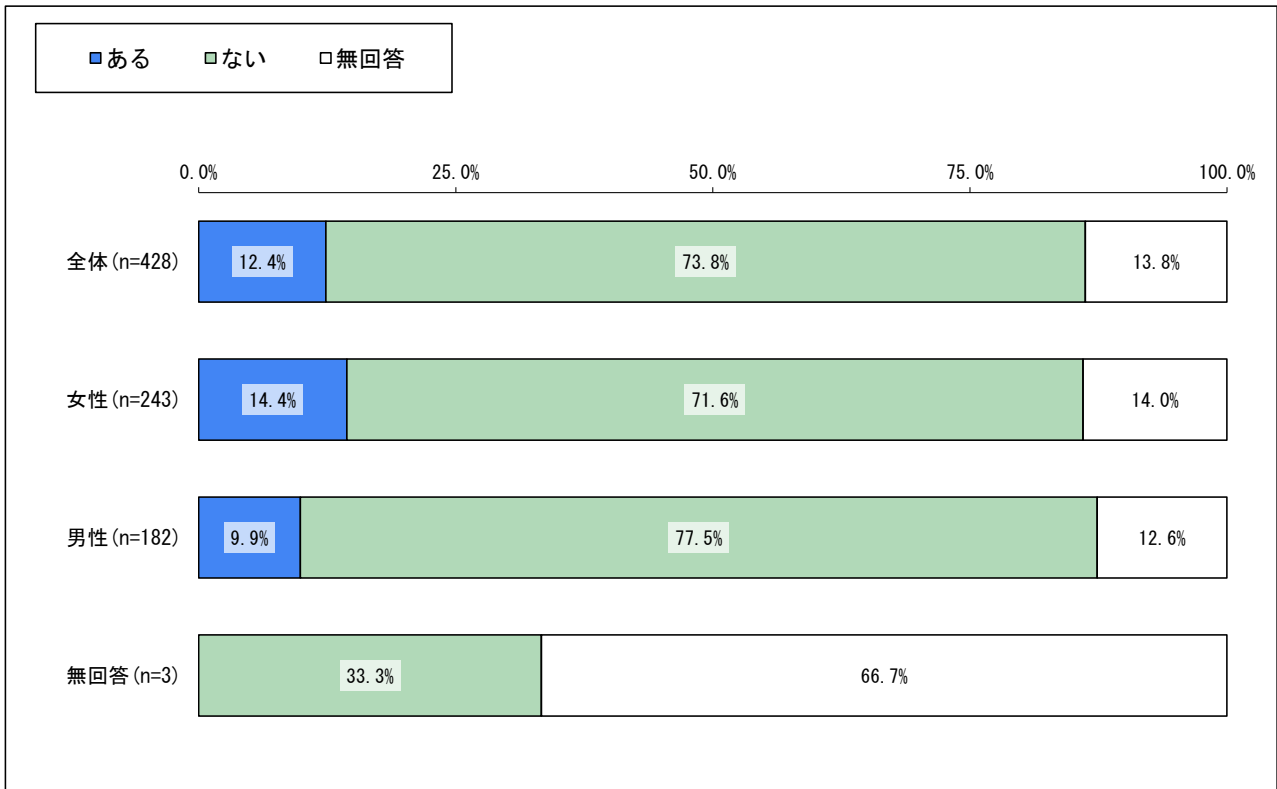
「在職中に介護の必要がなかった」との回答が、男女とも52%以上だった。

「職場にそのような制度がなかった」「取得したかったが、周囲の事情等により取得できなかった」「賃金や手当などの経済的支援がないため取得できなかった」を合わせると全体の12.1%あった。



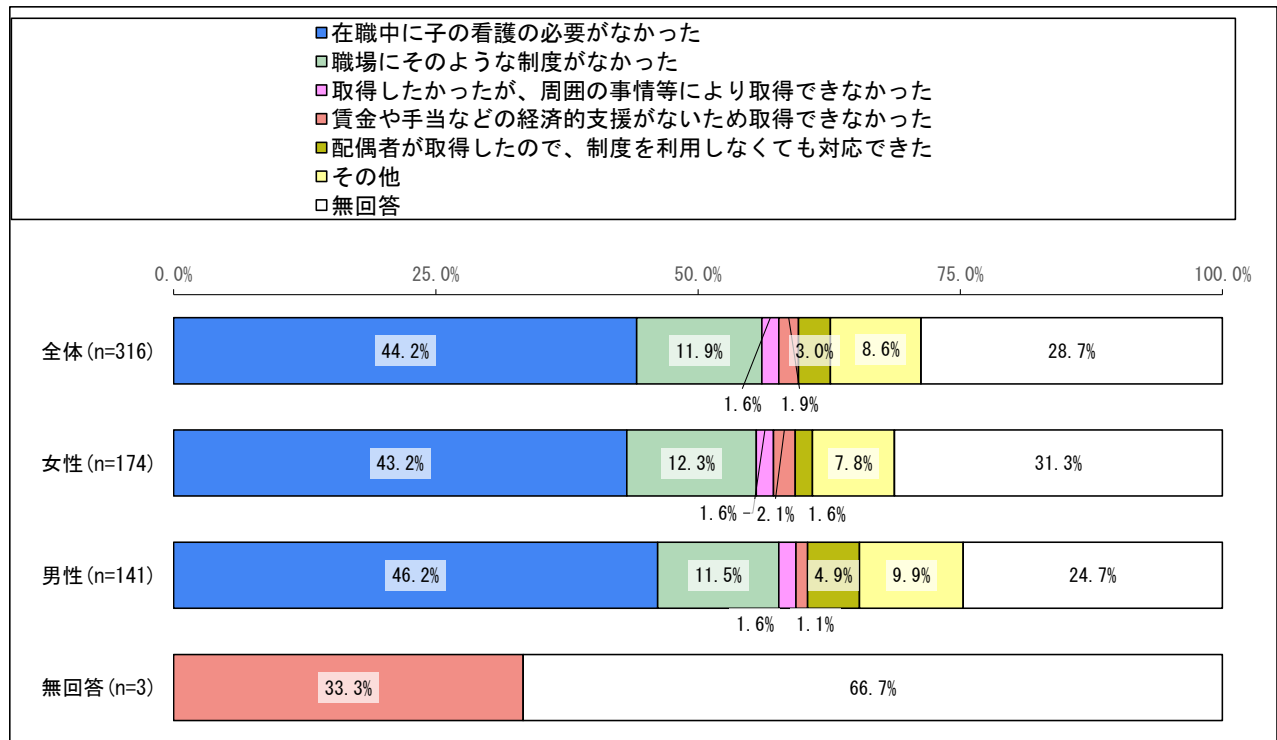
問20 子の看護休暇を取得したことがありますか。(1つ選択)

男女ともに、「ない」と回答した割合が70%以上で、特に「男性」は77.5%と高かった。「ある」と回答した「女性」は14.4%、「男性」は9.9%と「女性」より4.5%低い。



問21 問20で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

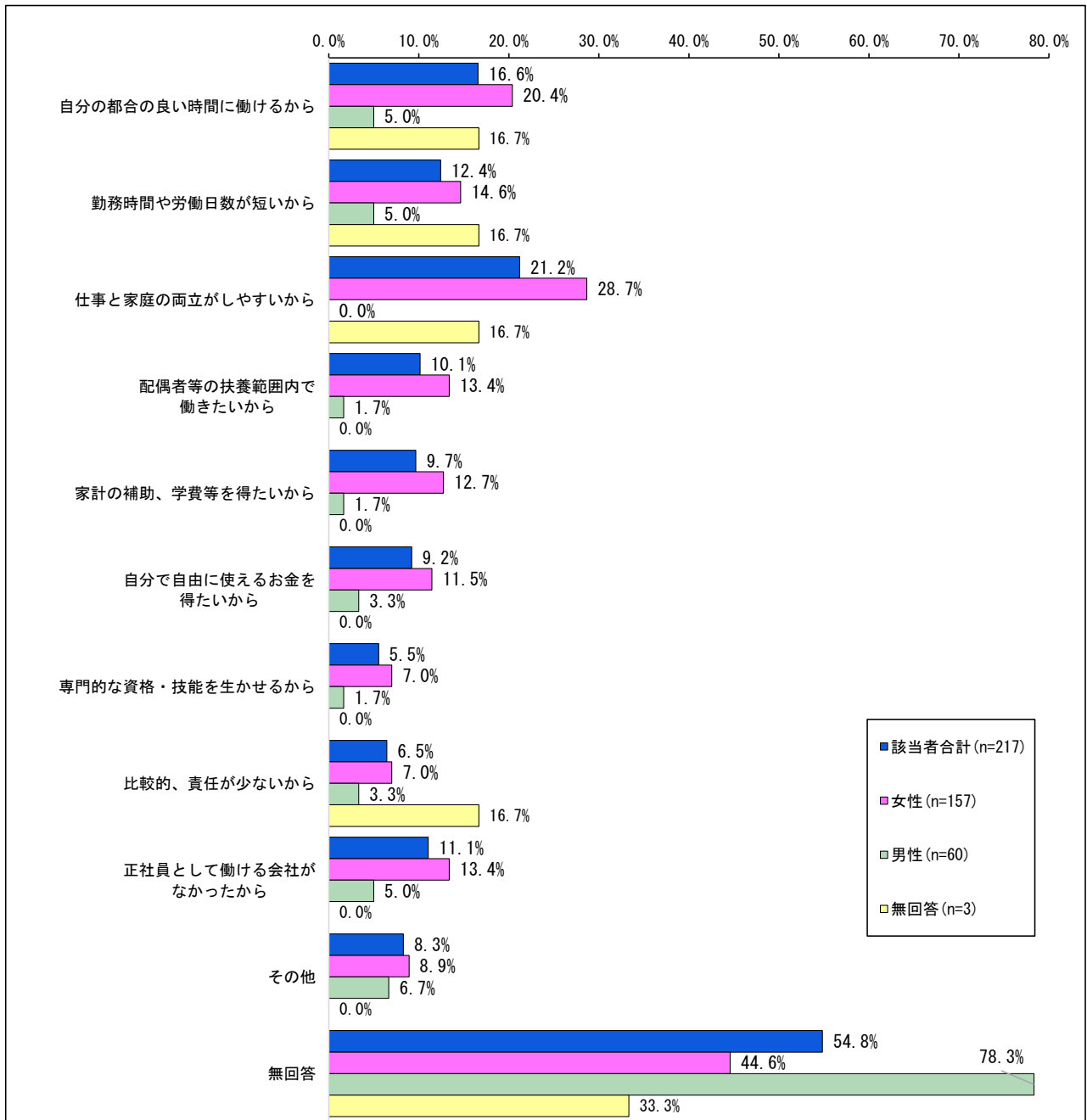
「在職中に子の看護の必要がなかった」が「女性」「男性」とも最も高く、43%以上だった。



問22 非正規社員を選んだ理由をお聞かせください。(選択はいくつでも)

「女性」は「無回答」を除き、「仕事と家庭の両立がしやすいから」が21.2%で最も高かったが、同項目は「男性」は0%だった。

「男性」は「無回答」「その他」を除き、「自分の都合の良い時間に働けるから」「勤務時間や労働日数が短いから」「正社員として働ける会社があったから」が同率5.0%だった。

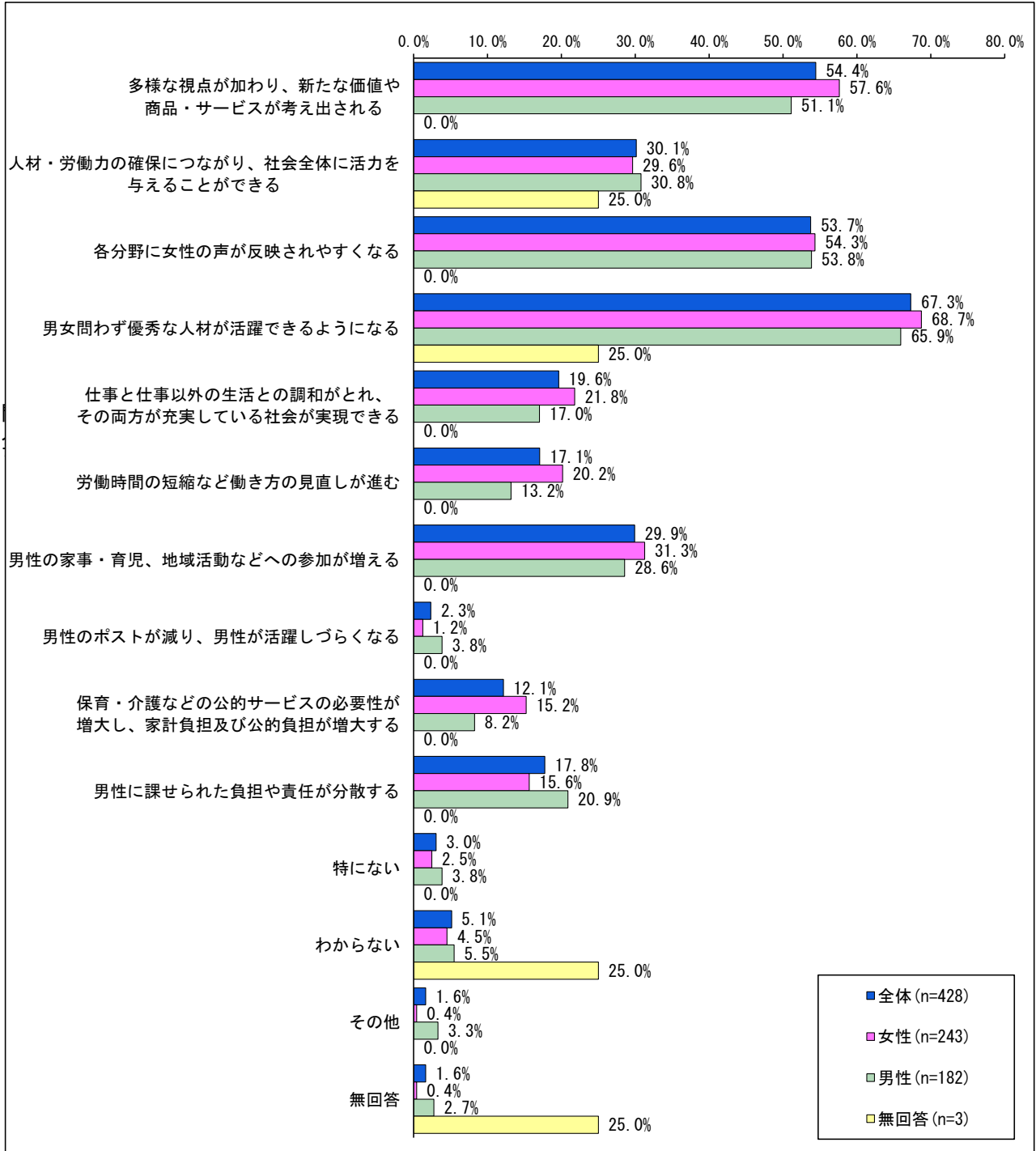


あらゆる分野での女性の活躍について

問23 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思いますか。(選択はいくつでも)

「女性」「男性」とも、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が65%以上で最も高い。

2番目に高いのは、女性は「多様な視点が加わり、新たな価値や商品・サービスが考え出される」の57.6%、男性は「各分野に女性の声が反映されやすくなる」の53.8%だった。

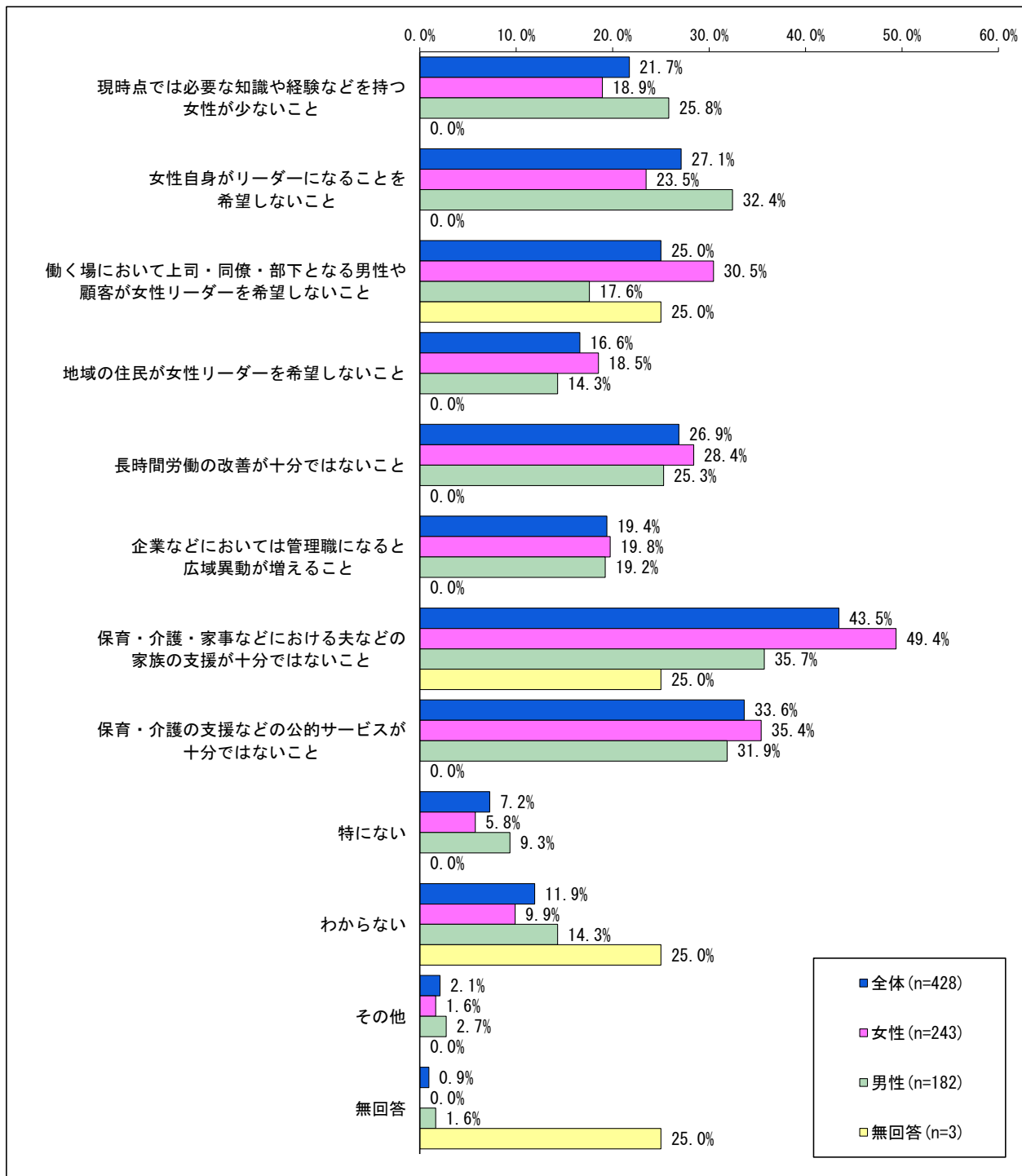


問24 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに、障害となるものは何だと思えますか。(選択はいくつでも)

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が、「女性」では49.4%、「男性」では35.7%と最も高い。

次に「女性」では、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の35.4%、「男性」では「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」の32.4%が高い。

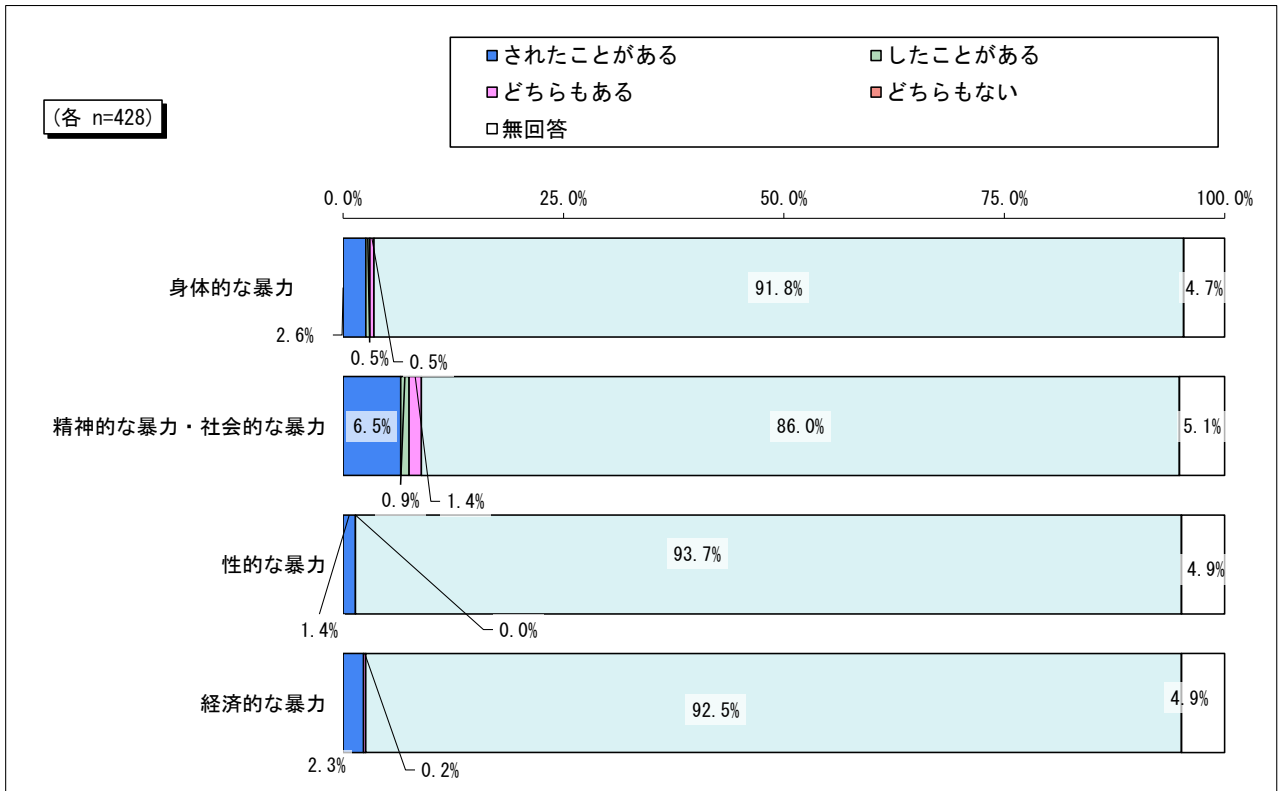
「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」については「男性」でも3番目に高い。



あらゆる暴力の根絶について

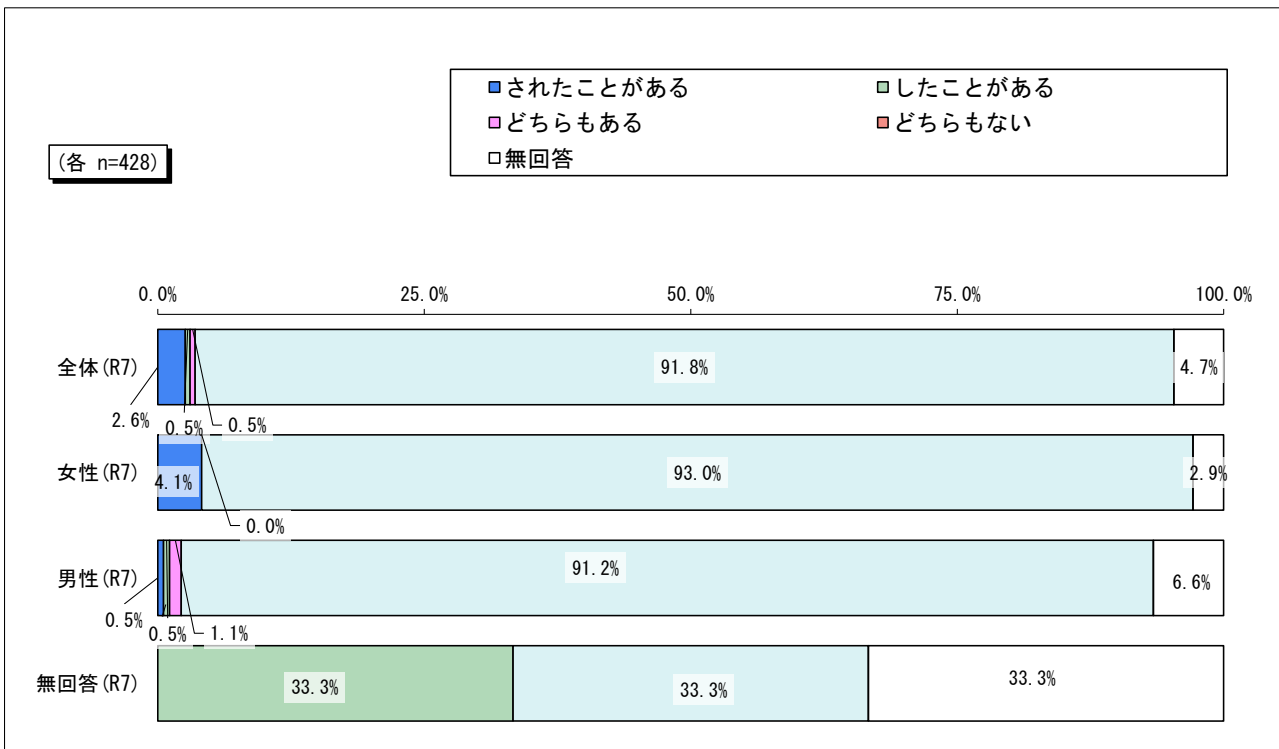
問25 あなたは、パートナーや恋人から過去2年間で、次のような暴力を「されたこと」や「したこと」がありますか。(1つ選択)

「無回答」を除くと、「されたことがある」「したことがある」の中では、どちらも「精神的な暴力」が最も高い。続いて、「身体的な暴力」「経済的な暴力」「性的な暴力」の順となる。



問25-(1) 身体的な暴力

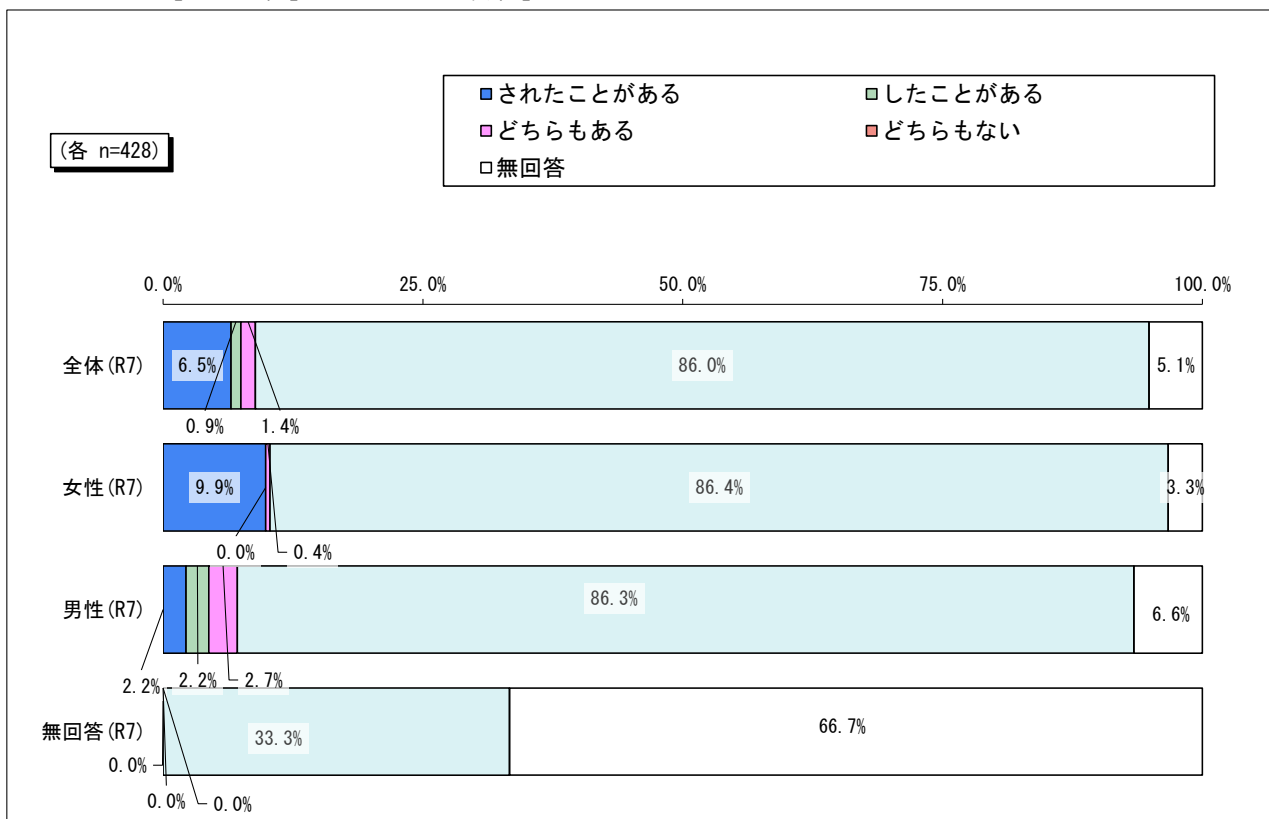
「されたことがある」では、「女性」が4.1%に対し、「男性」が0.5%であった。
「したことがある」では、「女性」は0.0%、「男性」は0.5%であった。



問25-(2) 精神的な暴力・社会的な暴力

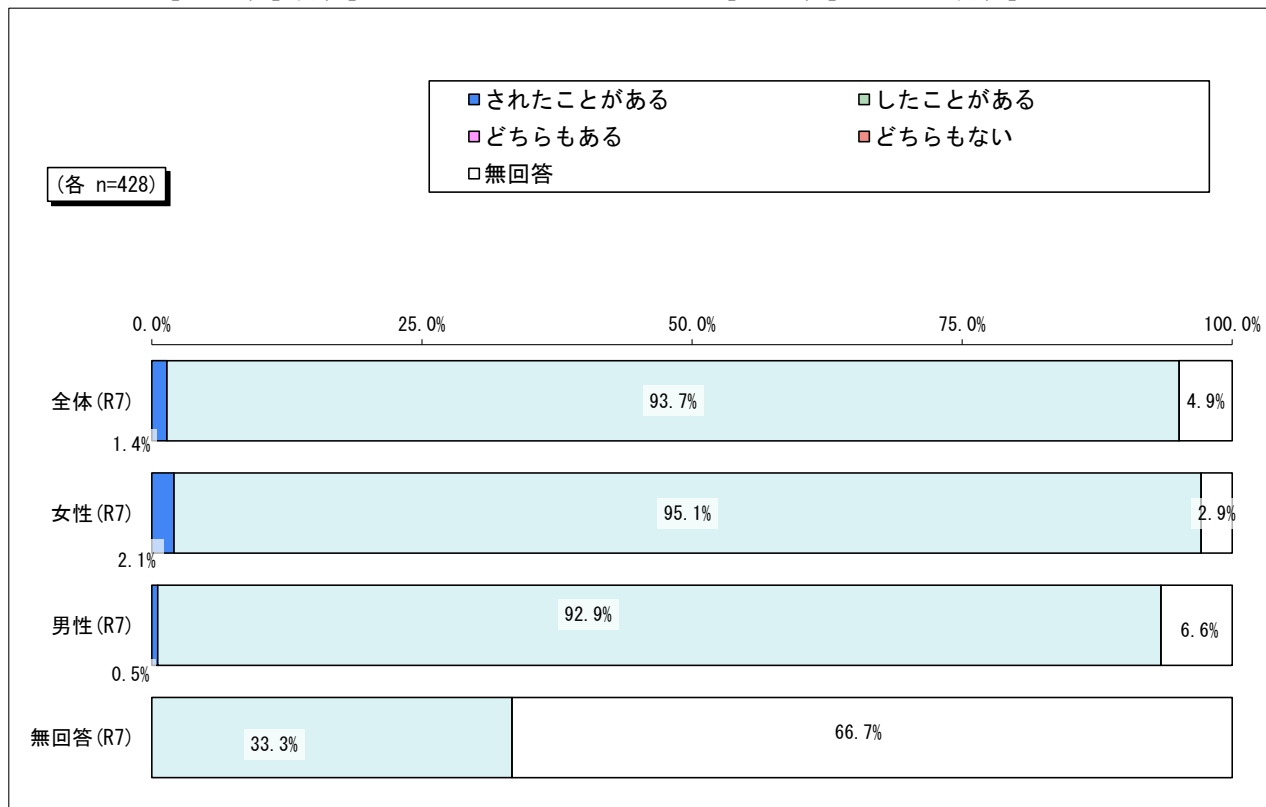
「されたことがある」のポイントは、「女性」が9.9%、「男性」が2.2%だった。

「したことがある」は、「女性」が0.0%だが、「男性」は2.2%だった。



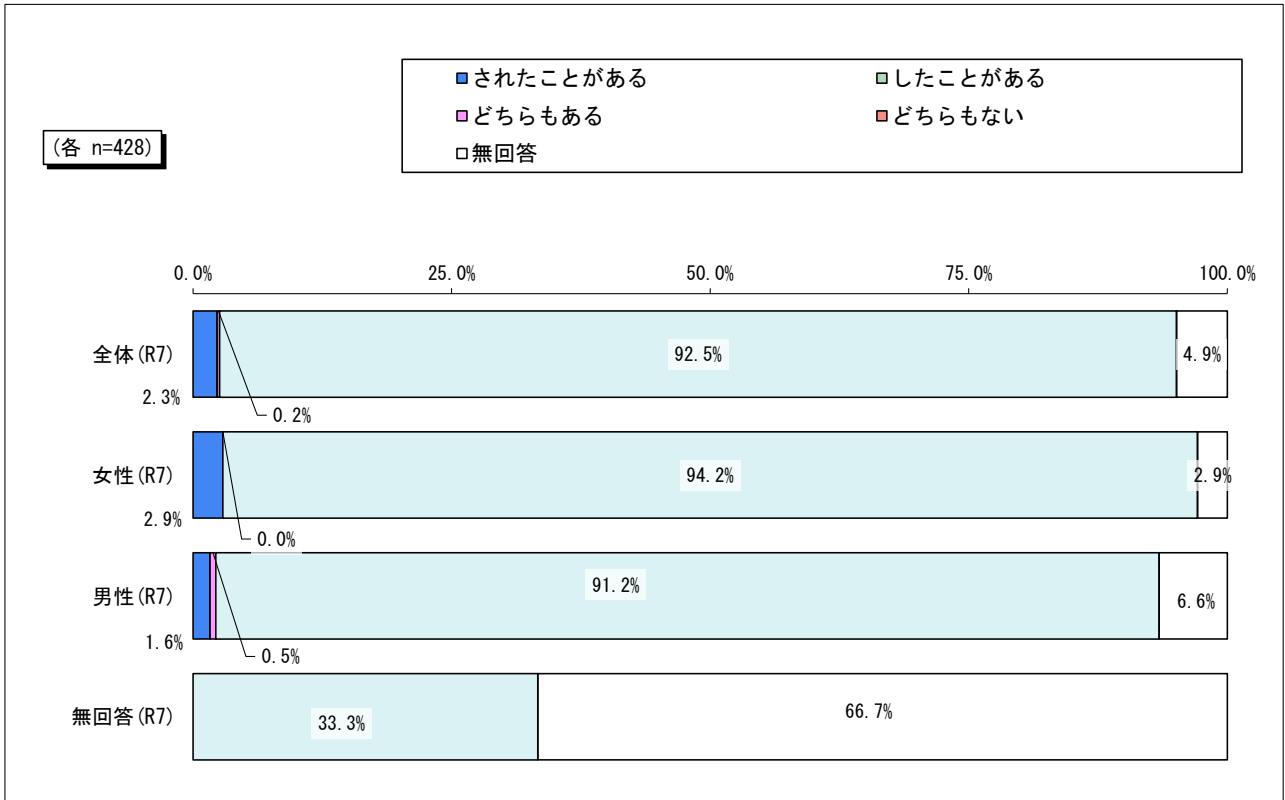
問25-(3) 性的な暴力

「したことがある」は「女性」「男性」とも0.0%だが、「されたことがある」は「女性」が2.1%、「男性」が0.5%ある。



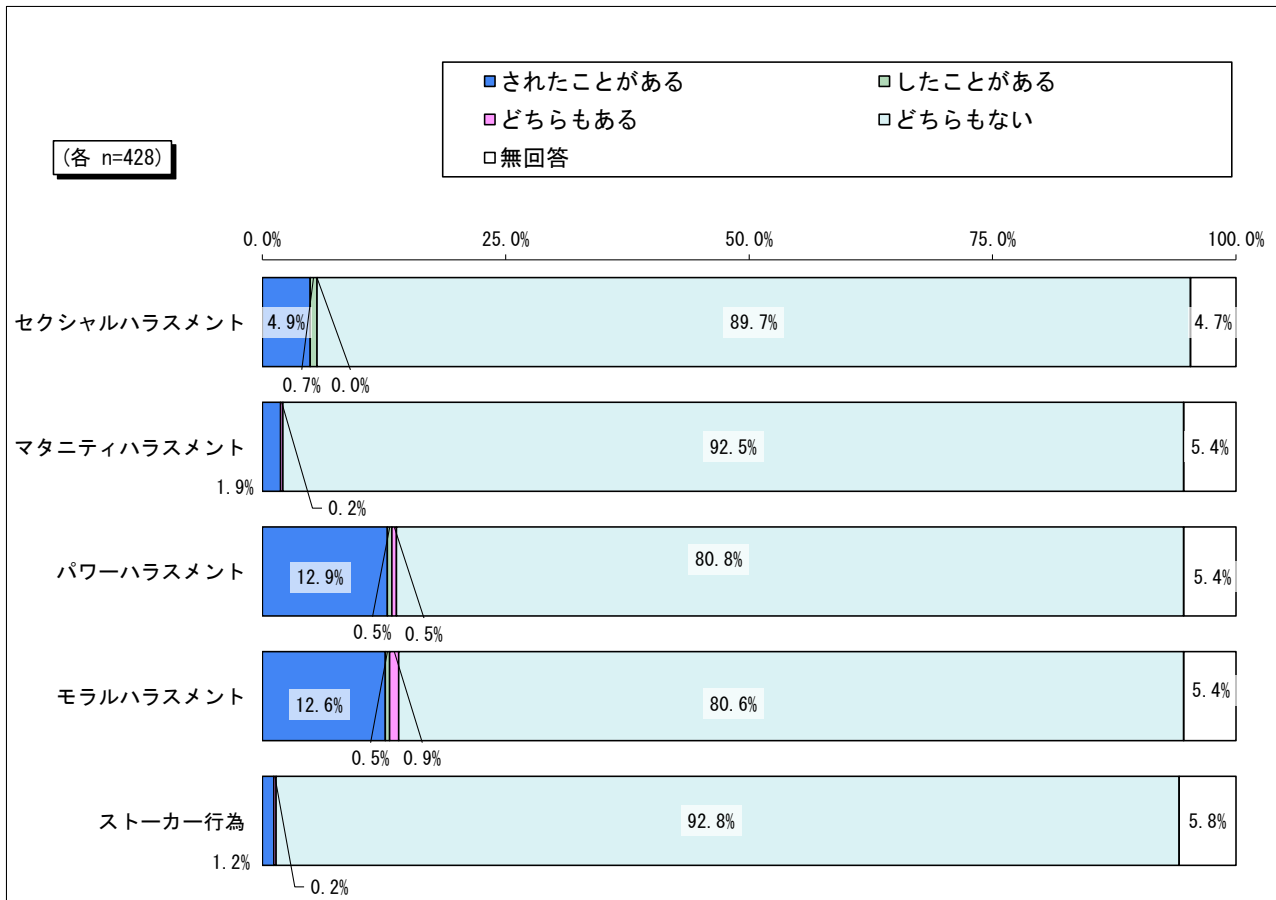
問25-(4) 経済的な暴力

「したことがある」が、男女とも0.0%だが、「されたことがある」は「女性」が2.9%、「男性」が1.6%だった。



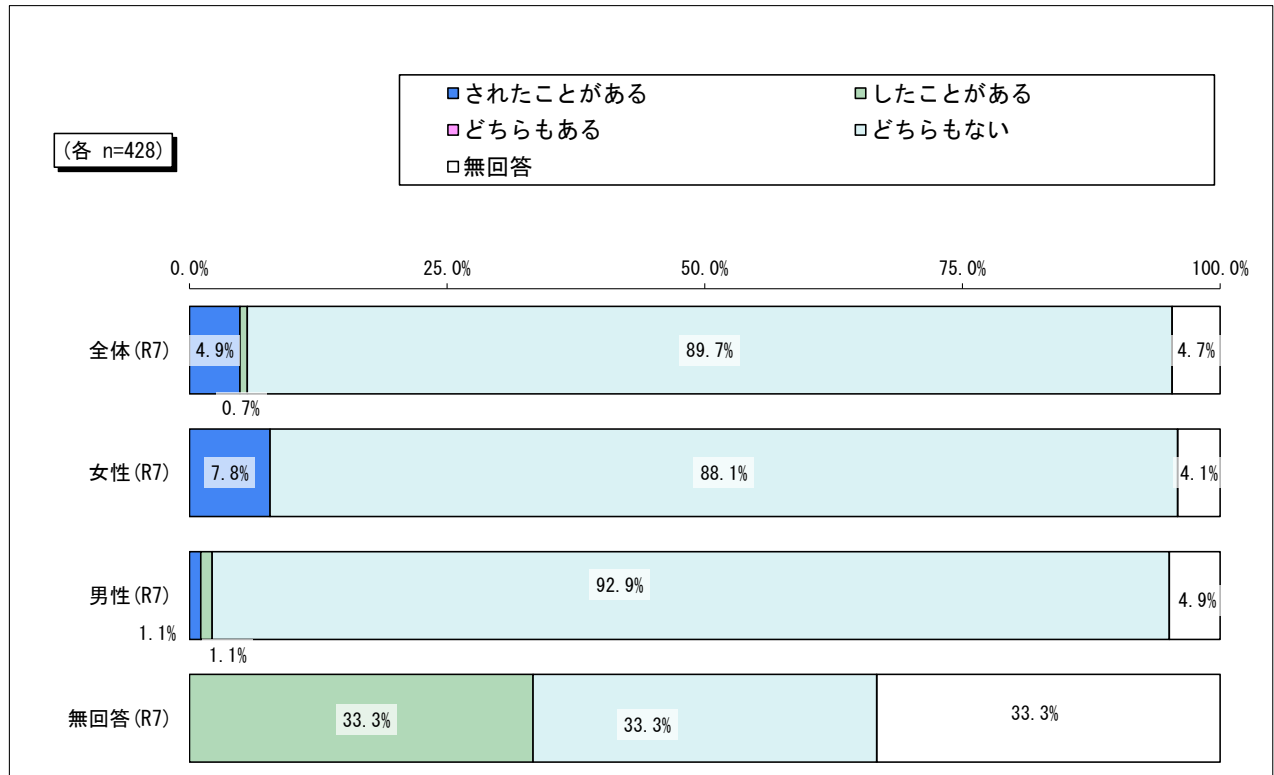
問26 あなたは、過去2年間で、職場・学校・地域・家庭などで何らかのハラスメントを「されたこと」や「したこと」がありますか。(1つ選択)

「されたことがある」で最も高いのは「パワーハラスメント」の12.9%だった。



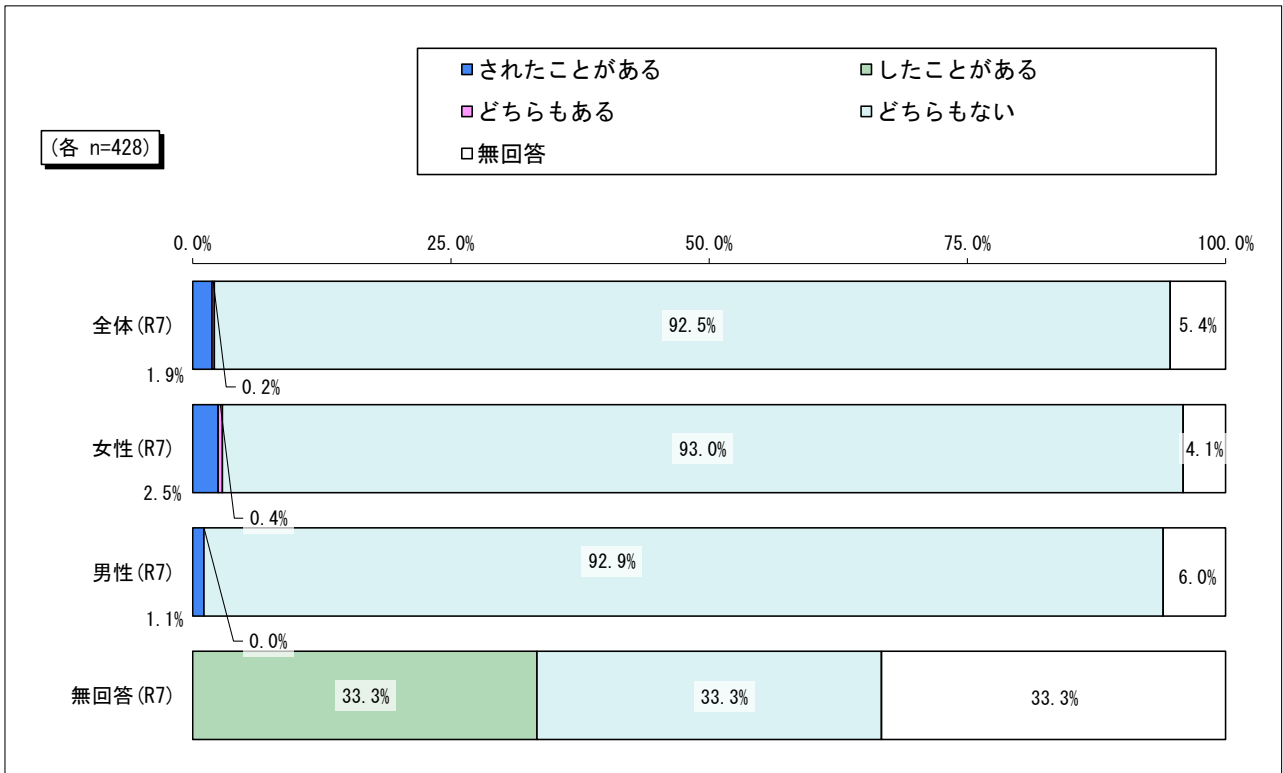
問26-(1) セクシャルハラスメント

「されたことがある」は、「女性」で7.8%、「男性」で1.1%だった。



問26-(2) マタニティハラスメント

「されたことがある」は「女性」で2.5%、「男性」で1.1%だった。

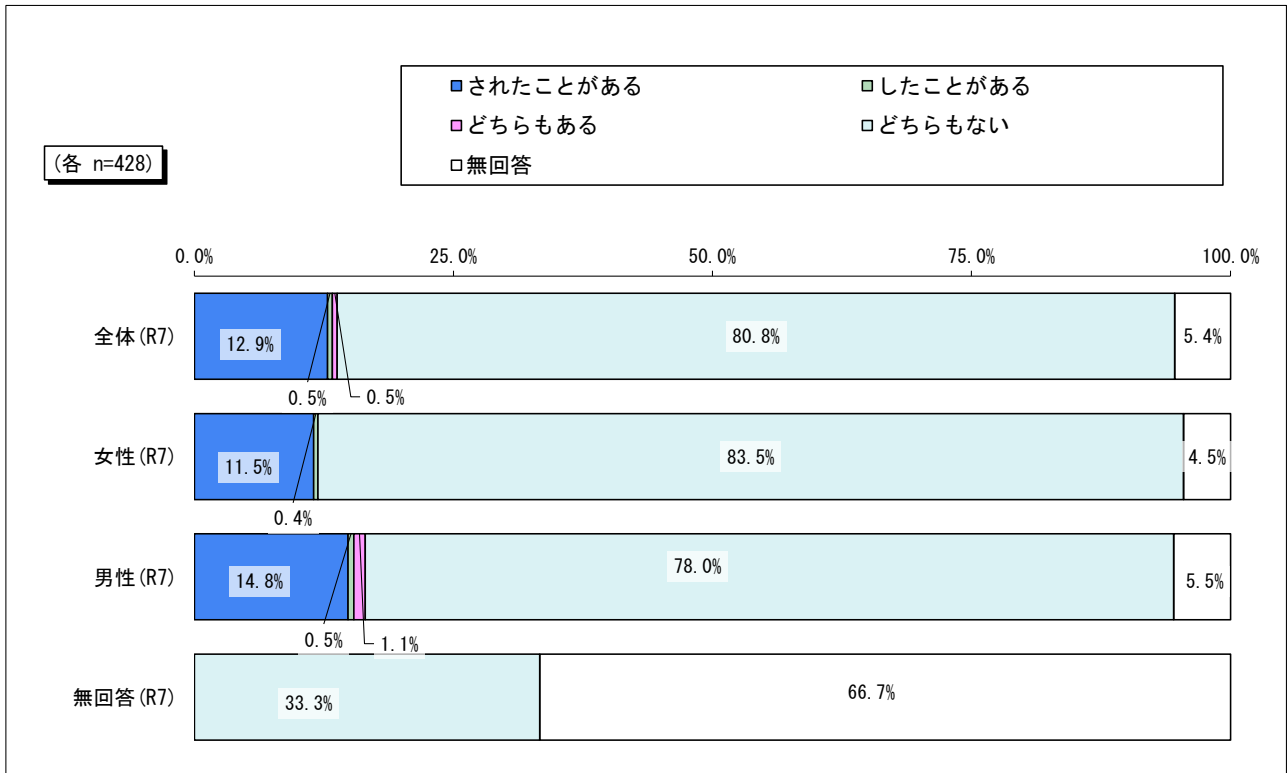


問26-(3) パワーハラスメント

「どちらもない」が「女性」で83.5%、「男性」で78.0%と最も高い。

「されたことがある」は「女性」で11.5%、「男性」で14.8%だった。

「したことがある」が「女性」で0.4%、「男性」で0.5%あり、「どちらもある」が「男性」で1.1%だった。

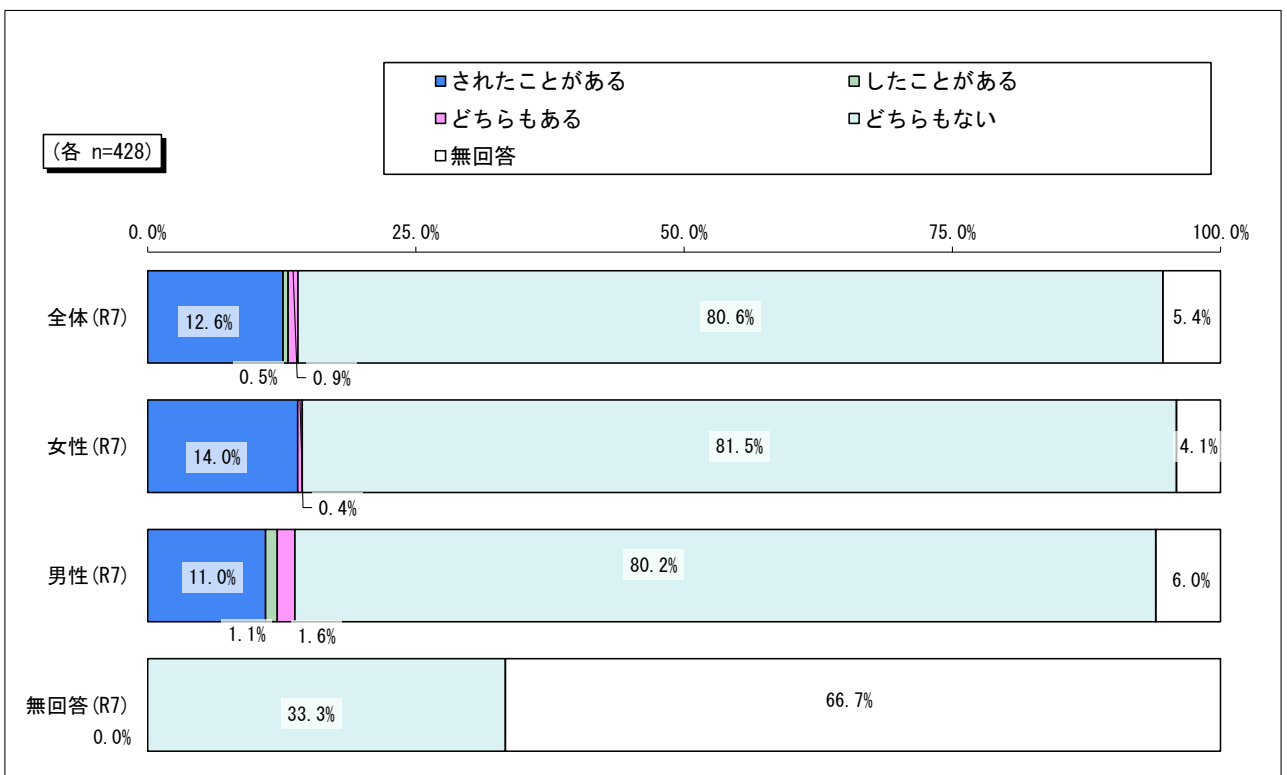


問26-(4) モラルハラスメント

「どちらもない」が「女性」で81.5%、「男性」で80.2%と最も高い。

「されたことがある」は「女性」で14.0%、「男性」で11.0%だった。

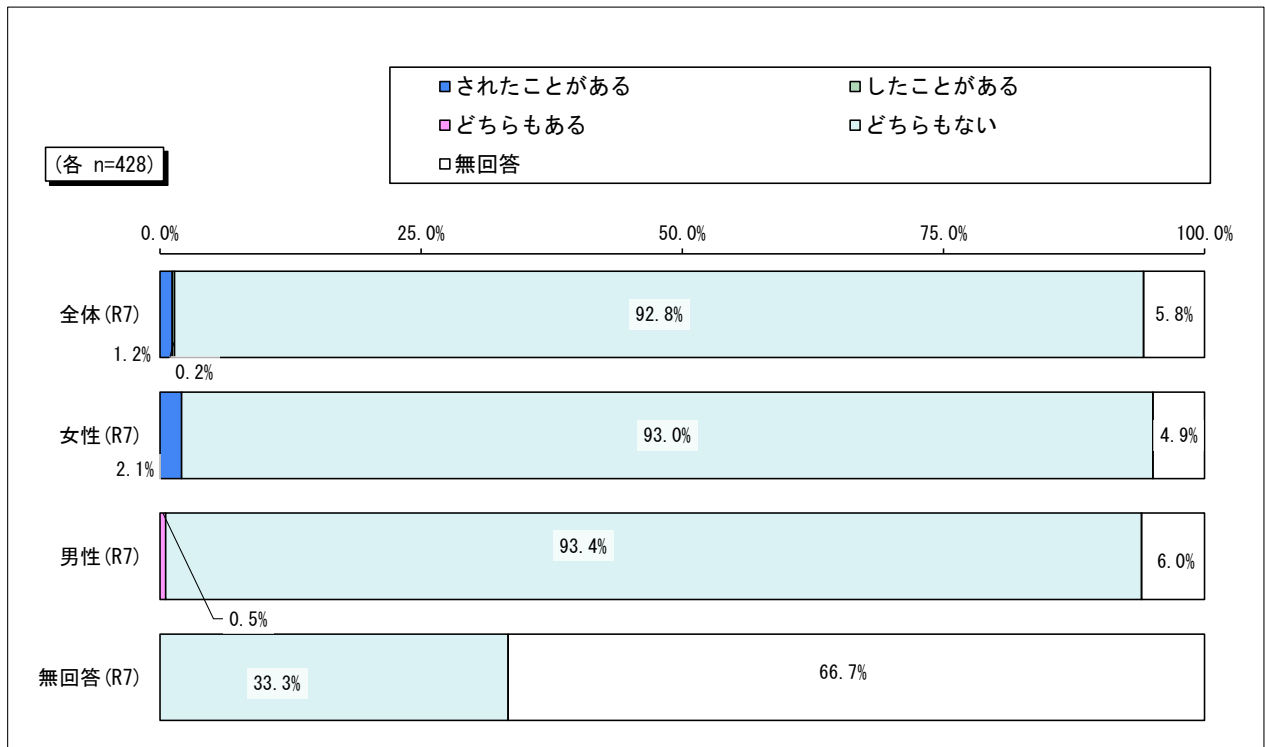
「男性」では「したことがある」が1.1%、「どちらもある」が1.6%だった。



問26-(5) ストーカー行為

「どちらもない」が「女性」で93.0%、「男性」で93.4%と最も高い。

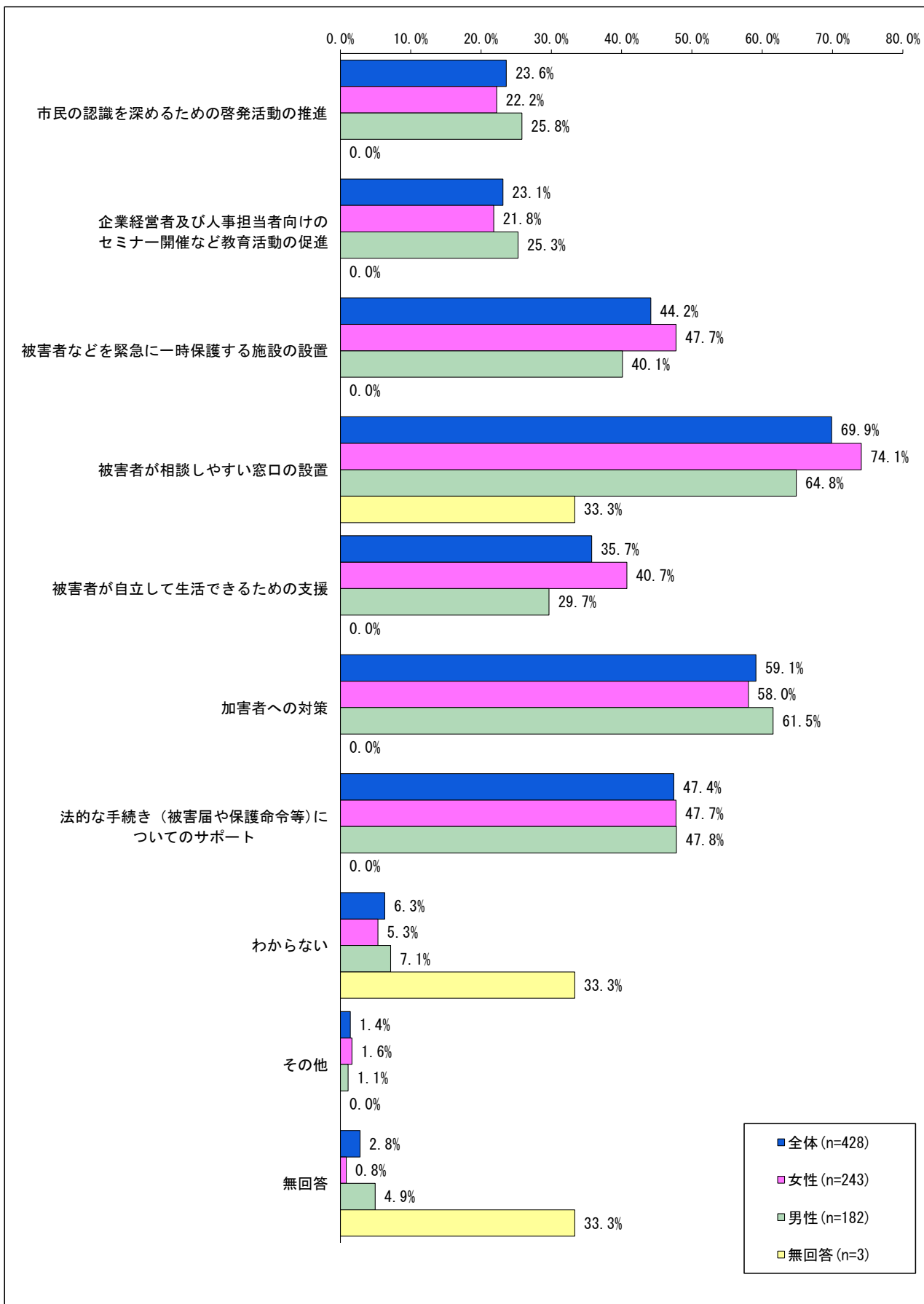
「されたことがある」が「女性」で2.1%、「男性」は0.0%。「どちらもある」は「男性」で0.5%だった。



問27 あなたは、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス等の防止や被害者の支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。（選択はいくつでも）

「被害者が相談しやすい窓口の設置」が最も高く、「女性」74.1%、「男性」64.8%となった。

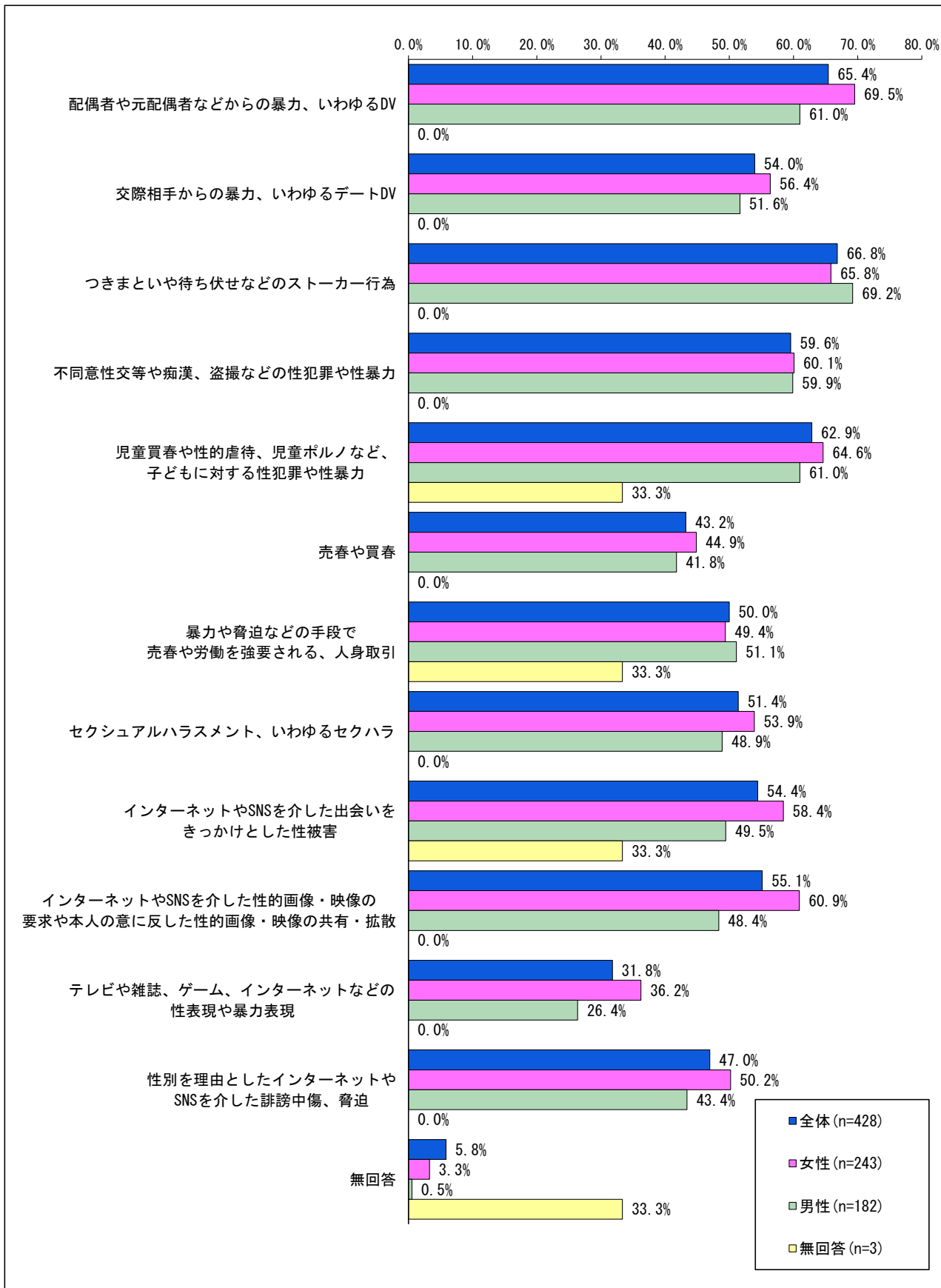
次に、「加害者への対策」が続く。



問28 政府は、男女共同参画社会の形成の促進を図る上での重要な課題として、ドメスティック・バイオレンスや性暴力など個人としての尊厳を害する暴力の根絶に取り組んでいます。あなたが対策が必要だと考えるのは次のうちどれですか。(選択はいくつでも)

「女性」では「配偶者や元配偶者などからの暴力、いわゆるDV」が69.5%で最も高い。

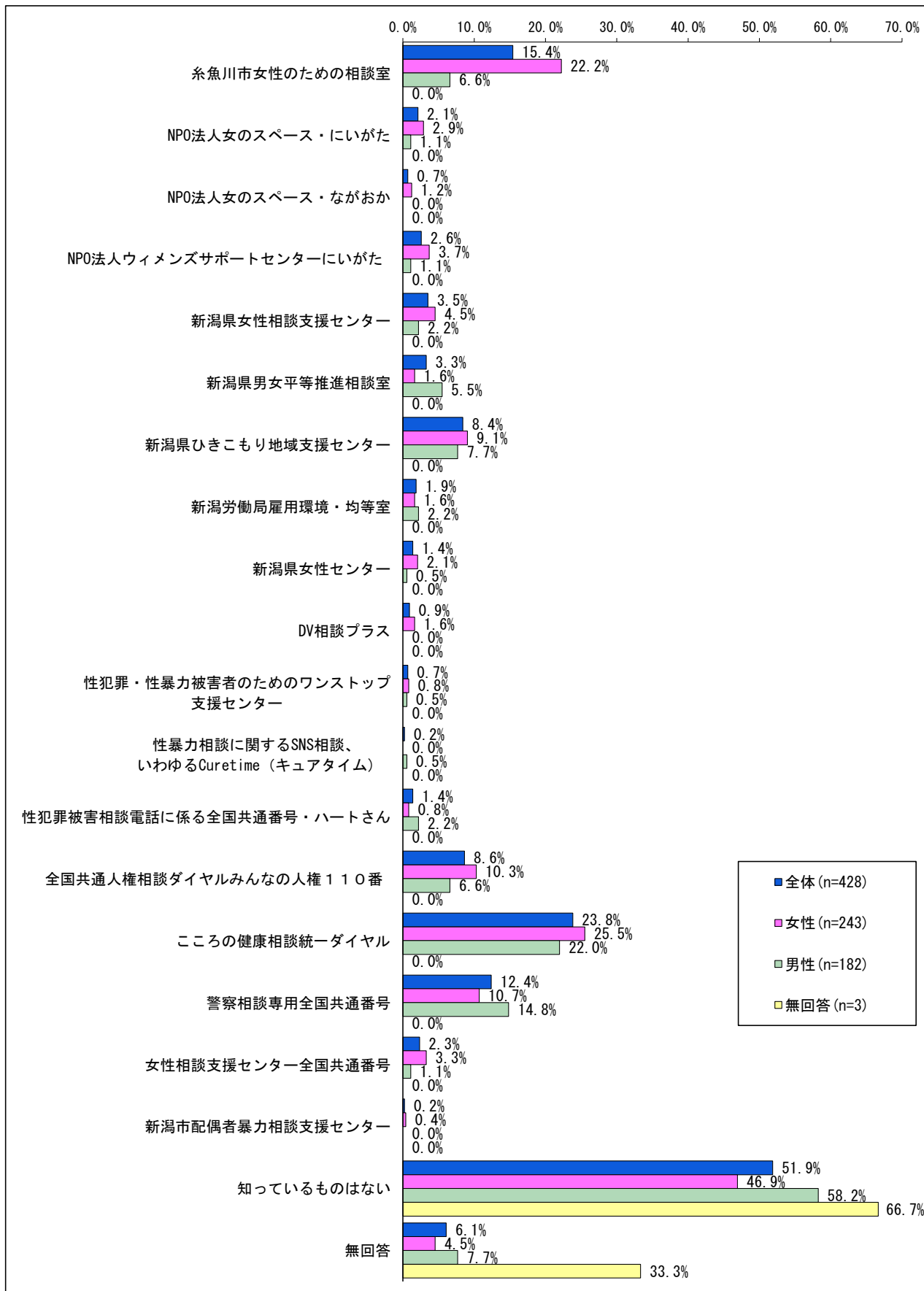
「男性」では「つきまといや待ち伏せなどのストーカー行為」が69.2%で最も高い。



問29 ドメスティック・バイオレンスや性暴力の被害やそれに関する悩みを相談できる窓口などについて、あなたが知っているものを挙げてください。(選択はいくつでも)

「知っているものがない」が「女性」「男性」とも最も高く、それぞれ46.9%、58.2%となっている。

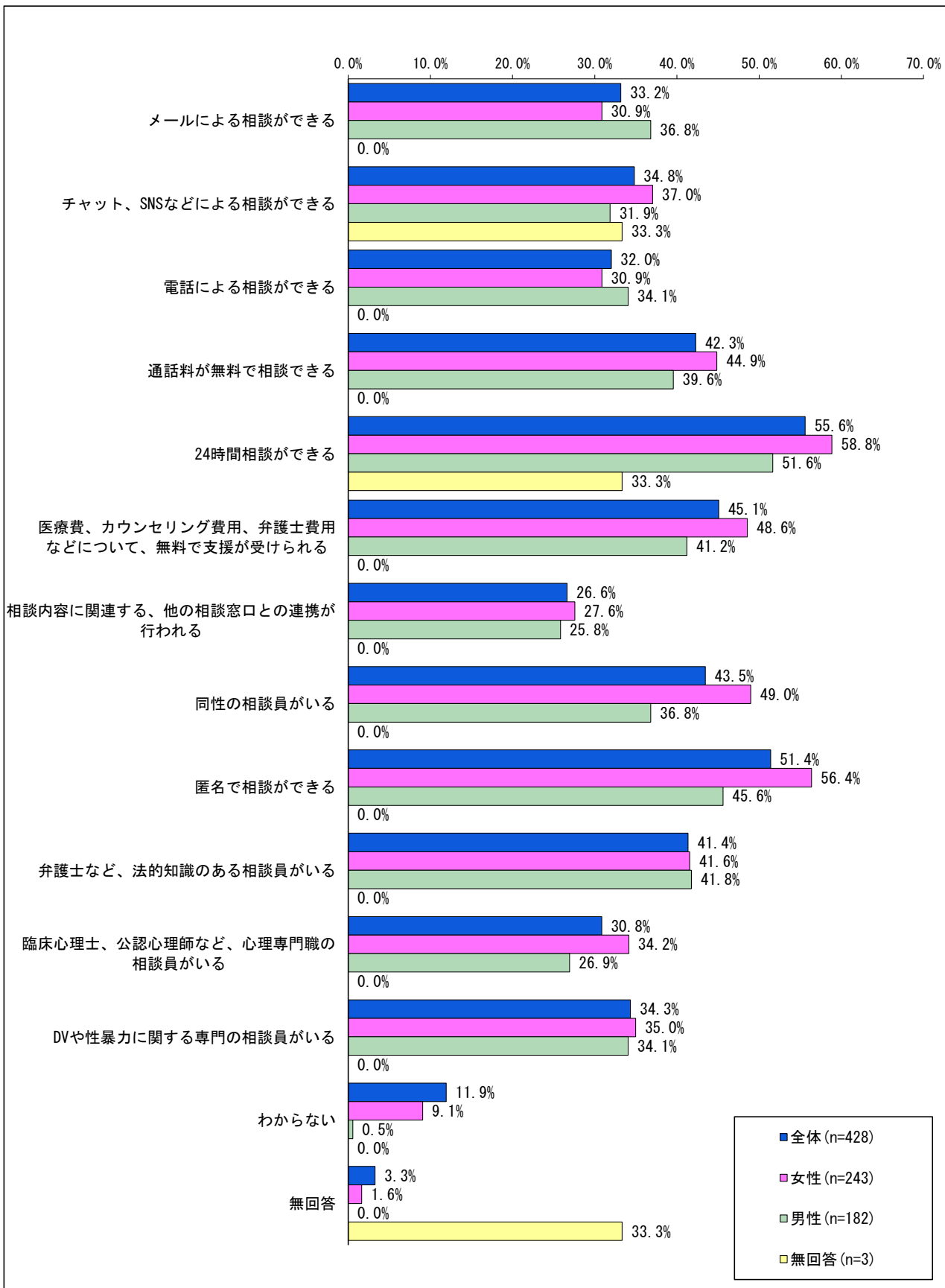
知っているの中で最も高いものでは、「こころの健康相談統一ダイヤル」で25.5%、22.0%となっている。



問30 ドメスティック・バイオレンスや性暴力の被害やそれに関する悩みを相談できる窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(選択はいくつでも)

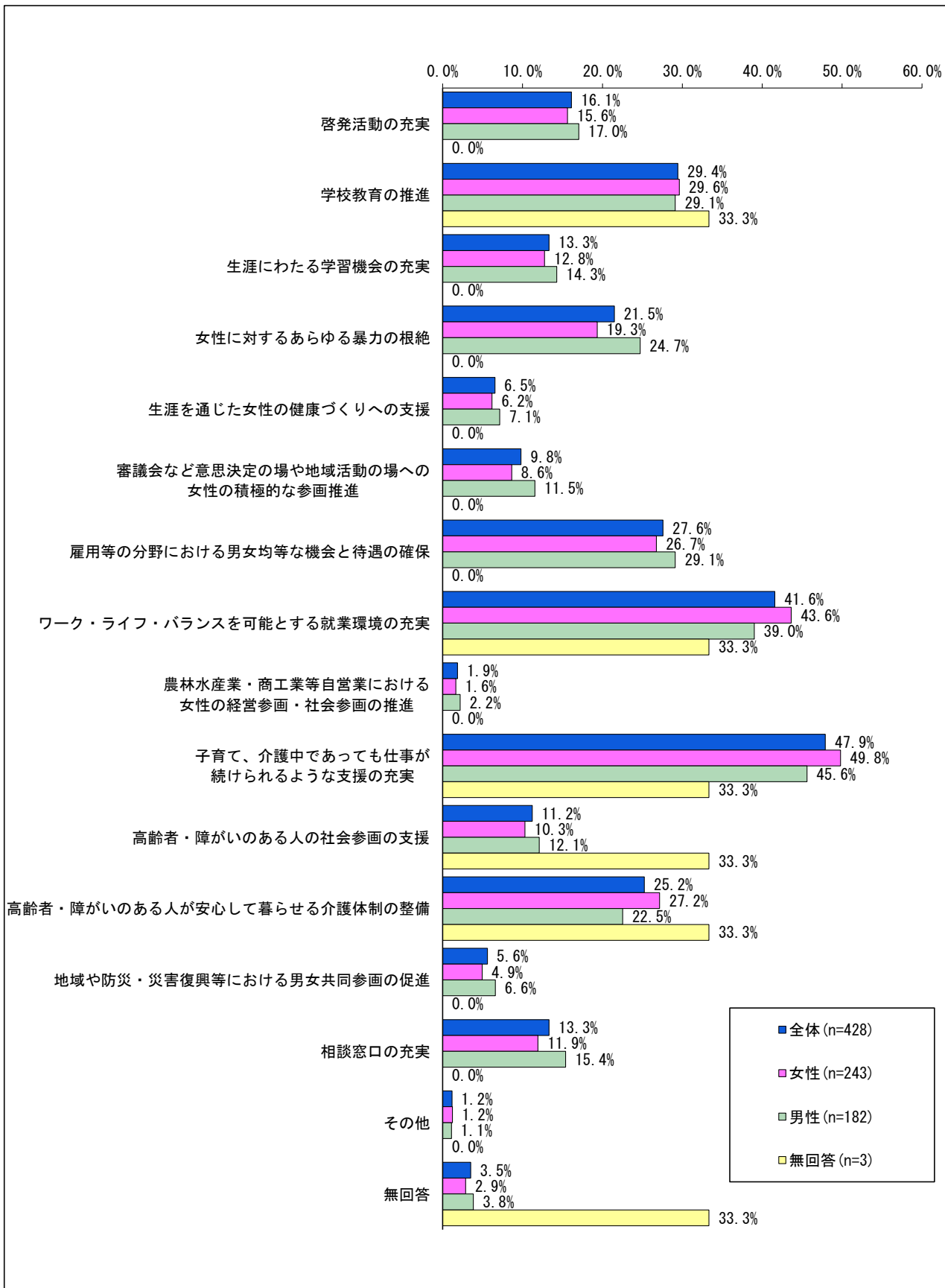
「24時間相談ができる」が「女性」58.8%、「男性」51.6%と、それぞれ最も高い。

次に「匿名で相談ができる」が「女性」は56.4%、「男性」は45.6%と続く。



問31 「男女共同参画社会」を実現するために、今後市が重点を置いて取り組むべきものは何だと思いますか。
(選択は3つまで)

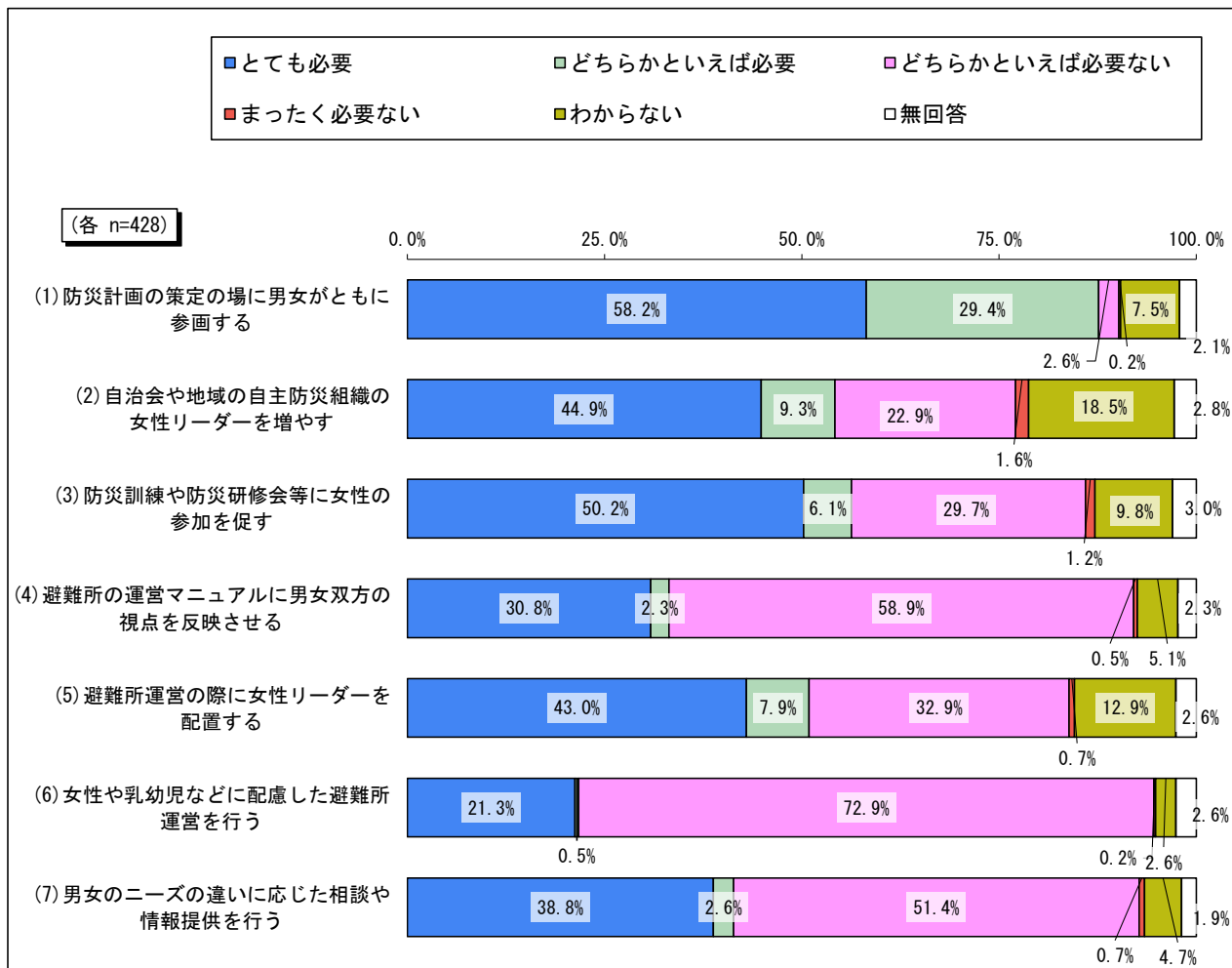
「子育て、介護中であっても仕事が続けられるような支援の充実」が、「女性」49.8%、「男性」45.6%で最も高い。「その他」を除き、一番低かったのは男女ともに「農林水産業・商工業等自営業における女性の経営参画・社会参画の推進」で、それぞれ1.6%、2.2%である。



問32 防災には男女のニーズの違いに配慮した取組が必要だと考えられるようになってきました。次の取組について、男女共同参画の視点からどの程度必要だと思いますか。(1つ選択)

「とても必要」「どちらかといえば必要」を合わせて最も高かったのは、「防災計画の策定の場に男女がともに参画する」で87.6%。最も低かったのは「女性や乳幼児などに配慮した避難所運営を行う」が21.8%となる。

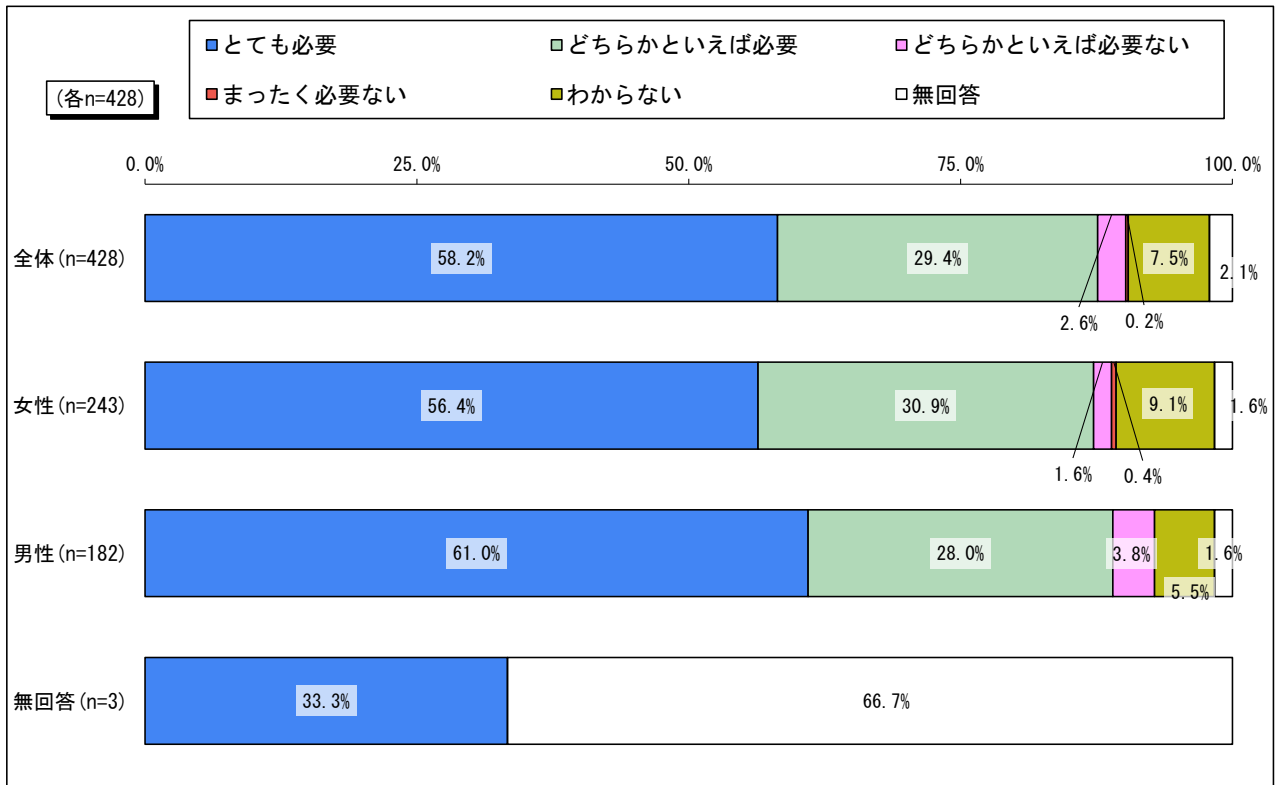
「まったく必要ない」「どちらかといえば必要ない」を合わせて最も高かったのは「避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる」の59.4%。最も低かったのは「防災計画の策定の場に男女がともに参画する」の2.8%となる。



	必要	必要ない
1 防災計画の策定の場に男女がともに参画する	87.6%	2.8%
2 自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	54.2%	24.5%
3 防災訓練や防災研修会に女性を積極的に参加させる	56.3%	30.8%
4 避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	33.2%	59.3%
5 避難所運営の際に女性リーダーを配置する	50.9%	33.6%
6 女性や乳幼児などに配慮した避難所運営	21.7%	73.1%
7 男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	41.4%	52.1%

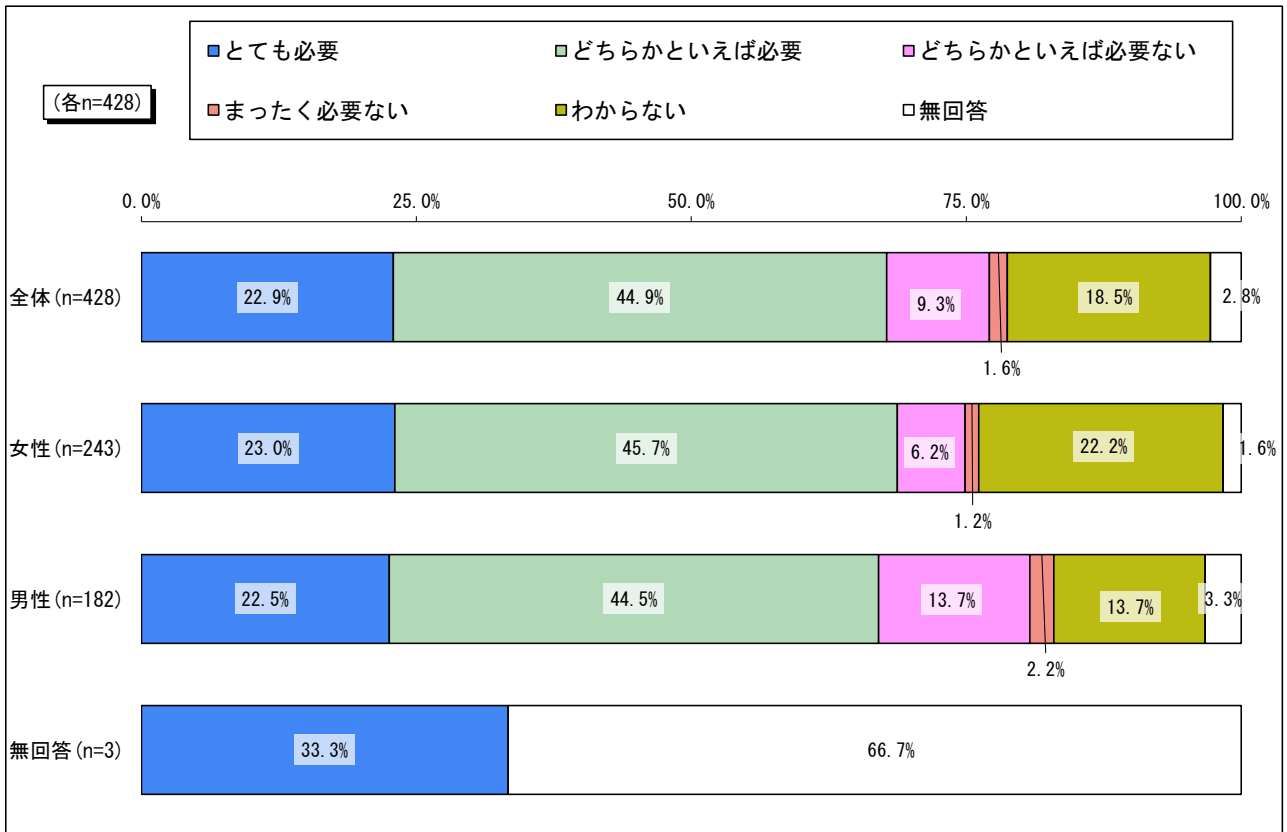
問32 (1) 防災計画の策定の場に男女がともに参画する

「とても必要」「どちらかといえば必要」を合わせると、全体で87.6%と高い。



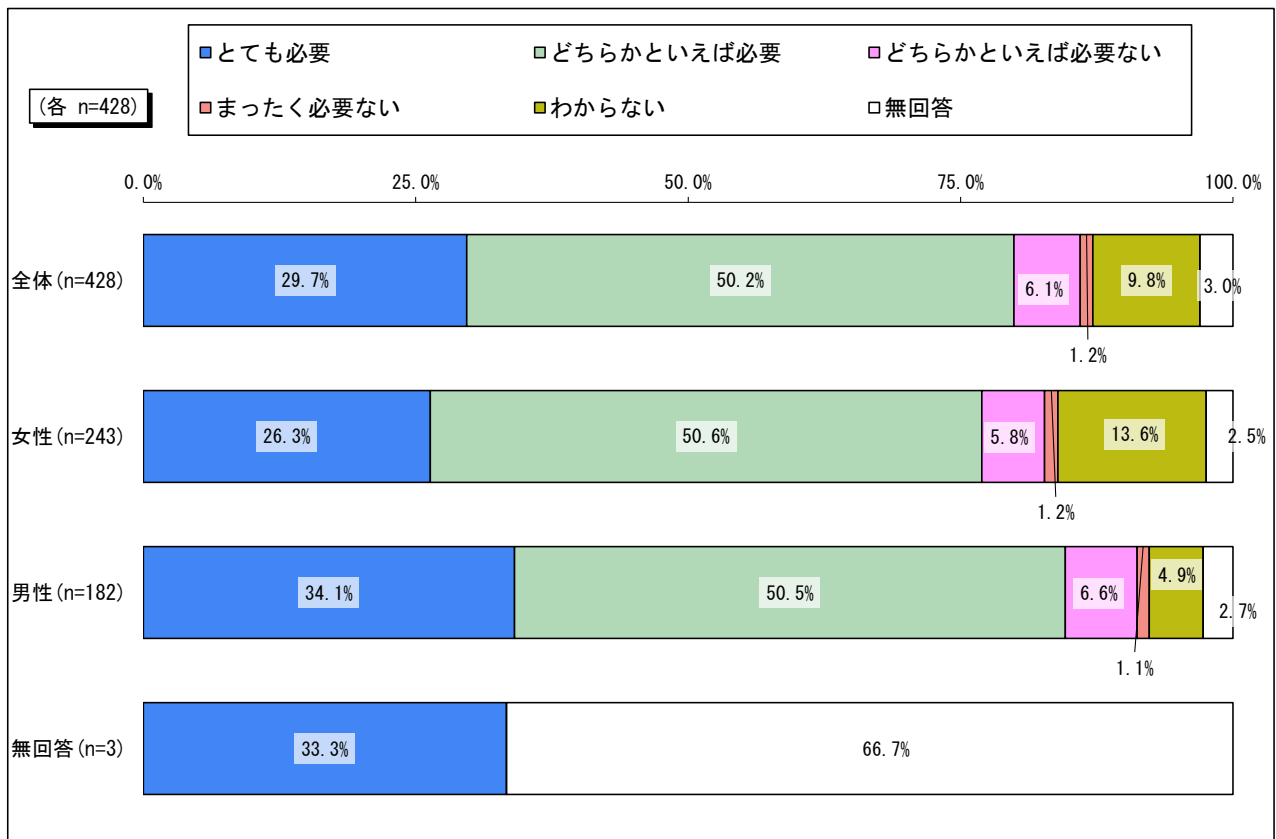
問32 (2) 自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす

全体で「とても必要」と「どちらかといえば必要」を合わせると67.8%となる。
 「女性」は68.7%、「男性」は67.0%であった。



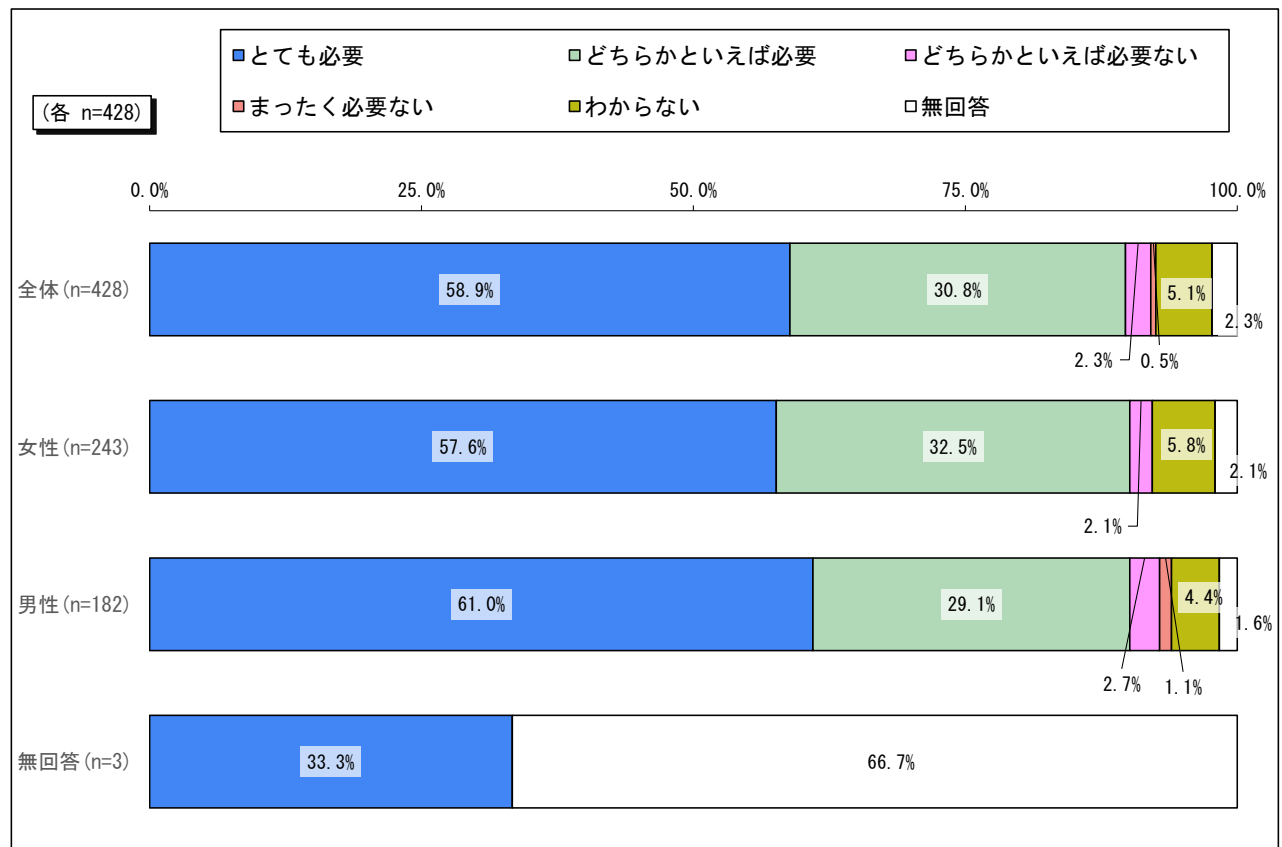
問32 (3) 防災訓練や防災研修会等に女性の参加を促す

「とても必要」と回答した「男性」が34.1%、「どちらかといえば必要」と合わせると84.6%であった。
 「とても必要」と回答した「女性」が26.3%、「どちらかといえば必要」と合わせると76.9%であった。



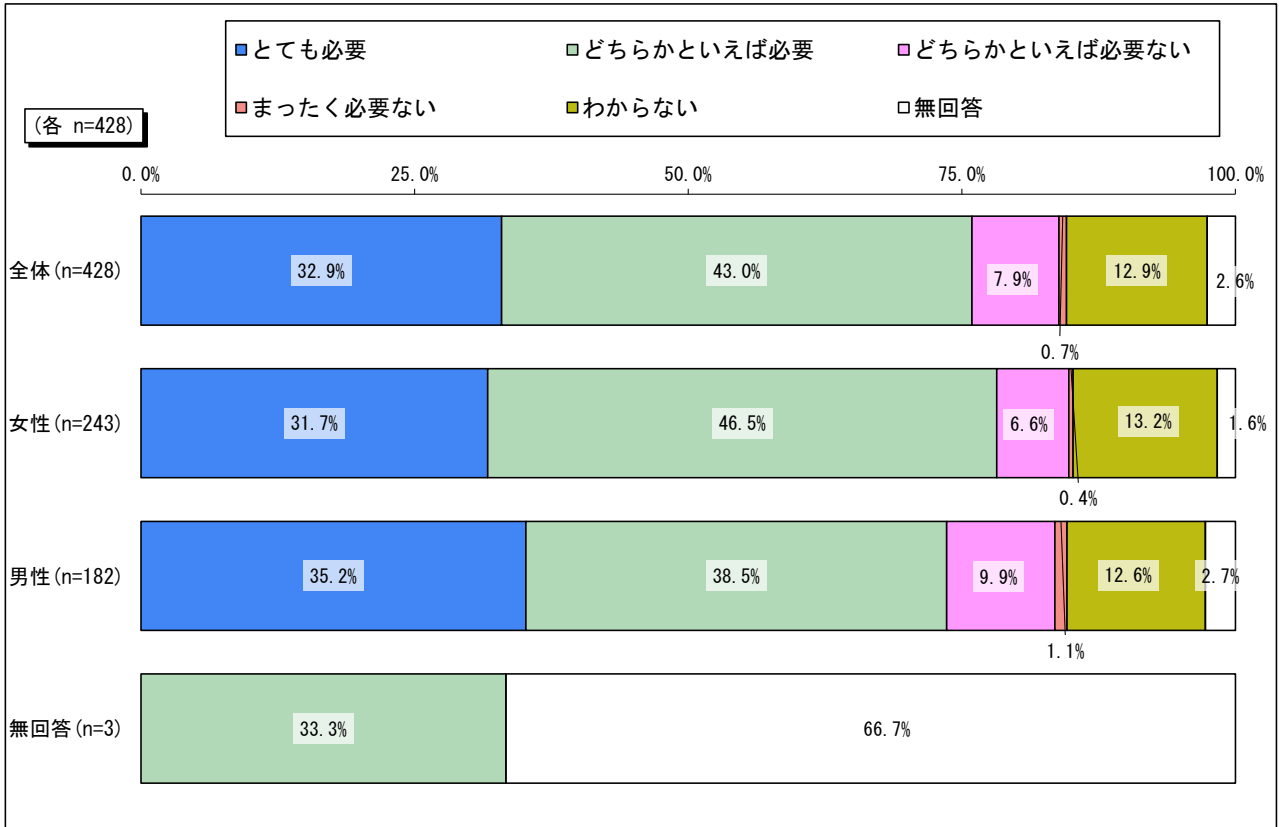
問32 (4) 避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる

男女ともに「とても必要」「どちらかといえば必要」の回答が高く、合わせるとどちらも90.1%となる。



問32 (5) 避難所運営の際に女性リーダーを配置する

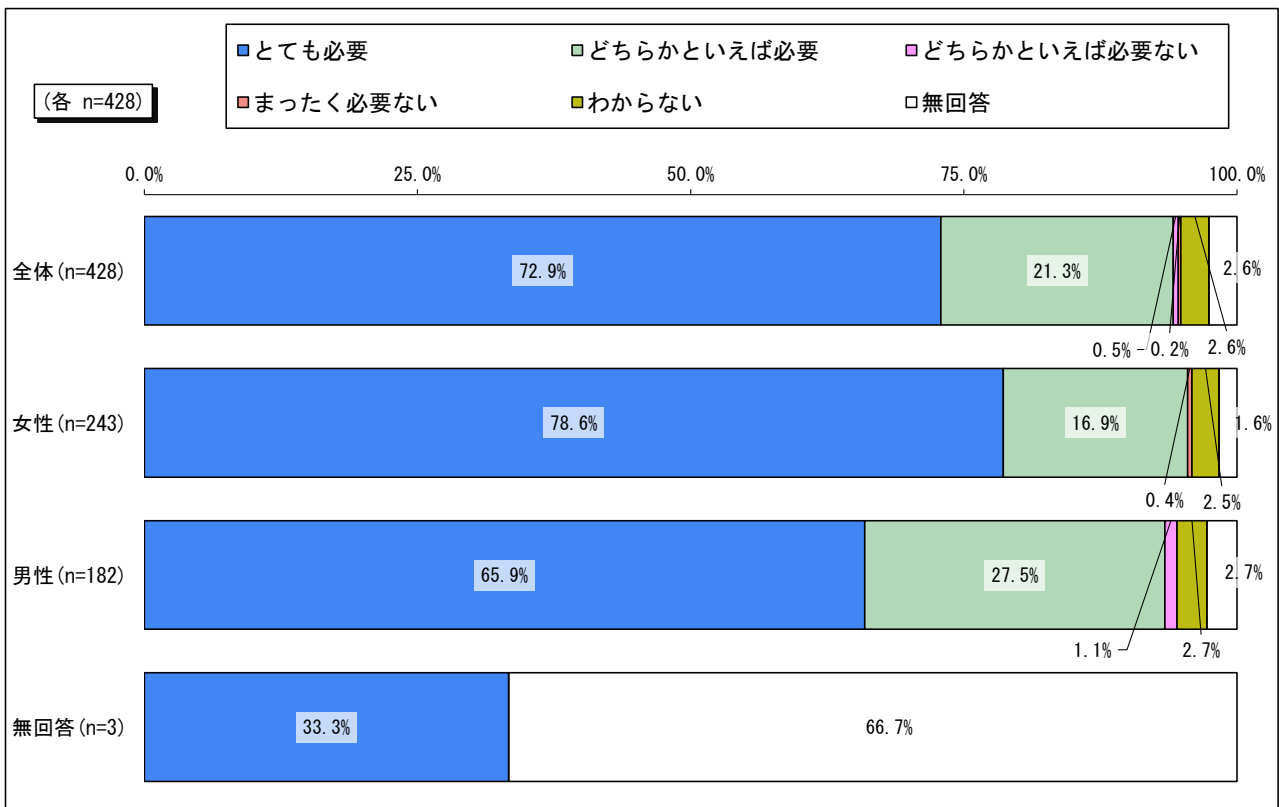
「とても必要」「どちらかといえば必要」を合わせると、「女性」78.2%、「男性」73.7%となる。



問32 (6) 女性や乳幼児などに配慮した避難所運営を行う

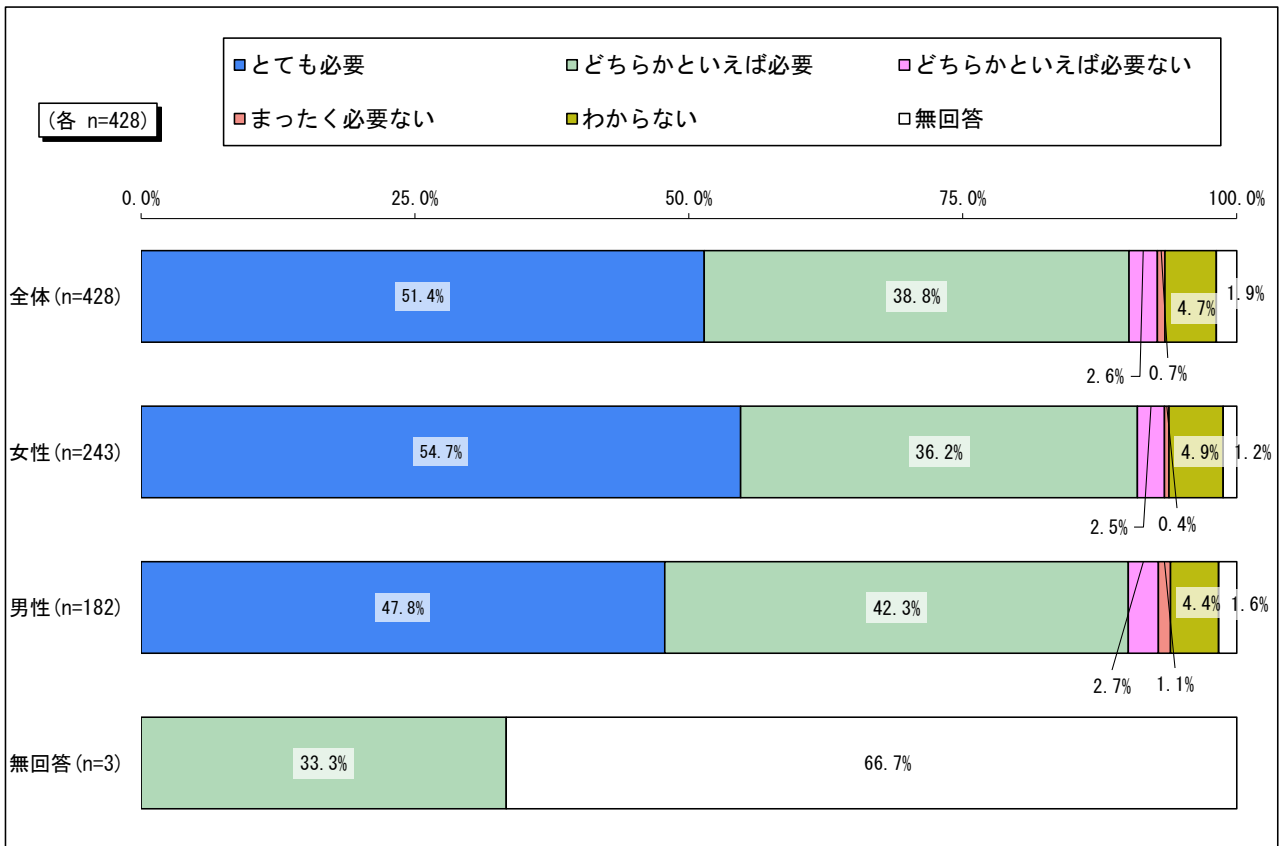
「とても必要」との回答は、「女性」78.6%、「男性」65.9%と高い。

「とても必要」と「どちらかといえば必要」を合わせると、「女性」で95.5%、「男性」で93.4%とかなり高い。



問32 (7) 男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う

「とても必要」との回答は、「女性」で54.7%、「男性」で47.8%、「どちらかといえば必要」と合わせると、「女性」90.9%、「男性」90.1%と高い。



【その他記載】

問3 あなたは男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか(特に重要だと思うものを3つ選択)

・親との同居、子どもの近所のあいさつ、近所のつきあい。
・1から10までのどの要素も必要だし大切だと思うので選べません。
・年齢や性別に(背景環境も)関係なく、本人の能力を評価してほしい。
・男女にかかわらず個々人が何に興味、関心、知識があるのか自覚する。それを会社や社会に対して発揮する方法を知る機会を作る。
・個性として受け取り、協力すれば、何の問題もないのに、といつも思っています。
・男女にかかわらず性差はその人物の要素の一つでしかないとは私は考えるので社会(仕事)における能力や成果、その人間のとなりを元に評価することを前提とする考え方の普及。
・男性女性の能力の差はもちろんだが、識別はいいが差別(女性は家事、男性は仕事など)をなくすことが大事だと思います。
・世の中の風潮として男女平等を謳っているが、男性にしかできないこと、女性にしかできないことが多々あると思います。それらをさしおいて男女全て平等にという概念は少し違和感を感じます。昭和のように男は馬車馬のように働き女性は家庭や子どもを守るという社会が日本の成長の基盤だったと思います。男女共同参画社会を否定したいわけではないですが、実際に今の日本の国力はかつてと比べて落ちてしまっている近年、今一度、本当に男女平等の社会、共同参画する社会が最適なのか考えるフェーズにあると個人的には考えます。良い糸魚川、良い日本にしていきたいですね。

問6 問5(1)で、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた方のみ、その理由をお聞かせください。(選択はいくつでも)

・問5の(3)について…育児は男女共同で行なうべきですが、母乳を与える事は男には難しい所があるので小さいときは女性主体となる事はあり。
・女性(母)にしかできないことがあります。女性にしかないやさしさが人を育てる部分でも大切であります。
・子供の立場で考えた時、幼少期は妻は在宅の方が良いと思います。
・昭和的な考えですが、やはり家庭的な女性にあこがれてしまいます。男はだらしない(汗)。
・性別に関係なく、親としてあたり前のことだから。

問8 男性が家事、育児、介護などに積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(選択はいくつでも)

・介護される側が、介護するのは“嫁の仕事”だと思っているので、主人(息子)が手を出すことをいやがる。そういう考えを改めるためにも公的な所でもっと男女共同をアピールしてもらいたい。
・男女関係なく、関わるのが当然という意識をもつ。社会に参画している日本人は関わる必要がある。介護者を女性を前提としたサービスをつくらない。男性を対象としたレクチャー講座などで計画しない。
・男性自身がやりたがらない。周りよりも本人の意識。
・私も昭和の男です。家庭内に於ける諸事(家事等)は、補助的な立場での考え方がまだ基本にあります。家庭内での協力は男性本人の意識を変えて行く必要性を感じます。
・個人の考え次第なので、制度や社会が変わっても変わらない人は変わらない。

問11 問10で(3)と答えた方におたずねします。その具体的な理由をお聞かせください。(選択はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| ・家族が死亡したため。 |
| ・育児に集中したかった(仕事と育児のバランスがうまくいかなかったから)。 |

問12 職場において、男女格差を感じたことがありますか。(選択はいくつでも)

- | |
|---|
| ・ガス水道局の夜間待機当番は、女性が担当から外れている。 |
| ・女性しかほぼいない職場だったのでわからない。 |
| ・女のいない職場。 |
| ・自分は女性中心の職場なので格差は少ないと思うが社会通念的には?~?であると思う。 |
| ・特になし |
| ・逆に女性ということで優遇をされることもある。 |
| ・クレームの言われやすさ、態度(言葉づかいなど)。 |
| ・働き方 |
| ・現在の職場は男性だけの職場なので格差を感じたことはない |
| ・上記の選択と被るか分らないですが、勤務時間と休日出勤などの呼び出しの頻度。 |
| ・製造業なので、危険が伴う仕事は女性は出来ない。 |

問15 問14で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

- | |
|---|
| ・昔の産休しかなかった |
| ・子供がいない |
| ・未婚だから |
| ・子供はいない、夫婦だけ |
| ・配偶者が自営業だったため休暇を取得せず |
| ・出産をしていない |
| ・自分自身がそこまでして育児よりも仕事が優先とは思わなかったから |
| ・育児をしていないから |
| ・取得が必要でなかった |
| ・経営側なので |
| ・退職を選んだため |
| ・結婚時に退職し子供がある程度大きくなってから再度働き始めたから |
| ・正社員枠で入職したのに、研修期間過ぎても、なんの進展もない。詐欺。 |
| ・無職だった |
| ・制度はあるものの、男性が育児休業を取ったという前例がなく、取れる雰囲気ではなかった。 |
| ・退職したから |
| ・仕事と育児、家事の両立に不安もあったし、子守りをしてくれる人がいなかった。何より自分で子育てしたかったから。 |

問17 問16で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

・親がまだ介護の必要ないと自分は思うから
・まだない
・自分ではしていない
・介護をしたことがないから
・経営側なので
・自営業なのである程度時間が自由になる
・転職する前の職場で、理解あり、勤務変更で、なんとか介護ができた。理解ある職場だった。
・介護が必要な人がいないから
・まだ介護が必要ないので
・会社の介護休暇に条件があわなかったため
・家族が担ってくれた

問19 問18で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

・まだない
・自分ではしたことがない
・介護をしたことがないから
・有給休暇で十分対応できた。
・経営側なので
・介護に合わせてパートの仕事時間を決めた為、介護休暇をとる必要がなかったから
・自営業で時間が自由になる
・必要なかった
・介護が必要な人がいないから
・家族が担ってくれた
・ない

問21 問20で「取得したことがない」と答えられた方におたずねします。その主な理由をお聞かせください。(1つ選択)

その他記載なし

問22 非正規社員を選んだ理由をお聞かせください。(選択はいくつでも)

・資格を取得したが、年齢制限があって正社員になれなかった。
・年齢の問題
・定年退職していますので、以降の人生はのんびりしながらも、おこづかいも必要と考えます。
・65才以上でも正社員として働けるなら働きたいです
・会社が正社員を雇える体力がない(財力がない)
・介護する家族が家にいるから
・自営業の手伝いとパート両立の為
・定年したため
・もともと若い頃より正社員として働きたい希望はあったが、持って生まれた体質や持病の関係で企業側が正社員に求める労働量や時間などの要素と折り合いが合わず、無理があるので仕方なく。
・子供を優先にしたかったから
・やりたいと思った仕事内容の仕事が、契約社員だった。
・体調管理がしやすいようにするため
・会社の都合により正社員の数を減らしたいとのことで定員以外は準社員への降格があった。
・子どもの行事や突然の体調不良で休みが多くなってしまったり、急に休まないといけなかったりで正社員だと休みづらいため
・正社員枠で入職したのに、研修期間過ぎても、まだ、パート枠
・まだ学生だから。

問23 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思いますか。(選択はいくつでも)

・今まで曖昧にしていた事が「仕組み」として取り入れられたり「法制化」されたりする。→ごまかしの出来ない社会へ移っていく。
・男女ともシンデレラシンドロームが緩和される。
・女性活躍の場はたくさんあると考えます。優秀な方もおられますが、社会的に見て女性特有の仕事をもっと確率し、地位向上を目指すべきと考えます。
・このままの税制、社保制度で行くならば独身が増えて子供が減る。
・過度に女性へ偏った意見が大きく取り上げられ、真の平等ではなくなる。
・男女だからではなく、その家庭の仕事の総量の割合を当人達で取捨選択できるようになる。例えば選択によって共働きが増えれば公的サービスを必要になるが、女親が仕事に、男親が家庭に注力する事もあるので各々の家庭の選択だとは思う。
・そもそも性別で考えていること自体に違和感を感じます。性別に関係なく優秀な人は優秀だと思うし、女性のリーダーだから云々と言うこと自体が違うと思います。

問24 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに、障害となるものは何だと思いますか。（選択はいくつでも）

- ・社会、地域、またはごく個人的な、ねたみ、ひがみの感情をふりかざす影響の大きい人物の存在
- ・製造業、建設業等現場職の女性が増加している今日です。工場生産に於いて、現場を分からない女性の登用は難しい点もあります。
- ・女性リーダーを増やしたいとは思っていない。
- ・男性が家事に積極的にならないと女性の負担が増える。
- ・女性のリーダーを増やさなければならないという思想。男女問わず能力のあるものをリーダーとする社会になれば良いが、女性をリーダーにすることが目標になってしまっている事実がある。その結果、能力のない女性がリーダーとなってしまう、チームが瓦解していく現場をみたことがある。
- ・希望しないのは女性だからではなく実績が不透明だから不安を感じるのではと私は考える。現在男性のリーダーが多い分野の次世代への教育が同じ男性へと続くのであれば、急に女性だからと採用されれば反発は多いと予想されるが、前世代から知識や経験などのノウハウを学んだ後継者であれば女性だからと反発は少ないかと考える。
長時間労働、広域異動の問題は男性だったら今のままで良いのか、女性を雇用するためには改善すべきは違うと思うし、その仕事の現場の内容によるものではないでしょうか？支援に関しても各家庭によるものと考えます。
- ・古い考え
- ・男性の女性差別がいまだになくならないこと
- ・障害は特にないと思います。その人がリーダーに相応しければ性別は関係ないと思うので。

問27 あなたは、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス等の防止や被害者の支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。（選択はいくつでも）

- ・ASD、ADHDなど発達障害診断の普及
- ・学生時に勉強をすれば良いと思う。
- ・被害者・加害者ともに精神面でのケアやサポートは必要不可欠ではないかと思っています。今まで自分自身やまわりの環境で見聞したケースで、幼少期のトラウマが関係していそうな事が多々あったように思われたので。
- ・どこに相談してよいかわからないですもっと公に知らせて欲しい。
- ・被害者が自分が被害者と自己認識する事
- ・道徳など学校での教育や具体例を理解させ、軽い物ではなく、罰せられる犯罪であるという認識をしっかりと持って貰うようにする活動。

問31 「男女共同参画社会」を実現するために、今後市が重点を置いて取り組むべきものは何だと思いますか。（選択は3つまで）

- ・わからない
- ・地域自治会等集会を可能な限りweb会議で実施し、女性参画の環境整備を推進する。
- ・一人暮らしの、女性にも、優しくして欲しい。リビングの電気切れて、困ってます
- ・「男性を」「女性を」よりも、国や地域が活性化し、市民が豊かな暮らしができるようになり、個人の選択肢が否定されない社会をつくること。

<自由意見欄>

問33 最後に、男女共同参画社会を実現するために、市に対してのご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

・社会の変化に追いついてこれない方が多いと思います。
・女性の社会進出にもまだまだ否定的な方が(年配の方が特に)多いです。
・介護でも、女性がやるべきという考えの人も多く、仕事との両立がとても難しく感じています。
・男性も性別だけで判断され、負担を強いられ、大変な思いをしている人も多くいます。(学校での役員選考の際...など)
・男女関係なく、声を上げ、行動に移せる様な仕組を、地域活動を通して、場を増やしてほしいです。
・相談窓口が正直、分かりずらいです。市役所内のどこにあるのか等、パッと見分かりやすくしてほしいです。

・上記事項それぞれにおいて、勉強会を設けて、より多くの市民への理解を広める。

・ひとつの部所、ひとつの窓口だけではなく、横の密な情報共有、連携が必要

・男女共同参画を実現し、自治体がどのように発展していくか、目標とする姿を示していただければありがたいです。

・このアンケートについての調査結果を回答者へ配布。ただ市が知りたいだけでなく、回答者への理解協力、知る事が大切かと…。じゃなければ、何の意味のない調査。ただ市が、知りたいだけ?

・60を過ぎて無職の人には過去2年間の問いには、かなり無理があるように思います。キャリアで働いている人を、ターゲットにしていると考えれば別ですが。

・子どもが熱を出したりして会社を早引きする様な時、何かしら子どもを看てくれる所があれば良いと思う。又は会社の理解・人材の補点。

・女性の社会進出には家事・育児がネックとなる事もさることながら女性自身の意義改革が最重要と思う。特に地方に於いては古くからの仕来り等の存在が根強く、なかなか女性に声をあげづらい。埋もれた感性を引き出すにはきっかけ、周囲の助言が必要なのかも知れない。なんらかの方向・糸口を見出すきっかけを、まずは行政あたりが担ってくれればありがたい。

・女性の経済的自立の支援

・男女同数程度のリーダーが必要
・女性が自治体などのリーダーに参加重要
・男性が女性への理解が必要

・障害のある子供たちが安心して暮らせる社会作り
・年金受給者や、障害者(児)に対する非訪中傷など

・男女共同参画社会への協力と努力には大変意儀がありますが現状は中々難しいです。此の所を改善して追求しなければ確実性はない様な気がします。一つずつ一つずつ実現に向って時間がかかりますがお願い致します。

・今の30歳ぐらいの方はそれなりに男女を理解があると思うが、それ以上から、乖離が生まれてくるような気がしている。なので、年を追うごとに解消されるような気がしています。

・気軽に相談できるような場が少ないと思います。困難に直面してもどうしたら良いかわからない。情報が欲しいです。

・普通に生活していて男女平等や共同参画について考える機会自体があまりないように感じています。このアンケートがそのようなことを考えるきっかけとなりました。

・地域の協力のあり方

・性別、個性に年齢や出身地、育った、生きてきた時代の文化、空気感など、世の中には自分と自分以外の他者を分けへだてる要素がたくさんありますが、それらはただの違いであって否定するようなものではなく、区別することはあっても差別にはならない社会になることを望みます。

・機会の平等。男女平等に活動する機会を進めるには、教育の場、家庭での子どもに対する意識付けの必要性を感じます。親、教育者、自治体の方々から、意識改革をしないといつまで経っても絵に書いた餅ではないでしょうか。女性が家庭を守り、男性が外で働く事は原始時代より身体の中に組み込まれたもの。私は生物学を論じるつもりはありませんが、自然に生きる事の中で、女性が子どもを産む事に着目し、その期間安心して休める環境を整える必要がある一方で、古来より性別役割分担の考え方にも賛成する所はあります。

女性の社会参加が益々期待される今日ですが、行政の立場からも、女性活躍の土俵を用意される事を強く望みます。

・少子高齢化の中、各地域で行動出来る人は全員で今の糸魚川市の中で活動して行かなければ次世代が続いて行けなくなってしまうのではないかと考えています。

・リーダーになり得る優秀な女性が外部へ流れていきにくいような自治体全体の包括的な取組が大事と自論を持っています。小さいコミュニティ単位では、まだ男性優位な空気を感じます。中長期的な視点でできることをしていただきたいと思います。

・児童クラブの利用料を安くしてほしい。長期休暇だけでも。平日も帰宅時間が早く、ふつうに正社員としては働きづらい。

・幼稚園も青海地域は保育園の選択肢がないので。お盆、年末年始等の休みが長くて困る。

・男らしさ、女らしさ、より人間らしさを考えてほしいです。

・各地区のリーダー(区長等)に女性が少ないし、いない場合が多いです。もともと各世帯から代表1人が総会に出る形が基本です。男性中心になります。女世帯の場合に出席する人がいるというのが実情かなと思います。この事を変えていくやり方を各地区ごとに考えて行きませんか？とすすめていくというのはどうでしょうか？本来なら家庭では女性の意見が強いです。

男は頭があがらない！！それを地区で先ず現出していけたらいいと思います。

・地方都市の人口減少の要因には、少子高齢化や東京圏への一極集中等が指摘されています。糸魚川市には大学や専門学校等の高等教育機関が無いことも高等学校を卒業した若物が東京圏に出て行く要因です。又、大学や専門学校等の卒業時にも専門的知識や技術を生かす産業や職場がないことも戻らない原因です。

又、若い女性のうちには地方都市では男性主体の社会構造で閉鎖的であると考えられるむきもあります。女性は家事・育児を担い、看護や介護の職業が多く、勤務体制も正社員に比べパート主体なのが実体です。教育機関や企業の誘致を図り地域の経済活性化や雇用創出に取り組んで欲しいと考えます。

糸魚川市の第3次総合計画には今後取る施策が詳細に提示されています。着実に達成されますことを願います。

・安心安全な社会を構築するには、警察、消防のOBを参加させた話し合とし、経験者からの意見を参考にしたいかがですか

・豪雪地域に住んでいるので、屋根雪下ろしが大変です。一斉除雪で、道路側は、除雪車が排除してくれますが、横や裏側は、道路側まで下ろすことはできません。

そのため、自然に雪が消えるまで日数がかかり、大雪の場合大変な日々を過ごしています。私自身も、高齢になるに伴い、心配でなりません。

・地方の自治活動等においては、男が中心になって行うものだという意識が、女性自身に強く、村の役職等ほとんど男がやっている場合が多い。人口が減り高れい化が進む中、女性にも多めに、村の運営にかかわってほしいと願います。

・みんなに良い市は予算的に難しいと思うが男女、大人、子供、関係なく平等な市であってほしいとは思いますが。子供に対する支援はとても手厚く感じており、ありがたいです。

これも皆様の納める税金で助けられていることですし、感謝しております。

市の方がどう税金を使うか考えてくれる時「平等な社会」というのはとても大事だと思うので、このように市民の声を聞いてくださること、とても嬉しく思いました。糸魚川が小さくても「良い地域」でありますように…。よろしく願いいたします。

・街灯を増やしてほしい。

・消雪パイプを雪が積もりやすい所全部に設置してほしい。

・放課後に高校生が遊べる所を増やしてほしい。

・色々な悩みをもった方々がおられます。相談にのっていただける所がこんなにたくさんあるとは知りませんでした。相談出来る所をもっと誰にもわかるように知らせていただく事が出来れば幸いです。

・1個人一人の人としてその人のそこにある環境を整える男女という表現も、使いづらいアンケートに答える間自分のこと、回りのこと少し、考えてみる事ができました。誰かとつながる、つなげる、つながっている安心感、その場所の提供が行政さんのお仕事の一部なのかなとこのアンケートも含めです。が、そう思いました。

・それぞれ、家の事情、個人の考え等、家の中のことは家族で話し合い進めることが大切だと考えています。ありがたいことに、主人は、主人の父が台所に立つような方だったので、抵抗なく料理や家事全般を私が仕事でいないときは、主人が休みだと、おまかせして、仕事に集中させてもらってます。でも、やはり、やってもらってるという気持ちがあるので、男女平等という考えには、いたっていませんね。主人にも同じ気持ちがあるから、家の事をやってくれてるのかも。

・もっと働き口を作り、商業(ドンキ・ホーテみたいな)施設を作り、もっと糸魚川の町をにぎやかにしてほしい。こんな調査をする暇があるならもっと糸魚川の町作りをなんとかしてほしい。それができてからこうゆう問題にふれるべきではないか？

・私は不勉強な人間なので、「参画」がどの様な意味なのか知らなかったので、検索してみた所、「参加」は集まりに加わる事、「参画」は、積極的に意見を出す、意思決定に加わるという様な意味だと知りました。「計画」の“画”なのですね。その様な関わり方であるならば、個々人が「これは他人より興味、知識、経験がある事柄」を自覚し、それに自信を持って、発信する場を知る事が重要だと思います。その結果として男女の隔たり無く活躍できたら良いですね。

ただ、現実には性差は存在するので、(筋力、コミュニケーションの方法等)ジェンダー偏重になり過ぎない様に注意が必要だとも思います。

あと問28に関して、一方的な被害や未成年の保護は必要だと思いますが、成人した人が自由意志の元で決めた事柄に行政が嘴を突っ込まない方が良いと思いますし、インターネット、SNSトラブルはむしろ教育の分野なのでは？と思いました。

あとフィクションへの規制は思想、信条の自由、ひいては内心の自由の侵害へと繋がりががあると思いますので、慎重に願いたいです。推理小説なんて昔から暴力、殺人描写だらけですし。

先の市長選では女性候補が2名出られましたが、男性が当選されました。ただ、これは女性2名が票を食いついた結果と思っています。お2人の今後の活躍をお祈りしています。

・居場所支援(不登校、引きこもり、LGBTQ、精神疾患等)

・今回のアンケートの間3(2)にもありましたが、「固定的な社会通念、慣習、しきたり」がこの地域には深く根づいていると思います。具体的に挙げると「女性は早めに結婚し、子どもを産むのが当たり前」、「妻は夫を支えるために、家事、育児をするのが当たり前」などの言葉は言われた事があります。昔に比べてこういった考え方は減っているとは思いますが、女性の活躍を推めるならば、強要されるべきではない事だと思います。そういった考え方をさらに減らし、望んだ働き方や生き方を選べるよう、啓発活動をお願いしたいです。

また、妊娠、出産、子育てに関するサポート内容を書面やSNSなどで深掘りして発信していただくと、受けたいサービスなどの検討、利用がよりしやすくなると思います。「こういったサポートを受けたい」「今のサポートでは不十分である」など利用者の要望も伝えやすくなると、どんな問題を解決していく必要があるか分かりやすいと思います。

(障がいのある方の生活について)

・障がい者の活躍の場が、とても少ないと感じています。

・賃金のとてもとても低いのではないのでしょうか？

・障がいのある方の生活の不安や、そのご家族の気持ちに市はどのように寄り添っているのでしょうか？

子ども、高齢者の支援もとても大切ですが、障がい者の方々の支援も、後まわしにしないようにしていただきたいです。障がいをもつ子どもたちが、大人になった時に笑顔でいられる(生活している)糸魚川であってほしいと思います。

・市民平等な社会の実現。

・市職員、自らの気持ちの良いあいさつ。

・社会が変わろうとしていることを啓発することはとても有用だと思います。結局は男女の相互理解が進まないことには何も変わらないと思うので。

・昨今ではLGBTQなどジェンダーな考え方が多くなってきました。男だから女だからと決めつけるのではなく、男でもできる女でもできる活動の機会を企画していただきたいと思います。

・20年後には意識改革が進みそうになっていると思います。

・人口も減少している昨今、職場や地域活動において、女性だから男性だからという考えにこだわらず、自身でできることはなんでもやっていかなければならないと思っています。

<ul style="list-style-type: none"> ・女性から男性に対するDVもあると思いますが、なぜ女性だけを擁護するのか分かりません。 ・母子手当の充実は当たり前には存在していますが、父子手当の充実も必要だと思います。 ・男女共同参画社会以前に、糸魚川・能生・青海で下水道料が一律なのに対して、上水道料金は地域によって違うのはなぜですか？能生地域の方が上水道料金を多く負担しなければならない理由はなぜですか？『梶屋敷から水を引くパイプが長いから仕方ない』と言われても納得出来ません。その理屈だと各地域でも住んでる場所によって差が出ると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等を唱うのであれば、特に固定概念の強い高齢者に理解と知識の共有をしてもらう必要があると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等を実現させるために、男女の公平性を損なう本末転倒な結果になってしまわないよう気をつけてほしいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市もパートナーシップ制度を導入すべきです。
<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市では、まだまだ啓発なども遅れていて、われわれ市民の考えも古いと思う。男女共同参画社会の内容も、分かっていたとしても他人事で、自分達には関係ない、昔からの考え方、やり方が良いと思って人が多いと思う。まずは市役所内、市に関わる方々からの実現をお願いしたい。そこから、少しずつ市民に広がっていくのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの主旨とは少しずれるが、「平等」よりも「公平」を目指したほうが合理的だと思う。なんでもかんでも平等にすると余計生きづらい社会になってしまうと思う。だからこそ人々が公平な社会であるべき。ただ、自分が男性だからかもしれないが、糸魚川市に住んでいて男女どちらかが差別されていると感じたことはあまりないので、その面ではとても良い街だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会の実現は大切なことだと思います。ただし、本調査の質問にもニュアンスが含まれていましたが、女性のリーダーを増やすことを目標にすることは論点がずれていると感じます。難しいことですが、男女問わず、資質や能力を見極めた上で適任者をリーダーとすることが大切だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・古い事業所は女性用インフラが整備されていない場合が多い。女性雇用を促進させるため、インフラ整備に補助金を出す等の制度があった方が良く思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の理解が大切かと思えます。男女共に能力や仕事内容が適切に評価されること、子育てや介護という理由だけでなく、早く帰れる勤務形態にすることなど。
<ul style="list-style-type: none"> ・女性を強制的にリーダーや管理職にすべきではない。 ・能力があれば男女問わずリーダーや管理職になるべき。 ・女性の割合を強制的に増やすのは良くない。 ・能力がないのにリーダーや管理職に女性の割合を増やしたいという理由だけでなるのはおかしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・何をやるにしても予算が掛かるとは思いますが、必要なものに対しては、予算を掛けて下さい。
<ul style="list-style-type: none"> ・小さいコミュニティで、昔からの慣習がまだまだ残る地域だと思います。ますます人口が減っていく中で、少しでも皆が住みやすい地域にしていければいいなと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回のアンケートのように意見のある人物(男女関係なく)に確認を取る機会その物や窓口などの場所はあると良いとは思いますが。環境や抑圧を受けるなど声を上げられない人物はいないと言い切れませんので、現在助けを求めらる方々に届くような取り組みや避難所があれば安心の一助にはなるのではと考えます。 ・女性の社会進出には女性のリーダーの数が多くする事ではなく、男女の違いを相互に理解できる環境が本質だと私は考えますので、急いで女性リーダーを選出するような急な変化ではなく、その前段階から徐々に変化を加えることが出来るように切っ掛けや機会の増加を取り組める制度など意識改革を目指すのはどうでしょうか？
<ul style="list-style-type: none"> ・固定観点に囚われず、新しい視点を取り入れてほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市では高齢化が進み、地域活動や家庭内の介護負担が一部の方(ずっと同じ人)に集中しがちです。男女にかかわらず、介護や地域運営(町内会)の負担を分担する仕組みづくり(相談体制・支援サービス・担い手の確保など)が出来ると良いと思います。ジェンダー平等は“女性の負担軽減”だけではなく、“地域全体の持続可能性”にもつながると思いますし、そうなるような政策を皆んなで考えるべきでしょう。
<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画と言いつつ、音頭を取っているのは男性達のような気がしてならない。女性自身がどこか役所とか社会にただ不満を並べている状況なのでは?と思う。自身で変えていくという気持ちと勉強が必要なのでは?男性と女性の出来る事は違うと思うし、互いに協力出来るような支援してもらえればいいかな。

・糸魚川市は産婦人科や婦人科等女性特有の医療面が不安視されており、新しく家庭を持つ際や、移住する際に大変住みにくいように感じます。そういった点からも改善していくことで女性が今以上に安心して暮らすことができ、また地域に貢献する場が増えるのではないかと思います。

・私は男性。人間には「男性脳」と「女性脳」があると思っています、男女に向き不向きがあると思っています。経験上の話です、最近強く感じた事がありました。女性は重たい仕事をすごく嫌がるし、すごく気分屋、すぐにセクハラをチラつかせてくる。言葉は悪いですが、すごく扱いにくいと思うようになりました。
・女性がリーダーになるのは素晴らしい事だと思うが、ふさわしい女性になって欲しいと思っています。女性リーダーを増やさないと言われ、増やさないやいけないのでしょうか。リーダーにふさわしい人物なら誰でも良いと思っています。
・男女共同参画社会の実現とありますが、何にでも通ずると思いますが、選択肢の多さが重要だと思います。

・田舎だからこそ年配の方の「女は家庭、我慢、男をたてる」という固定観念が根強い。
また会社の中でも小学校入学前の子どもを育てながら働く女性社員がいるが、子どもの看病や自身も風邪や体調を崩して休む事が多く、有給休暇も足りない。子どもの介護の休暇制度があっても使いづらい雰囲気になっている。
また、周囲(男女とも)の子育てに対する理解も低く、その社員が休むと「また休んだ」「すぐ休む」など陰口も出ている。休んでいる本人が会社に迷惑をかけてしまったと、切ない気持ちになっていることにすら気づけない。気づかない。
私はその社員の上司であり、本人の気持ちや他社員の陰口の双方を聞いており、なぜ理解出来ない社会なのだろうと憤りも感じている。
人口減少は国全体で取り組む課題であり、子どもがいなければ人口は増えない。休む状態が生涯続く訳ではなく、この数年間は会社全体で彼女をフォローをしようという気持ちが全く感じられない。産休育休後にすぐに復帰した場合、休む機会が増えるのだから、休みやすい環境はもちろんだが、数年間は特別休暇などの有給休暇とは別の休める日を支給してほしい。

・子育て中の女性が市のイベントに参加するのに保育ルームの設置などが進んでいる一方で、地域の集まりは、19時半などからのことが多く、子どもを家に置いての外出には抵抗があります。防災やそれに限らずさまざまな場面で意見を反映させてほしいと思いつつ、直接発言するのが難しくても意見を反映させてもらえるような場を設けてほしいと願います。

・県外から来たものですが働くところが少ないと感じます。やりたい仕事ができないです。

・現実的に一般的な子育てをしている母親(家事をしている父親も含む)は家事をしていて、上記のような活動やリーダーになる事というへの興味すら湧きません。共働きでなければ資金に余裕がなく生活出来ない為です。結婚していない人は、そもそも実態感覚がないので興味は湧きません。仕事バリバリしたい女性は興味湧くでしょうけど、市内では少数なはずです。賃金の上がらない世界(特に糸魚川)では、男女共にこのような事を考える余裕のある人は少数なはずです。賃金の必要ない、結婚していない高齢者や、子育ての終わった高齢者は考えるかもしれません。それも過去を振り返るだけで、現在の話では無いはずですが、そのような年代から意見は出るでしょうが、現役世代には届きません。よって世界的には必要な事ですが、糸魚川市にとっては時期の早い話です。こちらに予算を割く事は当面かなりの非効率な市政運営となる気がします。

・言い方が悪いかもしれませんが、男性優遇、女性優遇にならない様にしていただければと思います。どちらに偏っても共同ではないと考えますので。男性がしている事は女性もしているかもしれないという事を忘れないでいただききたい。逆もまた然りです。

・女性が多い職場(看護師さんや保育士さん)を男性が経験・体験する場を設けて仕事の大変さを男性に理解してもらえませんか。

・行政は大きく門戸を開いて相談を受けやすい環境、姿勢が必要。公平な目、耳、心を常に持ってほしい。私たちの住むこの街が、どこにいても自慢できるような街であることを心から願っています。